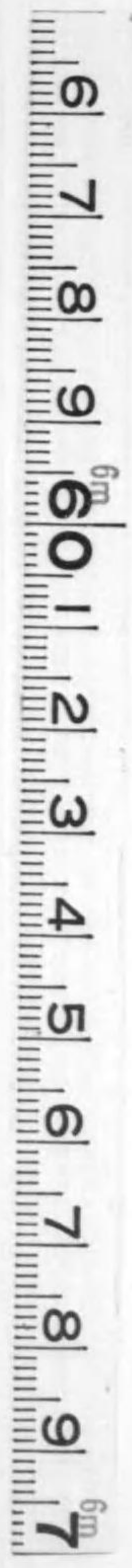


345  
5



始



古文眞寶前集抄

文學博士  
文學博士  
文學博士

三島毅先生  
服部宇治吉先生  
高瀬武次郎先生  
久保得二先生  
校訂

精養軒書美十冊

古文眞寶前集抄  
笑雲和尙

大正  
3. 6. 22  
丙交

東京 博文館藏版

解題

(一)

古文眞寶の編者に就いては、古來異說頗る多し。今日普通流布する坊本には、元の順宗至正二十六年鄭本の序を冠すれども、序中、毫も編者に言及せず、わづかに林以正といふ人、この書を坊間に得て、校訂を加へ、註釋を施したるを、その弟子余某、鄭本にその本末を敘せむことを請ひし由を記するのみ、然れども、卷末に載する明の弘治十五年青藜齋の跋に據れば、この書は、元と宋の徐州永陽の黃堅といふ者の編選に係りしを知る。かくて、上述の如く、元の林以正の校刪を經、鄭本、これが序を製して、世に弘布せしものにして、もとより疑を容るべき餘地なきが如し。

さはいへ、以上諸家の事蹟は詳ならず、黃堅は、宋人と稱すれども、書中に謝枋

得の菖蒲歌を採録せしを見れば、蓋し宋末より元初に及び、枋得に比しては、もとより後輩に屬すべき人なるが如し。林以正、名は禎、福州三山の人にして、別に聯新事備詩學大成三十卷を編せりといふ。鄭本、字は子文、建昌盱江の人といふのみ、その他は、毫も考ふるところなし。青藜齋、姓名詳ならず、唯だ跋文中に撫巡之暇とあれば、地方官吏にして、多少好學の士たりしを疑はず、而して、この跋文は、雲中の有斐堂に寓する時の作に係るといふ。諸家、すでに史傳に其名を載せず、おもふに、郷塾の學究輩に過ぎざればならむ。

或は、この書を以て何晦夫の編に係るとなすものあり、然れども、何晦夫が編校せし古文前後兩集は、別に存し、これを今本古文眞寶に比して、十の八九までは、載するところ、相同じと雖も、要するに、異本として見るべく、他に同人が註釋を施せし古文句解の一書あれども、又別本なれば、この説、もとより非なり。なほ萬曆十一年の版本に據れば、明の神宗の親撰に係るとなし、又別に古文大全と

題するものあり、こゝに於て説を爲すもの、或は曰く、おもふに是れ、狡賈輩、謝疊山の文章軌範に倣うて、この書を作り、名を村夫子に借り、或は以て軟撰となし、或は名を異にして實を同じうし、以て射利の用に供したるならむと。道般の臆測、亦た必ずしも其理なしとせず。

然れども、こゝに予が鄙見を述ぶるを許さば、乃ち敢て下の如くいはむとす。本書は、前後兩集を擧げて、蓋し黃堅の編選に係れりとなすべく、古來傳ふるところ、驟に否定すべからず。その之を他人に托せしは、論者の説の如く、坊賈の狡獪、乃ち然るならむと雖も、獨りこの故を以て、併せて、累を黃堅に及ぼすは、稍や早計に失するなきか。要するに、その人もとより顯著ならず、今日より之を考覈するに由なき以上は、居然、その舊に依るを以て可となさむのみ。

(二)

古文眞寶とは、讀んで字の如し。古文とは、古代文章てふ義にして、詩文を併せて之を言ひ、漢書司馬遷列傳に「年十歲則誦古文」といへるは、蓋しその出處なるべし。古文は、別に科斗等の古代文字を指すことあれども、こゝには、全く關係なし。眞寶は、學者眞實至寶の義にして、孔安國書經の序に「是故歷代寶之以爲大訓」といひ、漢書五行志に「聖人行其道寶其眞」といひ、王弼の老子註に「懷玉者寶其眞也」といひ、六學僧傳の無著傳に「心裏無瞋是眞寶」といひ、朱文公の遺經閣詩序に「個是儂家眞寶藏」といへる等に本づきしならむか。

## (三)

この書、すでに宋人の選に係ると雖も、明史藝文志四庫全書提要等に收載せず。蓋し彼等に於ては、士大夫の間に、さばかり盛に行はれざりしが故なるべく、その妙選に非ざること、もとより論なし。

本書の内容は、前後兩集を以て成り、前集は、卷初に勸學文を載せ、次に五古七古の長短篇歌行吟曲等、諸體の詩を載せ、後集は、辭賦說序記箴銘文頌傳碑辨表原論書等諸體の文を收め、類別して觀覽に便し、その入選の作は、七國より宋末に至る。然れども、齊梁以前は、主として文選に據りしもの、如く、又後集の文にして、文章軌範と符合するもの、二十二篇の多きに上るを見れば、編者は、一原集に就いて採選を施せしに非ざるべく、最も手近き數種の選本を本として、更に取捨刪補を施せしやの疑なきこと能はず。かくの如きは、全然村學究の所爲にして、その人の顯著ならざる、もとより當に然るべきのみ。

その卷帙、すでに浩瀚ならざるに、遍ねく諸體を網羅して、初學に便せむと欲する以上、その選の公平完備を望むこと、蓋し非なるべく、この點よりいへば、この書、亦た多少の價値なきに非ず。但し、その部門を分つて、首に解説を著けざるが如き、同題連作の詩を數處に分つて掲載せしが如き、作者を擧ぐるに、或は名

或は字、或は號を以てして、絶えず一定せず、且つ二三の誤あるが如きは、断じてその體を得ざるものといふべく、或は匆忙の餘に成り、或ははじめより深く意を用ひざるの致すところならむか。

然りと雖も、收載するところの詩文は、大抵人口に膾炙する名作にして、前後兩集を通覽すれば、略ぼ歴代の代表的傑作を誦習し、且つ體製の變を知るの一端たるを得べく、その一たび我が邦に入つて流傳し、今に至つて廢せざるもの良に其故なきに非ざるなり。

(四)

この書の今本は、前後兩集各十卷なれども、古來異本として卷數同しからざるものあり。わが内閣所藏の朝鮮刊本は、前進士宗伯貞音釋後學京兆劉刻校正と記するものにして、後集は卷數同じきも、前集は十二卷あり。又明の葉向高の

註釋せるものは、古文大全と題して、卷數前後各十卷あり。而して、評林註釋古文大全と題するものは、後集十一卷あり。又萬曆刊本の古文大全は、前後兩集合せて八卷に過ぎず、しかも、載するころは、却つて二十卷本より増多せりといふ。わが邦普通の流布本は、魁本大字諸儒箋解古文眞寶前後集と題すものにして、魁は漢書顏師古の註に「魁者斗之所用盛」而杓之本也、故言根本者皆云魁とあり。魁本は、即ち原本の義に外ならず。

(五)

この書の彼土に於ける、さばかり盛に流布せざりしこと、前に述べたるが如し。而して、朝鮮に入るや、早く數種の翻刻本ありて、現に向は我が邦に存すといふ。

次に我が邦に渡來せるは、足利氏の初世なるべく、應永以後盛に五山叢林の

間に行はれ、詩文を習ふもの、必ず之を模範とし、その講習、日に盛なり。徳川氏に至りては、物徂徠の徒、その俗書陋本たるを指摘して、排斥に力め、その後、文章軌範の校刊せらるゝや、編者枋得が宋末の忠臣たるの故を以て、その人格を景慕するの餘、都鄙を問はず、海内に風行せしと同時に、本書の流傳は、復た往日に似ず。然れども、軌範は出師表、歸去來辭等、兩三篇を除くの外、その取るところは、唐宋諸家、殊に韓柳歐蘇に局限し、遂に本書の上は楚騷より下は唐宋に互りて、詩文を兼收するの便に如かざるを以て、二書相並んで行はれ、郷塾等に於ては、普通に通に語孟の素讀を畢つて後、これに及ぶを例とし、主として、詩文の類別體制を知るに資せり。但し、わが邦にては、從來専ら後集を好み、前集は多く之を高閣に束ね、遂に後集のみを刊し、序を抽出して、その卷頭に冕するに至れり。

わが邦の翻刻は、明初刊本の覆刻たる、後集の五山版を首とし、又慶長十四年の活字本あり。次いで、寛永元年、木刻亦た成り、元祿延寶にも數種の刊本あり。そ

の後、諸家の校刊、亦た少からず

(六)

鄭本の序を觀れば、本書の原註は、林以正の手に成りしこと疑なく、しかも、纔に十の二三を得たるに過ぎざれば、初學に在りては、殆んど其用を爲さざるの嫌なき能はず。故を以て、後人更に箋釋を加へしもの、亦た少からず。試にその二三を擧ぐれば、先づ彼土に在つては、元の宗伯貞音釋、劉剡校正本あり、撰者不詳の魁本、大字諸儒箋解本あり、明の葉向高註釋の古文大全あり、清の張瑞圖校釋の新臺閣校正註釋補遺古文大全等あり。

わが邦にては、五山時代、青松萬里一元、湖月の諸禪僧、各箋釋あり、而して、これを集めて大成したるのを、笑雲の古文眞寶抄となす。徳川氏に至りては、林羅山の原著を、鶴飼石齋の大成せる古文後集、諺解大成あり、柳原篁洲の古文前集、諺

解大成は、これと體裁を同じうし、相待つて其用を爲すべく、今早稻田大學刊行の漢籍國字解全書中に收む。次に宇都宮由的に鼈頭評註古文前集あり。毛利貞齋に古文眞寶合解評林後集古文後集俚諺鈔あり。その他、一一こゝに擧げず。

ここに收載せしは、即ち笑雲の古文眞寶抄にして、後集は、上述の如く、前代諸禪僧の所説を蒐集して、その短長を比較し、周匝精緻、以て加ふる蔑し。但し、阿房宮賦楚人一炬の條に、史記の項羽本紀を全載せしが如き、まことに蛇足となすべく、今これを校刊するに際し、務めて重複を汰し、繁冗を芟り、以て面目を一新せむことを期しぬ。而して、前集は未定の稿本なるが如く、國字の解説、往々にして缺如することあり、然れども、その諸書を雜引するや、後に刊行されし宇都宮由的に鼈頭評註より更に詳備し、その藍本を供せしこと疑なく、その體裁未だ完からざれども、大意を領會するに就いては、略ぼ足れりと爲さむか。この書、今日傳存するもの多からず、殊に前集を併せて完備せるものは、最も少し。予が校

刊に際し、後集は家藏本に據り、前集は金井保三氏所藏の寛永活字本を借り、新に謄寫を経て稿本となせり。但し、前集は、誤字極めて多く、訓點の誤、亦た少からず、仍つて、勉めて之を訂正せしが、なほ二三の遺漏なきを存せず、讀者これを諒せよ。なほ笑雲の前集抄は、別本あつて、往年一閱、註釋や、詳密なるやに記憶すれども、重ねて之を獲て、細に參校を爲すに由なきを憾むのみ。

笑雲、名は清三、時人稱して三東堂といふ。伊勢國の人。幼にして、州の阿彌陀寺或は云ふ無量壽寺に往いて、湖月信鏡に従學し、剃髮受具の後、東西に參尋して、斯事を商量し、又かつて業を東福寺の一韓智翹に受けて、經史を究明し、後に鎌倉の建長寺に住す。常に讀書を好み、手に卷を釋かず。かつて太岳周崇の翰林遺房、萬里集九の天下白、一韓智翹の蕉雨餘滴、瑞溪周鳳の脞説等を合せて、一百卷となし、名づけて四河入海といふ。又自ら古文眞寶の抄を作る。その當時の學者を益したるや、蓋し甚だ大なりといふべし。同門の伊納賢諄、四河入海の後に跋して曰



慧日派下、笑雲和尚者、勢之奇産也。自幼好學、手不釋卷、臂不離案者四十餘年、立志益壯也。讀書既破數萬卷矣、最殫思于蘇堂之詩、夜雨青燈、漁獵者、歲積日深、與王梅溪、趙堯卿之輩、共可拍肩挹袂、暇日因後學之請、益本邦、脞翰向諸抄、受業師一韓翁聞抄、合成一集、而分卷爲五十名、曰四河入海。

以てその平生勤苦の一斑を窺ふに足るべし。その生死年月、詳ならず。四海入海亦た世に傳ふ。

大正三年甲寅五月下澣

久保天隨識

### 古文眞寶前集抄

笑雲和尚述

#### 勸學文

勸學ト云フハ、學ヲ勸ムル文ト云フ心ゾ、學ヲ勸メテ、何ノ爲ニナルコトゾト云フニ、己ヲ修メ、人ヲ治メ、天下ヲ平ニスルコトモ、學問ニヨツテ至ル故ナリ、

第一ニ、先ゾ己ヲ修ムルト云フハ、何ヤウニ修ムルゾト云フニ、人ハ皆天理ヲ稟ケテ、我トシテ生マレ出ゾル故ニ、皆善人ニテコソ有ルベキニ、日ニ物ヲ見、口ニ味ヲ嗜ム、ヨツテ人欲ノ私ト云フモノ出デテ、善ヲ行ハズシテ、惡ヲ行フモノ多シ、惡ヲ行フ者ハ、行末必ズ惡シ、故ニ天理ト私欲トノ分ヲ學ビ知リテ、惡ヲ行ハズシテ、天理自性ノ善ヲ知ツテ行ヘト云フコトニ其理ヲ學問サスルナリ、身ニ惡ノナキヤウニスルヲ己ヲ修ムルト云フゾ、喻ヘバ、常ニ通ヒ慣レヌ路ナドヲ歩ミ行ク時ニ、左ヘ行イテ善カラシム、右ヘ行イテ善カラシムモ知ラズ、ソノ時ハ、路ヲ知リタル人ニ問ウテ、此方ハ大道ニテ善キ道、又彼ノ方ハ行クサキニ淵川アリテ惡シキ道ト教ヘラレテ、善キ道ヘ行カズンハ、何トシテ善キ道筋ヲ知ランヤ、知リモセヌ道ヲ人ニモ問ハズ、推量ニ行キタラバ、惡シキ方ヘ行キテ、先ニテ難儀ナル處ヘ出ゾルコトアルベシ、ソノ如ク、人間一生涯ノ事モ能ク道知リタル人ニ學ビテ行ヘバ、誤少シ、我が心マカセニ行ヘバ、後ニ難義ナル事ニ成ツテ、アトヘモ戻ラレズ、サキヘモ行クベキヤウナキモノナリ、ソレヲ身ノ修マラヌト云フナリ、故ニ己ヲ修ムルニハ、學問ヲ第一トスベシ、學問ヲシテ、能ク己ヲ修メヨト云フ心ゾ、

次二人ヲ治ムルト云フコト、人ヲ治ムルニハ、天下國家、トモニ善キ人ヲ扶持シ置キテ、其人其人ニ仕置ヲサセテ、法度ニテ善ク治マルトコソ見エタレ、學問ニテ人ヲ治ムルトハ何ゾヤ、答ヘテ曰ク、人ヲ治ムルニ能ク人ヲカ、ヘ置キテ、ソノ人ニ法度ヲ云ヒ付ケテ成ラヌニハアラズ、一段ハナルコトアレドモ、ソレハ目ニ見ルトコロト、言葉ノ通フ處バカリハ、法度ニ隨ツテ、目ニ見ヌ處マデハ行キトバカヌゾ、言葉ニ云ヒ殘シ聞キ殘シタルコトハ、殊ノ外惡シキ人ナリ、サヤウニアルホドニトテ、物事ニ法度モナラヌモノゾ、然レバ、言ヒ殘シ、聞キ殘シタルコト多キ故ニ、惡シキコトモ亦タ多シ、惡ハ大分ニシテ善ハ少シ、サラバ、アマネク人ヲ治ムル道トハ云ヒガタシ、ソノ上、五十里ヤ百里ノ間ナラバ、ソノ善キ人自身處々ヘ至リテ、法度ヲモ云ヒ付ケテ教ヘテ治ムルコトモナルベケレドモ、五百里トモ、千里トモアル處ヘ、自身行キテハ道ニテ日ヲ暮ラスベキゾ、喻ヘバ、千里トモアル東ノ國ヘ、自身行キテ、法度ヲ云ヒ付ケテ歸ラントスル時、又千里モアル西ノ國ニ法度ヲ守ラヌ者出デ來リ、又西ヘ行キテ自身治ムルナラバ、又東ノ國ニ法度ヲ破ルモノ出テ來ランゾ、此ノ如クセバ、三年ニ一度ホドヅ行クトモ、道ニテ日ヲ暮ラシ、治マルコトアルマジキゾ、カヤウニシテ大國ヲ治ムルコトハナラザル道理ナリ、又人ヲ使ニシテヤリタリトモ、ソノ使カラガ、ハヤ私ヲ行ハバ、何ヲ手本ニシテ能ク治マランヤ、コレガ故ニ、天下ヲ廣大ニ治ムル大法ハ、ムカシヨリ、聖人賢人ノヨク設索シテ置カレタゾ、ソノ書籍ヲサヘ天下ニ用フレバ、自然ニ天下ノ治マルヤウニ書キ記シテ、ソノ學問サセテ、人ヲ治ムルゾ、ソノ學問ノ法ヲ違ヘヌヤウニ、學校ヲ設ケ、師匠ヲ立テ、ソノ處ソノ處ニテ、天下一等ニナル教ヲ教フルゾ、天下ニ弓矢ノナキヲ太平ト云ハヌゾ、萬民ソノ分際ホドホドニ樂ンデ惡シキ行ノナキヲ太平ト云フ、法度ニテ治ムルハ、ソノ法度ニ背カヌバカリニテ、日々ニ天下ノ惡心ハマサルゾ、學問サヘ天下ニ流行スレバ、天下ハ自ラ治マルゾ、但シ小國ナドハ、法度バカリニテ、一段治マレドモ、學問ハヤラザレバ、ヤガテ亂ルゾ、天

下ヲ永ク治メ、周ク治ムルニハ、學問ニ如クハナシ、故ニ天子コノ文ヲ書キ置イテ、天下ニ學ヲ勸メ玉フナリ、大唐ハ大國ナレバ、文學ニテ天下ヲ治メネバ、武バカリニテハ治マラス故ゾ、學ノ字ノコト、六經ノ中ニ學ノ字ヲ出シタルハ、書經ノ說命ノ篇ニ初メテ學ノ字ヲ出スヲ云フ、學ニ于古訓、乃有レ獲、又云フ、學遜志、又云フ、教學半也、念終始典于學ト云ヘリ、學ノ字ハ、書經ニ始メテ出デタリト云ヘドモ、學問ト云フ道理ハ、天地人民アツテヨリ以來之アリ、人ノミ學問スルニアラズ、鷹即學習ト禮記ニアリ、鳥獸マデモ學ノ道理アルコトゾ、又學ト云フ字ニ字訓多シ、上古ノ學ト後世ノ學ト、次第品々アリ、今少シク之ヲ記ス、

學ハ覺也ト云フ字訓ハ、學ト云フハ、サトルコトヲ云フノ心ゾ、學ノ言ハ效ナリト云フハ、人ニ物ヲ習ヒマヌルヲ學ト云フ心ゾ、畢竟ハ、一ツニ落ツレドモ、先ゾオモテハ各別ナリ、先ヅ上古ノ學ト云フハ、伏羲天ニ繼イデ王タリシ時、仰則觀象於天、俯則觀法於地ト云ヘリ、コノ意ハ、天ノ運行、日月霜露寒暑ノ轉變ヲ見テ、我が身ニ法ツテ、己ヲ修メ、人ニ教ヘテ、人ヲ治メ、地ノ草木鳥獸ノ文ヲ見テ、我が身ニ之ヲ取リ、人民萬物ヲモ治メ玉ヘリ、コノ時ハ、文字ハ無ケレドモ、天地ヲ師匠トシテ學ビタル儀ナリ、心得合點シタルハ、サトリナレバ、學ハ覺ナリノ字訓ゾ、又天ノ運行ニナラヒテ、我が身ニ行ヒ玉フ故ニ、學ハナラフト云フ字訓ノ心モアルゾ、二ツノ字訓、一ツニ合シテ落ツルゾ、中頃ニハ、上古ノ聖神ノ仕置キ玉ヒタルコトヲ老人ニ學ビ問ウテ、聖人ノ教ノ如クスルヲ學問ト云ヒタルゾ、ソノ次ニハ、代々ノ帝王ノ書、或ハ詩ナドニ作り、文字ニ書キアラハシテ、讀ミテ其義理ヲ人ニナラフヲ學問ト云フタゾ、周ノ代ニ至リテハ、王宮ノ都ヨリ、國都ノ國々ノ都、閭巷ト在々處々ノ家五間十間アル處マデ、大學舎小學舎トテ、少人大人ノ學問スル處ヲ立テ、人貴賤高下トモニ、學問ヲサセテ、萬民忠孝ノ道ヲ知ラセタル故ニ、天下ハ自ラ治マリテ、八百年アマリ、

太平ニアツタゾ、是レ皆學問ヲス、メタル故ニ此ノ如キナリ、總ジテ學ト云フハ、天地草木山川鳥獸ノ萬物ノ理ヲ見テ知ルモ學ナリ、又古ノ人ノ行ヲ聞イテ、其人ハ善カリシゾト聞イテ、善ヲ手本ニシテ行ヒ、惡ヲ捨テ、行ハヌヤウニスルモ學ナリ、孔子モ、三人行フトキハ我が師アリト云ヘリ、又四書五經ヲ讀ムモ、勿論學問ナリ、然レドモ、今コノ篇ニ勸學ト云フ心ハ、專ラ古人ノ書ヲ讀ムコトヲ指シテ、學文ト云ヘリ、古人ノ書ノ中ニモ、五經六籍ヲ專ラ學ブベシ、學ノ品々多キ中ニ、讀ミ物ホド、能ク人ノ心得ニナルモノハナイゾ、然ル故ニ、聖人ハ後世ノ爲ニ言葉ヲ盡シ、理ヲ極メ、穿鑿ヲ能ク達ゲテ、人ノ心得易キヤウニ編ミ立テ、置キ玉フゾ、故ニ書ヲ讀ムコトヲ專ラ學文ト云フタゾ、サレドモ、書ヲ讀ミタル分ニテ、義理ヲ知ラネバ、學文ニ非ズ、義理ヲ知リテモ、身ニ行ハネバ、學文ニ非ズ、書ヲ讀ミ、義理ヲ知リ、身ニ行ヘバ、眞ノ學文ナリ、眞ノ學問、天下ニ廣マリタル時ハ、天下ハ自ラ平ニシテ、弓矢モ入ラズニ治マルベキゾ、天下國家ヲ治ムル人ノ學問ヲ勸ムルハ、コノ心ゾ、宋ノ眞宗皇帝ノ勸學ノ文ヲ作ツテ、天下ニ學ヲ勸メ玉フ心モ、天下太平ナラシメン爲ゾ、タトヒ廣ク書ヲ讀ミテモ、義理ヲ知ラズ、身ニモ行ハヌハ、記問ノ學トモ云ヒ、俗儒トモ云フ、又文ヲ作り詩ヲ作りテモ、雪月花ノ風景バカリヲ文字ニカキタルハ、我が身ヲ修ムル用ニモ立タズ、人ヲ治ムル用ニモ立タズ、遊一編ナレバ詮モナキコトゾ、コノ古文眞寶ノ首ニハ勸學ノ文ヲ編ミ、終ニハ出師陳情ノ表ヲ編ミタルモ深キ心ナリ、先ヅ人ハ學文ヲシテ、是非ヲ知リ、終ニハ忠孝ノ道ヲ行ヘト云フ心ニテ、此ノ如ク編ミタルゾ、然レバ、文ヲ作り、詩ヲ作りテモ、物知り學文者ト云フニハアラズ、文ヲ作ルモ、詩ヲ作ルモ、畢竟忠孝ノ道ニ至レト云フ心ニ編ミタルト見エタゾ、人ノ忠孝ノ心サヘアレバ、上ヲ犯サント思フ心ナシ、上ヲ犯スタ好マズンバ、亂イヅクヨリ起ランヤ、天下太平ナルベキナリ、詩文ヲ讀マン者ハ、コノ心根ヲ持ツテ讀ムベシ、己ヲ修メ、人ヲ治ムルコトハ、學ヨリヨキハナシ、ソレニ就イテ、或人間ウテ曰ク、人ハ生マレツ

キタル氣質アリテ、何ト教ヘテモ、生マレツキハ直ラヌ物ゾ、學文ヲシテ萬民ヲ善クナシテ治ムルトハ如何ナルコトゾ、答ヘテ曰ク、四書五經ノ道理ハ、生マレツカヌコトヲ教フルニアラズ、生マレツキタル仁義禮智ヲ行ヘト云フ教ナリ、タトヘバ、玉ナドノ土ニヨゴレタルヲ洗ヒ磨ク心ナリ、如何ニ下地ガ玉ナレバトテ、琢キテ善クセザレバ、玉ニハナラズ、能ク能クスリミガキテ後ニ、玉ニナリテ光アリ、人モ仁義禮智ハ生マレツキタレドモ、學文ヲセザレバ、磨カヌ玉ノ如キゾ、學文ヲシテ、ソノ生マレツキヲ能ク琢クト云フ心ニ、學ヲ勸ムルゾ、人ノミニアラズ、馬鷹モ此ノ如シ、如何ニ生マレツキ能ク馬モ、乘リ入レザレバ、手繩ヲモ知ラズ、己ガマ、ニ走り回ルゾ、能ク乘リ入レタル馬ハ、ソノ馬ノ力量ヲ盡シテ乘リヨキゾ、鷹モ逸物ニ生マレツキテモ、能クスベ習ハサネバ、直渡リモ知ラズ、鳥モトラヌゾ、能クスベ習ハシタル鷹ハ、鷹鶴モトルゾ、己ガマ、ナル野鷹ハ、ソノマ、逸物ニハナラヌゾ、鳥類畜類モ是レ學問ゾ、況ンヤ、人ハ智恵多キ故ニ、僞モ又多キゾ、學問ヲシテ是非ヲ知ラネバ、重寶ナル生マレツキノ仁義禮智ノ性ヲモ、皆僞ノ智恵ニナシテ、ソノツモリニハ不忠不孝ノ者トナリ下ツテ、天下ノ大亂ヲナスゾ、コノ故ニ、天下太平ヲ願ハン君ハ、學ヲ勸ムルニ如クハナシ、コレヲ以テ、帝王勸學ノ文ヲ作り玉ヒテアルヲ古文眞寶ノ最初ニハ編ミタルゾ、

●眞宗皇帝勸學

良田好宅僕從妻妾之奉也。

宋紀云、眞宗諱元侃、更名<sub>レ</sub>亙、太宗第三子也、初封壽王、尋立爲皇太子、太宗崩、遂登大寶、在位二十五年、壽五十五、崩于延慶殿、諡曰文明武定章聖元孝皇帝、廟號眞宗、葬永定陵、帝寬仁慈愛、有帝王度、然好道教、咸平二年七月、呂文忠爲翰林侍讀、邢昺爲翰林侍講、侍讀侍講之置自此始、祥符元年、加諡孔子爲玄聖文宣王、莫七十二弟子、賜錢三十萬、帛三百匹、以四十六世孫聖佑爲奉禮郎主祀事、周公旦爲文憲王、太公望爲

昭烈武成王、先儒等、各爲<sup>ス</sup>公伯、<sup>註</sup>注者ノ事ハ後集ノ序說ニアルゾ【言人能……】奉也、コノ注ハ、自ノ一字ヲ以テ、主トシテ見ルベシ、人能ク勤學スレバ、榮貴トサカヘ、位モ高クナルトアレドモ、學文スルモノニ、貧ニシテ無官ナルモノ多シ、又良田トハヨキ田地、好宅ハヨキ家、僕從ハツカヒモノ、妻妾ハツマヤムシロシキノヤウナル者アリト注ニ在レドモ、ソレモ一色モナキモノ多シ、コノ故ニ自ト云フ一字ニテ其心ヲ見ルナリ、自トハ、今學文ヲシテ、ソノマ、富貴ニナルニハ非ズ、學文ヲスレバ、其人ガラモ能クナリ、才智モ高クナル故ニ、國家ニ用ヒラル、身トナル程ニ、後ニハ富貴ニモナリ、能ク家ヲ保チ、ツカヒモノドモ多シト云フ心ナリ、オノヅカラ自然ニカヤウニナルゾト云フ心ナリ、又學文ヲシテ、人ガラノ直ラヌモノモアレドモ、ソレモ、一藝ニ名アルモノハ、用ヒラレズト云フコトナシト云ヘル如ク、或ハ記録ヨミニナリ、或ハ目安ヨミニナリ、又ハ幼少童蒙ノ者ニ讀書ヲサセ、如何サマ、ソノホドホドニスタラズ、用ヒラル、者ナレバ、オノヅカラ富貴ニナリ、好宅僕從モアルゾト云フ心ナリ、自ノ字味フベシ●富家不用買良田、書中自有千鍾粟トハ、眞宗皇帝、天子ノ御身トシテ人ニ學ヲ勸メ玉フ文章ニ、先ヅ家ヲ富マスコトヲ最初ニ書キ玉フハ、何心ゾヤ、答ヘテ曰ク、萬民ノ重キ思、富貴ヲ好マズト云フコトナシ、天下ヲ治ムル政、萬民ノ願ヲ遂ゲシムルニ如クハナシ、萬民ノ願ハ、富貴ヲ願フナリ、故ニ先ヅ家ヲ富マスコトヲ書キ玉フナリ、然リト云ヘドモ、學文ヲセズシテ富貴ナレバ、オノレオノレノ分際ヲ知ラズシテ、家ヲ持チヌレバ、國ガホシクナリ、國ヲ持チヌレバ、天下ガホシクナリテ、飽キ足ルコトナキ物ナル故ニ、スキヒマテネラヒ、亂ヲ起ス、亂ヲ起スコトノナラザル卑シキ者ハ、盜ヲスルナリ、斯様ニ、人ノ風俗惡シクレバ、慾ニ限りナキ故ニ、富ミ足ルコトナシ、コレヲ以テ、天下ヲ太平ナラシムルニハ、萬人ニ學文サセテ、人ノ高下ヲ定メ、身ノ分際ノホド、智惠ノ高下ノ手ガラ次第二、官ニ上ゲ、官ニ就イテ奉祿ヲヤルコトニ定メヌレバ、官ノ高下ヲ人恨ムルコトナク、知行ノ多少モ、

人ノヒイキニナラズ、我が生マレツキ次第ニ定マル故ニ、亂ヲ起ス心ナシ、盜スル心モ止ムナリ、盜シテ金銀ヲ山ノ如ク持チタリトモ、ソノ官位ホドナラデハ、エツカハヌヤウニ、禮ヲ以テ定メ置ク故ニ、トカク學文ニ過ギタルコトナシト萬民ヲ勸メ玉フナリ、

富家不用買良田、書中自有千鍾粟。  
訓 家を富ますには良田を買ふを用ひず、書中自ら千鍾の粟あり、居を安んずるには高屋を架するを用ひず、書中自ら黄金の屋あり、門を出でて人の隨ふなきを恨むなけれ、書中の車馬多きこと驕るが如し、妻を娶るに良媒なきを恨むなけれ、書中女あり顔玉の如し、男兒平生の願を遂げむと欲すれば、六經勤めて窓前に向つて讀め、

世俗ノ人家ヲ富マスニハ、田地ヲ買フホド良キハナシ、金銀ハ盜人アリ、器ハ火事アリ、良キ田ヲ買ヒ付ケテ置キタルホドノ良キコトハナケレドモ、今ノ文ニハ家ヲ富マサント思ハバ、良キ田ヲ買フナ、ソレヨリマシタルハ學文ゾト云ヘリ、ソノ子細ハ、田地ヲ買ヒ付ケテ置キタリトモ、ソノ身ガ他國ヘ行クカ、國替檢地アラバ、皆人ノ田地ニナラソ、學文ハ水損モ早損モナク、我が身ノ行ク處ヘ付イテ行ク物ナリ、藏モ入ラズ、物モ入ラズ、一心ニ收メテ命ノ限り身ニ隨フモノナレバ、置キ處モ入ラズ、失フコトナキホドニ、藏ノ内ノ財寶、野山ノ田地ヨリモ、重寶ゾト云フコトナリ、ソノ上、今ノ文章ハ、天子ノ御製作ナレバ、確ト指ストコロガアルゾ、天下太平ノ政ヲシ玉フニハ、物知リテ大官ニ舉ゲネバ、大國ハ治マラヌゾ、小國ハ、二十年カ、三十年カ、五年カ、三年カハ、武勇バカリニテモ治マレドモ、大國ヲ久シク治ムルコトハ、智者賢者ガナケレバナラヌゾ、故ニ人皆學文ヲセヨ、學文サヘシタラバ、大官ニ舉ゲテ、シカト千鍾ノ祿ヲモ惜ムマイゾト思召ス心ニカク作り玉ヘリ、鍾ハ六斛四斗ナリ、左傳ニ釜十爲鍾トアリ、釜ハ六斗四升ナレバ、釜十八斛四斗ナリ、千鍾ノ祿ヲ毎年トレバ、良田ヲ何程買フタヨリモ増シタルコトナリ、田

地ヲ買フトテモ、五段三段ニハ過ギズ、ソノ上、官位ナケレバ、地頭ニ屈ミマワラネバナラヌニ、千鍾ノ粟ヲトリ、大官ニ登リテ人ニ敬ハル、ハ、大慶ニアラズヤ、學文ニマシタル重寶ハナキゾト云フ心ナリ、惡王ノ代ナドノ事ヲ引キ合セテ、コノ文ニアフコトニテハナイゾ、粟ハ五穀ノ總名ナレドモ、今云フハ米ノ事ゾ、モミナカラチバ粟ト云ヒ、粳ヲスリタルヲ米ト云フゾ、

安居不用架高堂。書中自有黃金屋。

漢武故事、浦臺高三十丈、飾以黃金、鑲屋上。

世人ノ願、食ニ次イデハ、居住ノ良キヲ願フ故ニ、田地ノ次ニ居住ノコトヲ作レリ、居處ヤスカラント思ハバ、高堂ニ架スルコトヲ用ヒザレト云フハ、高堂ハ廣大ナル良キ家ナリ、然レドモ、屋ハ風雨ニソコネ、火事ニホロブル物ゾ、身ニ徳ガナケレバ、父母ノ讓リタル家ヲモ持ツコトナラズシテ失フモノゾ、學文ヲシテ大官ニナリ、身ニ徳アレバ、金銀ヲ鑲メタル家ハ、行ク先ニ何程モアルゾト云フ心ナリ、堂トハ、オモテ坐敷、客人ナドニ對面スル處ゾ、室ト云フハ、我が常ニ居ル處ゾ、架ノ字ハ、廣韻ニ舉閣トアルゾ、高キ堂ニ又閣ナドヲ作リソヘタル心ゾ、又ハ屋架トモ注シタゾ、堂ヲ重々ニ二階三階ナドニ高ク作りタルコトゾ、左様ノ家作りナドヲ願フコトヲ用ヒザレ、願ヒ得テモ失フコトアレバ、詮モナキコトナリ、若シ願ヒ得ザレバ、猶ホ徒ナル願ナリ、唯ダ學文ヲシテ、ソノ身ニ徳アルヤウニセヨ、身ニ徳アレバ、黃金ヲ鑲メタル屋モナルゾト云フ心ナリ、注ニ漢ノ武帝ノ時、浦臺ト云フ臺ヲ作ラレタガ、高キコト三十丈ニシテ、飾ルニ黃金ヲ以テシテ鑲メタト云フ故事ヲ引イテ、黃金ノ屋ト云フ證據ニシタゾ、玄宗ノ事ニモ金屋ト作ツタゾ、唯ダ限リモナク結構ナト云フ心マデゾ、

出門莫恨無人隨。書中車馬多如簇。

食物モ足り、家モ良ケレバ、他所ヘ行クニ供ナドヲ連レタキモノナルホドニ、次ニ供ノモノ馬車ナドノ事ヲ作レリ、人ノ隨フトハ、供ノモノ、事ゾ、供ノナキコトヲ恨ムルナ、我が身ニ徳アリテ官ニ登レバ、供ノ人バ、何程モアルゾト云フ心ナリ、書中ニ車馬多トハマコトゾ、學文ヲシテ及第スレバ、ソノ日ニ車馬ヲ賜ハツテ、翰林學士ニナルゾトタトヘバ、一僕ヲモ連レズシテ、一身禁廷ヘ參リテ及第シテモ、歸ル時ニハ、門外ニ車輿ト供ノ人々、路次ニテ樂ヲスルヤウニ用意シテ下サレテ、故郷ヘ歸ルゾ、及第トハ、學文ノヨシアシテ禁中ニテ問ハル、コトナリ、ソノ答、ヨケレバ、ソノ日ニ官ニ舉ゲラレテ、輿車ヲ賜ハルホドニ、書中ニ車馬多トハ作レリ、如簇トハ、多クシテ限リナキト云フ心ゾ、次第々々ニ官位モ高クナリ、後ニハ、國ノ守トモナルホドニ、簇リタルガ如ク多キコト疑ナキナリ、簇簇通ス、簇ハ小竹ナリ、ヤブニ竹ノ生ヘタル如ク數限リモ無キナリ、簇ハ聚ナリ、アツマルト云フ、ヨミモ同ジ心ナリ、

娶妻莫恨無良媒。

詩、南山、娶妻之、何匪媒不得。

書中有女顏如玉。

詩、其人如玉。

妻ヲ娶ルニハ、媒ナクテハ叶ハヌモノナリ、媒ナクテ夫婦ニナリタルヲバ、夫婦トハ謂ハズ、妾ト云ヒテ、ツカヒモノナリ、故ニ媒ナクテハ叶ハヌナリ、然レドモ、ソノ身ニ官位モ祿モナケレバ、媒スルモノナキナリ、コレヲ恨ムルコトナカレ、學文ヲシテ、我が身ニ徳出來ヌレバ、何程モ美人ハアル者ナリ、媒ノキモイリデモ、我が御意ニ入ラント地走スルモノナリ、注ニ詩經ヲ引イテ匪媒不得ト云ヘリ、媒ナクテ叶ハヌ證據ナリ、然レバ、庶人ハ一夫一妻トテ、男一人ニ女房一人、ソノ外ハ持タヌモノナリ、天子ニハ三夫人九嬪、二十七世婦、八十一御妻トテ百二十人ハ定マリ、ソノ外ハ三千ノ宮女數シラズアリ、公侯ハ大國ノ主ナレバ、三夫人七世婦二十七人ノ妻、コレハ定マリ、ソノ外妾ハ數知ラズ、但シ天子ノヨリハ少シ、ソノ下々、大夫士ニ至ルマデモ、官位俸祿ノ高下多少ニ隨ツテ、玉ノ如クナル女、何程モアルモノナリ、然レバ一人サヘ求メカネテ媒ナキ人モ、學文ヲシテ官位ニ進ミヌレバ、心ノマ、ナル女

アリト云フ心ナリ、注ニ詩經ヲ引イテ顔如レ玉ト云フハ、美人ノ形スグレタルヲ云フナリ、

男兒欲遂平生志。六經勤向窓前讀。

六經謂易詩書禮記周禮春秋也。

男兒トハ、男子ト云フ心ナリ、男ヲ兒ト云ヒ、女ヲ嬰ト云フ、男子タルモノ、平生ノ志ヲ遂ゲント思ハヤ、學文セヨ  
ゾ、學文シテ善キ人ニナリ官位ニ上ラチキバ、何事モ叶ハヌゾ、無道ナル世ニハ、學文シテモ、ソノ様ニ萬事志ヲ遂ゲ  
ヌコトアレドモ、今コノ文ハ天子ノ作ナレバ、必定斯様ニナサント思召シテ、此ノ如ク作り玉ヘリ、六經ハ五經ニ樂  
經ヲ加ヘテ六經ト云フ説モアレドモ、コノ注ニハ五經ニ周禮ヲ加ヘテ六經ト注セリ、易ハ、卦畫ハ伏羲河圖ノ數ニ則  
リテ六十四卦ヲ畫セリ、繇ノ辭ハ文王ノ作ナリ、三百八十四爻ノ辭ハ周公且ノ作ナリ、孔子ハ象傳彖傳繫辭傳雜卦文  
言等ノ十翼ヲ述セリ、詩ハ本ト三千餘篇、孔子繁ヲ削リ、三百十一篇トナシテ、風雅頌ヲ分ケ玉ヘリ、ソノ中ニ六篇  
亡ビタリ、書ハ、二帝三王ヨリ、周ノ穆王幽王ノ時分マデ、代々ノ帝王ノ天下ヲ治メ玉フ大經大法ノ述ヲ書キ載セタ  
リ、始ハ史官ノ書キタルヲ、孔子繁キヲ艾リ、足ラザルヲ補ウテ書キ玉ヘリ、秦火以前ハ百篇アリ、今存スル者五  
十八篇ナリ、禮記ハ本ト二百篇ナレドモ、今ノ禮記ハ四十九篇ナリ、漢ノ世ニ、戴德戴聖ト云フ二人ノモノ、古禮ノ  
書ヲ傳ヘテ、ソレニ本ヅイテ書キ集メタリ、根元ハ聖人ノ作ナレドモ、秦ノ世ニ燒失シテ、纔ニ少シ殘リタル本ヲ方  
々ニテ得テ、ソレニ付イテ書キ集メテ禮記トセリ、周禮ハ周公ノ作ナリ、然レドモ、清書ナクシテ周公世ヲ去リ玉ヘ  
タル故ニ、首尾セザル處アリ、春秋ハ魯國ノ史記ナリ、孔子削リ玉フ故ニ、春秋ヲ孔子ノ作ト云フ、木書、魯ノ史ニ  
ナレドモ、心ハ孔子ノ心ナリ、隱公ヨリ哀公マデ、二百四十二年ノ行事ヲ記セリ、我ヲ知ラシモノハ其レ唯ダ春秋カ、  
我ヲ罪センモノハ、其レ唯ダ春秋カト、孔子自ラノ玉フナレバ、孔子ノ心、春秋ニ顯ハレタリ、右六經ノ學ニ漏レ  
タルコトナシ、易ヲ學スレバ、天地ノ理、鬼神ノ妙、人ノ吉凶動靜進退、知ラズト云フコトナク、行ハレズト云フコト

ナシ、詩ヲ學スレバ、人ノ邪正性情風俗、感詠セズト云フコトナシ、君臣父子夫婦ノ道、朋友ノ交、鳥獸草木ノ名マ  
デ詠メ知ルナリ、書ヲ學スレバ、天下ヲ治ムル大法ヲ知ルナリ、禮ヲ學スレバ、起居動靜冠婚喪祭吉凶軍賓嘉ノ禮ヲ  
知ルナリ、春秋ヲ學スレバ、王法ヲ知り、亂臣賊子ノ肝ヲ寒シ、善ヲ勸メ惡ヲ懲ラスナリ、コノ六經ノ外ニハ、學文ハ  
イラヌナリ、ソノ外ノ學モ多シト雖モ、天下國家ヲ治ムル用ニハ立タザルナリ、故ニ六經勤メテ窓ノ前ニ向ツテ讀  
ト書キ留メ玉ヘリ、

仁宗皇帝勸學

謂人而不學、雖草木禽獸糞壤之不如也。

母李氏、章懿皇后、大中祥符三年四月十四日生也、宋紀云、仁宗皇帝、諱顥、初名受益、真宗第六子也、初封昇王、尋  
立爲皇太子、及眞宗崩、遂登大寶、在位四十二年、壽五十四、崩于福寧殿、諡曰神文聖武明孝皇帝、廟號仁宗、  
葬永昭陵、帝之初年、母后臨朝、政非己出、寶元康定間、西鄙多事、慶曆已後、君子滿朝、恭儉仁恕、始終如一、  
然仁柔有餘、而剛武不足、是以常有夷狄之禍、謂人而不學、云云、人ノ人タルコトヲ知ルヲ學  
文トハ云フナリ、人トシテ人ノ道ヲ知ラザルハ、草木禽獸ヨリ劣レリ、草木ハ食物モ入ラズ、禽獸ハ衣服モ入  
ラズシテ、人ノ用ニ立チ、ソノ一能々々ノ用ニハ立ツナリ、牛ハ耕シ、馬ハ人ヲ乘セ荷ヲ運ビ、草木ハ藥ニナリ  
材木ニナル、皆オノレオノレノ生マレツキタル用ニ立ツナリ、人ノ生マレツキタル用ハ、何事ガ用ゾト云フ  
ニ、人ハ萬物ノ長ナル故ニ、仁義禮智信ヲ行ヒ、君トナツテハ、君ノ德ヲ行ヒ、萬民ヲ養フガ役ナリ、臣トナ  
ツテハ、君ニ仕ヘ、忠節ヲ盡スガ役ナリ、子トナツテハ、孝行ニシテ、親ニ事フルガ役ナリ、職人ハ其職々ニ  
怠ラズ其用ニ立ツガ本ナリ、人トシテ學セザレバ、人ハ何事ヲ以テ人ト云ハル、ト云フコトヲ知ラズ、然ラバ、  
草木禽獸ノ已々ノ用ニ立ツヨリハ劣ルゾト云フ心ナリ、學文ヲスレバ、ソノ生マレツキノ高下ハアレドモ、人

ノ道ヲ知ルホドニ、必ズ學文セヨト云フ文ナリ、

訓讀 朕無學の人を觀るに、物の比倫に堪へたるなし、若し草木に比すれば、草には靈芝あり木には椿あり、若し禽獸に比すれば、禽には鳳凰あり獸には麟あり、若し糞土に比すれば、糞は五穀を滋し土は民を養ふ、世間無限の物、無學の人に比するなし、

朕觀無學人、無物堪比倫。

天子自稱曰朕、

朕、古シヘ、君モ臣モ、コノ朕ト云フ字ヲ用ヒタルゾ、蔡邕ガ朕ノ字ノ注ニ上下共稱ト云フタゾ、屈原ガ離騷ノ始ニモ、朕皇考ト書イタゾ、秦ノ始皇ノ二十六年ヨリ、天子ノ自稱ニナツテ、天子ノ自ラワレト仰セラレ、時、コノ朕ト云フ字ナリ、ソレカラ、凡俗ノ者ハ、ワレト云フニ、朕ノ字ヲ書カヌゾ、故ニ此注ニ天子自稱曰朕ト注シタゾ、比倫ノ二字ハ、比ハタクラブルナリ、倫ハ倫類ノ心ゾ、タグヒテ云フゾ、無學ノ人ヲタクラベ物ガナイト云フ心ゾ、草木ノタグヒニモ、禽獸ノタグヒニモ比ベラレヌゾ、ソノタグヒヨリ劣リタレバ、マシテ、人ノ形アリテモ、人ニテハナイト云フゾ、

若比於草木。草有靈芝。木有椿。

草中尙有靈芝之瑞、木中尙有椿之耐、

無學ナル人ヲ草ニ譬ヘントスレバ、靈芝ナドハ、人ノ命ヲ長ジ、人ノ饑エタルヲ癒ヤシ、人ヲ養フ徳アリ、瑞之記ニ、晉陵郡若協亭新昌靈芝五色十二、生便坐之室ト云ヘリ、芝ハ五色アリ、又紫芝アリ、高山四皓探芝歌ニ、可ニ以療飢ト作レリ、人ヲ養ヒ、人ノ食ニナルト見エタリ、青芝ハ藥種ニナルトモ見エタリ、玉芝、本草ニ、如黃精可レ辟穀ト云ヘリ、唐女鏡トモ云フゾ、肉芝、コレヲ服スレバ即チ仙人ニナルトモ云フタゾ、芝蘭ノ室トテ、物ノ香シキニハ、芝蘭ホド香バシキ物ハナイゾ、君子ニ喻ヘタゾ、草ニハ斯様ノ物アルホドニ、無學ノ人ヲ草ニモ喻ヘラレ

ヌゾ、又木ニ譬ヘントスレバ、木ニハ椿ナドノヤウナル名木ガアルゾ、椿、莊子ニ、大椿八千歳爲春、八千歳爲秋ト、釋名ニ、香者名椿、時珍曰、椿木皮細、肥實而赤、葉可茹、藥種ニナリテ功德多シ、女子血崩及ビ産後血止マズ、ソノ外、多ク病ヲ治ス、根モ葉モ花モ能アリ、斯様ノ能アレバ、木ニモ學ナキ人ハ比ベラレヌゾ、

若比於禽獸。禽有鸞鳳。獸有麟。

禽中尙有鸞鳳之瑞、獸中尙有麒麟之靈、

無學ノ人ハ、鳥類畜類ニモタクラベラレヌゾ、禽ニハ鸞鳳ガアルゾ、鸞ハ赤色五采、雞ノ形、鳴ケバ五音ニ中ルト云フ、色形聲、諸鳥ニ優レテ、鳳凰ノ佐タリ、血ヲ膠ニシテ、絃ヲ續クニヨキゾ、雅樂ノ聲ニ舞フゾ、明皇鸞ニ乗ジテ月宮ノ桂樹ノ下ニテ舞フタト云フコトモアルゾ、鳳ハ雄ヲ鳳ト曰ヒ、雌ヲ凰ト曰フ、山海經ニ、鳳凰出丹穴山、形似鶴、首文曰德、背文曰義、翼文曰順、腹文曰信、膺文曰仁、カヤウニ德義順信仁ノ字ヲ毛ノ文ニソナヘタリ、又云フ麟ノ前、鹿ノ後、蛇ノ頭、龜ノ背、魚ノ尾、雞ノ喙、燕ノ翼、五采ニシテ高キコト二尺トモ記シタゾ、聖人ノ時ナラデハ出ヌゾ、梧桐ニ棲ム鳳凰ハ小鳥ニテ常ニアルト云フゾ、靈鳥ノ鳳凰ハ、羽蟲三百六十ノ長ニテ、堯舜ノ代ニ出デタト云フゾ、文王ノ時モ岐山ニ鳴イタトアルゾ、鳥ニモ斯様ノ物アレバ、無學ノ人ハ、鳥類ニモタクラベラレヌゾ、注ニ鸞鳳ノ瑞ト云フタゾ、聖人ノ世ニ出ヅベキ瑞相ニ此鳥ガ出ルト云フ心ゾ、麟ハ麒麟ノコトゾ、陸璣曰ク、麋身牛尾、黄色圓蹄一角、角端有肉、音中鐘呂、行中規矩、王者至仁則出ト云ヘリ、仁獸ナル故ニ、不食生物、不踐生草、王者有道則麟出、クワシク、後集獲麟解ニ麟ノ出デタル祥ヲ云ヘリ、獸ニモカヤウノ靈物アレバ、無學ノ人ハ獸ニモ劣レリ、比ベキ物ナシトナリ、

若比於糞土。糞滋五穀。土養民。

滋潤也、五穀黍稻稷菽麥也、

物ノムサキ極リハ、糞土ホド不淨ナル物ナシ、然レドモ、五穀ヲ肥ヤシ、民ヲ養フ、コレヨリ外ニ別ニムサキ物ナシ、無學ノ人コソ、コレヨリ劣ルナレト云フ心ナリ、

世間無限物。無比無學人。

言フハ、世間無限物トハ、物ハ萬物ナリ、無限トハ、數モ限リモノキホト多キ萬物ナリ、ソノ無限萬物ノ中ニ、無學ノ人ニ比スベキ物ハ、一ツモナイゾト云フ心ナリ、

司馬溫公勸學歌

父主<sup>ハトシテ</sup>擇<sup>シテ</sup>師<sup>ヲ</sup>、師主<sup>ニ</sup>教導<sup>ス</sup>二者兼盡<sup>シテ</sup>、勉<sup>ム</sup>而學<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>、子之責也。

司馬溫公、東都事略列傳、司馬光、字君實、陝州夏縣人也、言行錄、溫國公、諡曰文正公、爲兒童時、凜然如成人、七歲聞講、左氏春秋、退爲家人、講宋紀云、神宗即位、首以司馬光爲翰林學士、光力辭、帝曰、是職非卿其誰能堪之、光乃就職、此年司馬光初讀資治通鑑、帝親制序而賜光、文集八十卷、程明道曰、君實之言、如參甘草、哲宗元祐元年秋九月丙辰朔卒、年六十八、帝臨其喪、贈大師溫國公、諡文正、ツブサニハ、獨樂園ノ記ニ見エタリ、司馬氏ハ多クレドモ、司馬トバカリ云フハ此人ノコトゾ、父主擇師ト云フハ、子ノ父、物ヲ知リテモ、我が子ニハ直ニハ教ヘヌ物ゾ、ソノ子細ハ、教ニ隨ハヌ時ハ、夏ト云フムチト楚ト云フ鞭ニテ撃チ打クゾ、子ヲ打チタ、ク時ハ、父ノ慈ヲ損スルゾ、父母ノ子ヲ養フハ、慈ヲ以テ本トス、慈ヲ以テ本トスレバ、打チタ、カレヌゾ、二ツノ間ガ指合フ故ニ、師匠ヲ擇ンデ教訓ヲ頼ムガ良キゾ、故ニ禮記ニモ、子ヲ易ヘテ教フルト云フタゾ、我が子ヲバ人ニ頼ミ、人ノ子ニハ我教フルゾ、ソノ上、子ノ心ニモ、親ヲバ恩ニナレテ、他ノヤウニハ恐ロシガラヌゾ、師匠ヲ擇ビテ、教ヲ頼ムニ、師匠ノ教ニ隨ハヌ時ハ、親ガ子ヲ勸當シ、

テ、我が内へ寄セ付ケヌガ良イゾ、師匠ヲ頼ミナガラ、結句、師匠ノキゾイ人ヂヤナドト云フハ、沙汰ノカギリゾ、如何ニモキツキ師匠ヲ頼ムガ宜シイゾ、萬事師匠ノ命ニ從ヘト云ヒ付クル物ゾ、子ト親ト一ツニナリテ師匠ナドニ不足ラ云フハ、子ノ爲ニ惡キゾ【師主教導】ト云フハ、師匠ニナルモノハ、手習讀ミ物バカリ教フルハ師ニテハナイゾ、導クトハ、善キ道ヘ教ヘ入レテ、ソノ身ノ所作ヲ勤メサセ、心ノ惡シキトコロヲ直スガ師匠ノ導ゾ【二者兼盡、勉而學之、子之責也】ト云フハ、父ト師トノ二者ハアリテ、ソノ人ノヨクナラズ、學文セヌハ、右ノ文章ニアル草木禽獸ニモ劣リタル無學ノ人ゾ、子ノ罪フカシ、

訓子を養うて教へざるは父の過、訓導嚴ならざるは師の惰、父教へ師嚴に兩つながら外なきも、學問成らざるは子の罪、禮衣飽食人倫に居り、我が笑談を視る土地の如し、高きに攀ちて及ばず下品の流、稍や賢才に遇へば與に對ふるなし、後生を勉む、力めて誨を求めよ、明師に投じて、自ら味ますなかれ、一朝雲路果然として登る、姓名亞等先輩を呼ぶ、室中若し未だ婚姻を結ばざれば、自ら佳人の匹配を求むるあり、旃を勉めよ汝等各早く修め、老來を待つて徒に自ら悔ゆるなかれ、

養子不教父之過

言フハ、養フトハ、養育ノコトナリ、子ヲ養育スルハ、善キ者ニ成ルヤウニ教フベキニ、愛ノ餘ニ子ノ心ノマ、ニ育ツルハ、却ツテ子ヲカワユク思ハヌコトニ成ルナリ、故ニ愛スル術ノ途ヒタルヲ過ト云フナリ、子ヲ能キ者ニ成サント思フモ、子ヲ愛スルナリ、先ヅ當座カワユク思ヒイタハルモ、子ヲ惡ムニハアラズ、トモニ愛スルニテハアレドモ能キモノニナルヤウニ教ヘヌハ過ナリ、

訓導不嚴師之惰

惰徒臥反、懶也、



言フハ、訓ト導トナリ、訓ハ、古今ノ法、八歳ヨリシテ教フルナリ、ソノ前ニハ、父母教フルナリ、胎内ニ在ル時ハ、母ノ心持ヲ能ク持ツテ教ト云フナリ、惡シキコトヲ聞カズ、汚ハシキ物ヲ見ズ、妄リニ腹立タズ、悲シキコトヲ聞カヌヤウニシテ、身持ヲモ能ク持ツモノナリ、子ハ母ニアヤカル故ニ、コレヲ母ノ教ト云フ、五歳ホドヨリ、四方ヲ教ヘ、日ノ數、物ノ數ナドヲ教フルナリ、八歳ヨリ、小學舎ニ入り、師匠ノ教ヲ受クルナリ、洒掃トテ、唐ニハ、イヅレノ家ニモ、瓦ヲ敷ク故ゾ、瓦ニ水ヲ打チ、掃クコトヲ教フルナリ、次ニ、應對トテ、人ニヨリテ返答ノ言ヒヤウノ高下アリ、コレヲ應ト云ヒ、又此方ヨリ物申上ゲヤウアリ、コレヲ對ト云フナリ、次ニ進退トテ、人ノ前ニ出ルヤウアリ、御前ヲ立チ退クヤウアリ、コレヲ教フルナリ、次ニ禮ヲ教フルナリ、禮ニハ五禮アリ、一ニハ吉禮、マツリノ禮ナリ、二ニハ凶禮、葬ノ禮ナリ、三ニハ軍禮、陣立陣中ノ禮アリ、四ニハ賓禮、客人アシラヒノ禮ナリ、五ニハ嘉禮、祝言ノ禮ナリ、コノ五禮ノ大形ヲ教フルナリ、道理ハ十五ヨリ後ニ教フレドモ、先ヅ大形ヲ教フルナリ、次ニ樂ヲ教フルナリ、樂モ、詳シキコトハ、十五ヨリ後ニ教フレドモ、先ヅ祝言ナド一フシ歌ヒ、一サシ舞フコトヲ教フルナリ、次ニ射ヲ教フ、弓射ルコトナリ、次ニ御トテ馬ニ乗ルコトヲ教フ、次ニ手習ヲ教フ、物カクコトナリ、コレヲ書ト云フ、次ニ數ヲ教フルナリ、算用ノコトナリ、大人モ、小人モ、算用ヲ知ラネバ、物ノツモリヲ知ラヌ故ニ、教フルナリ、コレ等ノ事ヲ十五マデ、大カタ教ヘテ、サテ十五カラ、大學舎ニテ、右ノ小學ニテ習ヒタル事ノ道理ト人倫ノ道ヲ教フルナリ、導クトハ教ヘタル如クニスルカセヌカヲ見テ、大小ノ鞭ヲコシラヘテ、教ニ隨ハヌヲハ打チタ、クナリ、ソノ時、嚴重ニ氣強イ程ニナケレバ、ニカタナル生マレツキハ直ラヌナリ、教サヘシタラバ、ソノ己々ノ心次第トテ見ノガシニスルハ、師匠ノ情ナリ、嚴シク訓ヘ導クガ、師ノ本意ソト云フ心ナリ、

父教師嚴兩無外學問無成子之罪。

言フハ、父ノシナシモ能ク、師匠モ烈シク導ケドモ、學問ナラヌハ子ノ罪ナリ、子ノ罪ト書キタルハ、遂ニ罪人ナリ、テ、流罪死罪ニナル人ト云フ心ナリ、

煖衣飽食居人倫。

孟子、滕文公上、人之有道、飽食煖衣、逸居而無教、則近於禽獸、聖人有憂之、使契爲司徒、教以人倫、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信、**視我**

笑談如土塊。

故對、**舉高不及下品流**

コレヨリ、惡シキ育チノコトヲ云フゾ、子ヲ持テバ、持ツコトト、人並ニ産ミ出シテ、子ノカハユガリヤウヲモ知ラズ、育テヤウモ知ラヌ人ノ子ノ作法ヲ云フナリ、煖衣飽食トハ、著ル物ノ榮耀ヲ好ミ、ナマニニヤケタルナリヲシ、年ニ似合ハヌ頭巾綿帽子シテ、著ル物ヲ重ネ著テ、カイトツタル處モナク著膨ラシ、食物ニ色々物好ミシテ、何事ニテモ、己ガ所作ハナク、世ヲ渡ルコト成リガタキモ知ラズ、稼穡ノ艱難ヲモ思ハズ、親ニ骨ヲ折ラセテ、學問ヲモセズシテ、人倫ニ居ルモノハ、獸類ト同ジコトナリ、視我トハ、親ノ蔭ヲ以テ我ガ身ノ衣食ノヨキヲ、我ガ手柄ノヤウニ、我ガ身ヲ見テ、人ヲバ笑ヒサゲスミ、ソノ友ダチト談シ、物語シテ、ソノ外ノ自身骨ヲ折ツテ世ヲ渡ル者ヲバ、土クレノ如クニ見コナスト云フ心ナリ、一義ニハ、視我笑談如土塊ノ點ヲ讀ムベキゾ、我トハ、カノ無學ノ子ゾ、ソノ者ノ笑談シテ笑ヒ物語ヲスルヲ傍カラ見レバ、無智無能ニシテ、ヤクニ立ツコトヲ一ツモ言ハズ、一ツモ行ハズシテ、土クレコロメクト同ジコトジヤト云フ心ゾ、次ノ文章ヘトリツヅクハ、コノ義ガヨキゾ、舉高不及下品流トヨム點ノ心ハ、カノ無學ノ人、土クレノ如クコロメキ、ワケモナキコトバカリ笑談シテ、我ト我ガ身ヲ高ク引キアゲテ、下品ノ流ニモ智恵ハ及バズト云フ義ナリ、一義ニハ、舉高不及下品流トヨム點ノ心ナリ、下品ノ流ヲストハ、下品ノコトバカリヲスルナリ、善キ事ハ仕習ハズシテ、賤シキコトバカリ仕習フ義ナリ

下ノ文章ノ續キハ、コノ義ガマシタゾ、

稍遇賢才無與對。

言フハ、常ニ高上ノ事ヲ習ハズシテ、下品ノ事バカリニ慣ル、故ニ、賢才ニ遇ウテハ、言フコトモナラズ、物語ノ返答モ得セイデ、顔色ヲアカメテ居ルゾ、稍トハ、少シノ間モ賢才ト言フコトハナラヌト云フコトゾ、注ニ、逸居トハ逸樂ト云ウテ、所作ナク、樂バカリシテ居ルコトゾ、契トハ、舜ノ臣下ゾ、帝嚳ノ子ナリ、母ヲ簡狄ト云フゾ、玄鳥ノ卵ヲ墮スヲ見テ、コレヲ呑ンデ、孕ンデ契ヲ生シタゾ、長ジテ禹ヲ佐ケテ水ヲ治メテ功アリ、舜命ジテ司徒ノ官トナシ、以テ五教ヲ教ヘサセラレタゾ、五教ハ父子君臣夫婦長幼朋友ノ道ゾ、ソノ後、次第二教ノ道ヲ天下ニ廣クナリタゾ、父子有親ト云フハ、他人ハ中ヨキ時ハ、友ナレドモ、中絶スレバ親シミナシ、父子ノ間ハ、千里萬里遠クテモ、近所ニアルヨリモ親シミ深シ、又中ヲ違ヒテモ、父子ニテナキトハ云ハレズ、死シテ後マデモ、父ハ父、子ハ子ト云フナレバ、何トシテモ親シミ切レヌニヨリテ父子有親ト云フナリ、君臣有義ト云フハ、君トナリ臣トナルハ、恩義ノアル間ナリ、扶持ヲヤリ知行ヲツカハサル、間ハ、君ナリ、臣ナリ、君臣ノ義ツヨシ、知行ヲアゲ扶持ヲ取ラネバ、君臣ニ非ズ、故ニ恩義ノアル間ノ道ナルホドニ、君臣ハ義ト云フナリ、夫婦有別ト云フハ、高位ナル人ハ、居所モ、道具モ、男女ハ別々ニスルモノナリ、尤モ所作モ政モ各別ナリ、下々ノ者ハ居處道具ハ、各別ニ作ルコトハナラズ、通用スレドモ、男ハ公界世間ノ事ヲ掌リ、女ハ内證ノ食物衣類ノ事バカリ、職トシテ縫ヒ洗ヒ味増鹽ノコトヲツカサドルモノナリ、大家モ、小家モ、女ガマ、ニスレバ、家亡ブルモノナリ、女ハ男ニ隨フモノゾ、ソノツカサドルコトハ各別ナリ、故ニ有別ト云フゾ、長幼有秩序、兄ハサキニ生マレテ、萬事ソノ家ノ頭ナリ、弟ハ次ニ生マレテ、兄ニ隨フモノナリ、コレモ自然ノ道理ナリ、親ノ内ニ在ル時ニハ、兄弟ガ萬事トヒ隨フモノナリ、兄ガ必ズ弟ヲ引キマワ

スモノナリ、後二年タケテカラ、互ニ欲心ガ出來テ、兄弟ノ道ガ破ル、ゾ、幼キ時ノ如ク、兄弟ヲ忘レヌヲ有レ序ト云フ、朋友有信ト云フハ、友ハ必ズ親シミノ切レヌ仔細モナク、恩義モナク、但シ互ニ言葉ノ懇ニテ友トナルモノナリ、ソレガ破レテハ、友ノ道ナシ、故ニ有信ト云フゾ、

勉後生力求誨投明師莫自昧。

コレカラハ、學問ヲツトメヨト勸ムル文章ゾ、後生トハ、今カラ學問スル若キ衆ノコトゾ、カトハ、力ノ及ブホド努メヨト云フ心ゾ、求誨トハ、人ノ教ヲ受クルヤウニ求メヨゾ、我が爲ニナル學問ヲ人ノ氣ニ入ラヌヤウニシテハ、誰カ教ヘンゾ、此方ヨリ眞實ニ望ミ、師ニ仕ヘテ、感ジテ教ヘラル、ヤウニセヨゾ、シカシナガラ、師匠ガ惡ルクバ、用ニ立ツマイゾ、明師ヲ擇ビテ、身ヲ任セテ習ヘゾ、投身トハ、我が身ヲナゲカケテ、師ヲ頼メゾ、惡シキ師ヲ取レバ、却ツテ我が智ガ味ムゾ、自ラ味カラヌヤウニセヨゾ、學文ノ所詮ハ、心ノ明カニナルガセンゾ、

一朝雲路果然登姓名亞等呼先輩。

言フハ、一朝ハ大學ノ一旦靡然ノコトゾ、久シク學問ニ功ヲ積メバ、ドコゾニテ、一朝ニ發明シテ、萬里ガ明カニナリテ、高上ニナルゾ、果然ト云フハ、果シテ然リトナリ、必定ト云フ心ゾ、雲路トハ、高ク學徳ガ登ルタトヘゾ、カクノ加ク、智慧ガ登レバ、翰林學士ナドノ大官ニナル程ニ、昇殿シテ大官ニナルヲモ雲路ト云フゾ、先ヅ知ガ雲路ニ上リ、高上ニナリテ、次ニ必ズ身ガ大官ニ成ツテ、雲路ニ登ルゾ、姓名亞等トハ先代ノ聖賢ニツイデ、名ガ高クナリテ、今ヨリ後ノ人ニ又先輩ト呼バレテ、前賢ト齊シク名人ト呼バレテ、天下ニ名ガ高クナルゾ、

室中若未結親姻自有佳人求匹配。



如シ、作りタル所詮ナシ、學ンデ勤メヌハ、學ビタル詮ナシ、愈ヨ其身ヲ愛セザルナリ、

是故養子必教。教則必嚴。嚴則必勤。勤則必成。

コレマデハ、上文ヲ決スル語ナリ、別ニ心ナシ、

學則庶人之子爲公卿。不學則公卿之子爲庶人。

人知勤學、則賤者可レ使之貴、苟不レ知學、則貴者反爲レ賤矣、

言フハ、學文成就シテ、畢竟何ノ用所ニナルト云フコトナリ、學文成就ノ功ハ、庶人ノ子、賤シキ人モ、三公九卿ノ位トナリ、學バサレバ、三公九卿ノ子モ、庶人ノ賤シキ者トナリ下ルト云フ義ナリ、注モ此心ナリ、公ハ三公ゾ、太師、般紂ノ時、箕子之ヲ爲ス、周ノ武王ノ時ハ太公、成王ノ時ハ周公、太傅、周ノ成王ノ時、畢公之ヲ爲ス、太保、般ノ太甲ノ時、伊尹之ヲ爲ス、周ノ成王ノ時、召公之ヲ爲ス、以上カラノ三公ナリ、日本ニハ太政大臣・左大臣・右大臣ヲ三公ト云フ、内大臣ハ、大政大臣ナキ時ニハ、三公ニ入ル、ゾ、内大臣ハ、ムカシハ太政大臣ノカヘナル故ニ、左右ノ大臣ヨリ上ゾ、今ハ左右ノ大臣ヨリ下ゾ、今ハ左右ノ大臣ニナルベキ人、先ヅ内大臣ニナル故ニ下ゾ、九卿ハ、三公ト六卿ヲ合セテ九卿トモ云フゾ、又三公ナクシテ、卿九人ノ時モアルソ、日本デハ三位以上參議カラテ卿ト云フソ、六卿ノ名ハ八省ニアタルゾ、大藏ト宮内ト二ツヲ入レテ八省ゾ、ソノ外ノ六ツハ、唐ノ六卿ニアタルゾ、八省ノ有テ卿ト云フゾ、名ハ六卿ニ當レドモ、公卿ト云フ時ハ、八省バカリヲ卿トハ云ハズ、三位以上、大中納言モ皆卿ゾ、畢竟學文スレバ、大官ニナルト云フ心ゾ、日本ニハ代々ソノ家々ノ官アリテ、學文シテモ、家ノ低キハ、大官ニハナラネドモ、學文シテ其心ヨクナレバ、大名ニナリテ、國ヲ治ムルコトハアルゾ、國ノ守ニナレバ、大官ニモ登ル人多シ、サリナガラ、日本モ人ヲ選バズシテ官ニナスコトハ、近代ノコトナリ、ムカシハ學文次第ニ官ニ登リタルゾ、大

臣攝政關白ナドニ代々藤原氏ノ人ヲナスベキト、神教ノアルヨシゾ、ソレモ、藤氏ノ中ニテ隨分器量ヲ選ビテナシタルゾ、

●王荆公勸學文

名安石、字介甫、宋朝人、好學、官至丞相、

王荆公ノ傳、東都事略ニモ言行錄ニモアリ、注、名ハ安石、字ハ介甫、宋朝ノ人、學ヲ好ンデ、官ハ丞相ニ至ルト云フ、荆公ノ詩ハ、宋ニシテ唐ナル者ト書イタホドニ、詩文モ善ク作スルゾ、天下ノ世務ニ預リタル人ヂヤ程ニ、隙モアルマイガ、學文スキタル故ニカ、臨川集百卷アリ、新法ヲ作ツテ、民財ヲ取ル政ガ惡シカリシ故ニ、二度大官ニナツテ、三たび退ケラレタソ、八年退居シテ六十六デ死ンタゾ、宋紀ニ云フ、神宗熙寧ノ初ニ入對シテ、二年ニ參知政事ニナレリ●王安石執政六年、有罪免●又二年目ニ平章事トナル●安石退イテ疾ヲ屬ス、帝慰勉シテ復タ出デシム、ソノ後、再ビ相トナル、元豐元年、舒國公ニ封ゼラル、哲宗元祐元年四月卒ス

訓讀 讀書破費せず、讀書萬倍の利、書は官人の才を顯し、書は君子の智を添ふ、有れば即ち書樓を起し、無ければ即ち書櫃を致す、窓前には古書を見る、燈下に書義を尋ぬ、貧者書に因つて富み、富者書に因つて貴く、愚者書を得て賢に、賢者書に因つて利只だ書を読んで榮ゆるを見る、書を読んで墜つるを見ず、金を賣り書を買つて讀め、書を読んで金を買ふは易し、好書卒に逢ひ難し、好書眞に致し難し、讀書の人に勧め奉る、好書は心記に在り、

讀書不破費。

讀書人不レ用破所費、

言フハ、書ヲ讀ムニハ、財ヲ費シ物ノ入ル事モ無イゾ、讀ム物ヲ胸中ニ收ムレバ、置キ處モ入ラズ、盜ノ用心モ入ラズ、他所ヘ行クニモ馬車ノ費モ入ラヌゾ、只ダ讀ミテ胸ニ收ムルマデゾ、

讀書萬倍利。

自有萬倍  
無窮利用。

言フハ、書ヲ讀ムコトハ、少シニテモ用ニ立ツコトハ萬倍ノ利ゾ、萬倍ト云フハ、一粒ノ物ヲ植ユレバ、萬粒ノ實ガナル如クニ、一卷讀メバ、ソノ中ニハ我が知ヲ増シ、行迹ヲ善クシ、古今ノ變化ヲ知り、様様ノコトガアルホドニ、何程ノ利ト云フ限リハナイト云フ心ゾ、

書顯官人才。

能修讀、文才愈顯達、詩、  
檇樸、文王能官人也、

注ニアル如ク、官人ノ心ナレバ、只ダ官アル人ノオト云フ心ゾ、官人ト云フニハ、一官ノ名ニ官人ト云フモアレドモ、ココハ只ダ官アル人ト云フ心ゾ、一官ノコトニアラズ、

書添君子智。

能讀、書愈、  
増其智慧、

言フハ、人皆根本ノ智ヲ生マレツキタルナリ、故ニ仁義禮智ハ人ノ本性ト云フ、然レドモ、人欲ニ蔽ハレテ、ソノ智慧明カナラズ、喻ヘバ、玉ノ本性ハ明玉ナレドモ、土ニヨゴレタルガ如シ、琢キテ清クスレバ、玉ノ光出ヅル如クナリ、書ヲ讀ミテ、古今ノ是非ヲ聞キテ、我が生マレツキノ智慧ガ愈ヨ明カニナルゾ、君子トハ、在位ノ君子、有徳ノ君子、總ジテ學者ヲ君子トモ云フゾ、今ハ學者ヲ指シテ君子ト云フゾ、ソノ中ニ在位モアルゾ、學成就スレバ、有徳ノ君子ゾ、

有即起書樓。

有レ力即便架、樓藏、書、  
唐田弘正起、樓聚、書、

【有レ力即便架、樓藏、書】トハ、有力ナル人ハ、樓閣ヲ立テヨ、架トハ棚ナリ、樓閣ニ重ネ重ネ棚ヲシテ書ヲ藏メヨトナリ、【唐田弘正】字安道、唐書、幼通兵法、善騎射、承嗣愛之、以爲必興、吾宗名之曰興季安、時爲衛內兵馬使、長慶元年七月、歸衛卒於魏、弘正性忠孝、好功名、起樓聚書萬餘卷、通春秋左氏、ト云ヘリ、憲宗ノ時、侍中ヲ兼、節度使ニモナツタゾ、有力ナラバ此ノ如クセヨト云フ心ゾ、

無即致書櫃。

無レ力者、作書櫃、藏、  
之、勿令蠹毀、

言フハ、蠹ノサシソコナハヌヤウニ、櫃ニ入レテ置ケゾ、

窓前看古書。

螢窓雪案間、宜勤、  
看古昔賢聖之書、

【螢窓】トハ、車胤ト云フ者ガ燈ガナイ時ハ、螢ヲ聚メテ囊ニ入レテ、ソノ光ニテ窓前ニ書ヲ見タゾ、蒙求ニ在ルゾ、晉、車胤、字武子、篤學不倦、夏月囊螢讀書、晉太元中、遷吏部尚書、注ニ、雪案トハ、雪ヲ聚メテ、案ノ前ニ置イテ、ソノ光ニテ書ヲ見タト云フゾ、蒙求ニ孫康映雪ト載セタゾ、梁、孫康、少小清介、常映雪讀書、後爲御史大夫、ト云ヘリ、【宜勤看古昔賢聖書】トハ、書ヲ見ルホドナラバ、百家ノ書ヲ見ルハ益ガナイゾ、賢人聖人ノ古書ヲ見ヨゾ、

燈下尋書義。

當燈火稍可、相親之際、  
宜搜尋書中意義也、

【當燈火稍可、相親之際】トハ、晝ハ云フニ及バズ、夜學ヲセヨゾ、相親トハ、燈火ニ近クヨリテト云フ心ゾ、【宜搜尋書中意義】トハ、晝ハヒタモノ讀ンデ、夜ハ晝ノコ、ロ義理ヲ思案シテ、先後ヲ能ク吟味シテ、書中ニテ搜リ尋ネヨ、亦タ人ニモ問ヘゾ、夜ハ心靜ニナル故ニ、意義ヲ見ルニハ夜學ニシクハナシ、

貧者因書富

貧乏者、知勤讀書、由之此可致千金之富、

コレヨリ、書ヲ讀ンテ益ノアルコトヲ云フゾ、**困**【貧乏者、知勤讀書、由之此可致千金之富】トハ、世俗ニ一字千金トサヘ云フホドニ、學文シテ、其德ニテハ幾千金ノ德益アラランゾ、限リナシト云フ心ゾ、

富者因書貴

富足者、知勤學、榮貴由之此而興、

言フハ、學文次第ニ官位ニ登ルホドニ、書ニ因ツテ貴ク榮フルゾ、日本ニテモ、富貴ナル人ノ物知リタルハ、愈ヨ人ガ崇敬スルゾ、如何程、富ンデモ、カタコトバカリ云フ者ハ、人ガ笑フゾ、

愚者得書賢

本性愚昧、教以之、書則成賢人、

コノ注ノ本性ノ二字ハ、氣質ノ性ニ見タガヨイゾ、人ノ本性ハ、皆仁義禮智ゾ、愚昧ナル性ト云フモノハナイゾ、氣質ノ性ヲ本性ト云フタゾ、愚昧トハ、オロカニシテ、心ノ理ニ暗キヲ云フゾ、コノ生マレツキノ人モ、學文シテ、賢ニナルゾ、先ツ學文シテ見タラバ、ソノ道理ガヨク合點ガユクベキゾ、例ヘバ、二年三年、學文シテ見ルニ、ハジメノ智慧ト二年目ノ智慧ト大ニ變ルゾ、三年目ニハ、ハジメノ事ハ我ト見カギルゾ、コレヲヒタ物ツトメテ行ク時ハ、賢人ニナルヲ、中頃ニ棄ツル故ニ、モトノ物ニナリ返ルゾ、竹ヤ木ヲ矯ムルニ、一日二日矯メテ置ケバ、ヤガテ、モトノ如クニナルゾ、一年モ、二年モ、矯メ入レタレバ、本ノ如クニハナラヌゾ、人モ生マレツキノ良クモナキヲ、一年ノ中二十日ヤ二十日學文シテ、中頃棄テタラバ、何トシテ、賢人ニナルベキゾ、年月ヲ積ミ、タメノ起ラヌホドニシタラバ、賢人ニナライデハゾ、

賢者因書利

賢人加以勤學、則因讀書、富貴利益、

コノ注ハ、利ノ字ヲ富貴ノ利トバカリ見テハ狭イゾ、利トハ物ヲ利スルナリ、生マレツキノ賢ナル者ハ、學文ニテ愈ヨ賢才ガマサリテ物ヲ利スルゾ、賢ト云フハ、生マレツキノ善キコトナリ、賢ノ用ハ才ナリ、才ハ學文セネバ高クナラヌゾ、才ガ高クナレバ、物ヲ利スルナリ、物ヲ利スルトハ、人ノ用ニ立チ、萬物ノ用ニ立ツテ、萬事ヲ能クスル故ニ、人民萬物ノ爲ニ利ガアルゾ、富貴ニナルコトハ、ソノ中ニ自然ニアランゾ、

只見讀書榮

荆公云、讀書者、只見身榮貴、

コノ段ハ、荆公ガ見及ビタルニ、書ヲ讀ンデ榮ヘタ者ヲバ見タ、書ヲ讀ミタル故ニ、オチブレタルト云フモノハ見ヌト云フ心ゾ、**困**モ、コノ心ゾ【未嘗見其敗壞】ト云フハ、書ヲ讀ミタル故ニ、身上ノ壞ブレタ者ハ見ヌゾトナリ、書ヲ讀ミタルモノニテモ、別ノ惡シキコトガアレバ、罪ニアフゾ、書ヲ讀ミタルガ障リニナリテ、壞レニナリタト云フモノハナイゾ、又別ノコトハナケレドモ、書ヲ讀ミタル功ニ榮ヘタハ見タト云フ心ゾ、

賣金買書讀

當貨賣家藏之、金以收致書籍、

賣買ノ二字ハ、有ルヲヤリテ無キヲ取ル心ナレバ、金ヲ書ニ換ヘテ讀メトノ心ゾ、注モ同ジコトゾ、

讀書買金易

讀書榮達後、買金又何難、

**困**【讀書……】難トハ、書ヲ讀ミテ賢人ニナリ、官ニ上リ、俸祿ヲ取リテ後ニハ、金ハ何程モアルホドニ、金ハ求メ易

シト云フコトゾ、買金トハ、始メ賣金ト云フ句ニ對シテ書イタマテゾ、榮達ノ二字ハ、榮ハ官位ニ上リテ家ノ榮ユルコトゾ、達ハ上ニ達スルゾ、人ノ上ニイタル心ゾ、

好書卒難逢

天下好書籍、驟然難<sub>レ</sub>遇見、卒<sub>レ</sub>倉沒反、

【天下……見】トハ、ヨキ書籍ハ人モ祕シテ卒爾ニ出サヌホドニ逢ヒガタキゾ、

好書眞難致

應<sub>レ</sub>好書籍、眞箇未<sub>レ</sub>易<sub>レ</sub>收致、

難致トハ、我が物ニ致シガタキト云フ心ゾ、

奉勸讀書人

荆公勸<sub>レ</sub>勉<sub>レ</sub>世人<sub>レ</sub>修讀、

コノ段ハ、荆公ガ讀書ヲ人ニ勸ムル本意ヲ書キタゾ【勸……讀】ハ、世人ニ書ヲ讀メト勸ムルゾ、

好書在心記

若<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>好書、當<sub>レ</sub>留<sub>レ</sub>心記取<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>忘也、

コレガ荆公ノ本意ナリ、好書ハ得ガタキモノ、逢ヒ難キ者ゾト云フテ、書籍ヲ重寶スルハ、心ニ記シテ能ク覺エヨト云フコトナリ、心ニ記シテ覺エズバ、好書ヲ祕藏シテモ、何ノ用ニモ立タヌ、入ラヌコトゾ【若見好……忘】トハ好キ書籍ハ稀ナル者ニシテ、逢ヒ難キ物ゾト云フゾ、コノ意ハ心ヲ留メテ見トリテ、心ニ確ト徹シテ覺エテ置ケト云ハン爲ゾ、忘レテハ、何ホド好キ書ニテモ、詮ガナイゾト云フ義ナリ、コノ文モ、皆五言ニシテ韻ヲフンダゾ、

白樂天勸學文

姓<sub>ハ</sub>白、名<sub>ハ</sub>居易、唐人、

唐ノ代宗大曆七年ニ生マレテ、憲宗ノ元和二年、翰林學士トナリ、元和十年、九江郡司馬ニ左遷シ、穆宗長慶二年、杭州ニ知トナリ、武宗ノ時、隱居シテ、香山ニ籠ツテ參禪ナドヲシタゾ、自ラ醉吟先生ト號ス、宣宗ノ大中元年丁卯、七十六デ卒シタゾ、一説ニハ、七十五トモアルゾ、九歳ニシテ聲律ヲ諳識ス、眞言ニ文殊ノ贊トテ、博士ヲ付ケテ讀ムモ、樂天ノ作ゾ、樂天ハ字ト云フ説モアルゾ、居易ガ名ヂヤホドニ、樂天ハ字ニテアラシク、白樂天ハ東坡ト云フ處ニ居タゾ、蘇子瞻ヲ東坡ト云フモ、樂天ヲ學ビタル故ニ東坡ト云フタゾ、佛道ヲ信ジテ、詩ヲ作ルコトヲバ、狂言綺語ノ誤ト云フタゾ、白氏文集ガ和歌ナドノ手本ニモナルゾ、代宗カラ武宗マデ九代居タゾ、

田あれども耕さざれば倉廩虚し、書あれども教へざれば子孫愚なり、倉廩虚なれば歳月乏し、子孫愚なれば禮儀疎、惟だ耕さざると教へざるとの若き、これ乃ち父兄の過か、

有田不耕倉廩虚

人有<sub>レ</sub>田、不<sub>レ</sub>耕、種<sub>レ</sub>則<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>穀、可<sub>レ</sub>收、故<sub>レ</sub>倉廩空虚、

言フハ、田地アレバトテ、ソノ儘置キテ五穀ハ生ゼヌ、人ノ力ヲ以テ耕シ草キラザレバ、米ハ出来ヌゾ、人モ生マレツキノ儘ニシテ置ケバ、田アレドモ耕サヌト同ジコトゾ、學文ヲスルハ、田ガヘシ草キル心ゾ、倉廩ハクラゾ、藏ヲ收ムベキ米ガ無イゾ、虚トハ、米ガナイ心ゾ、人モ學文セネバ、智恵ガ無イホドニ、空キタル倉ノ如シ【人有田……虚】トハ、耕種ハ田ガヘシ種子マク心ゾ、人モ學文シテ耕ス心ゾ、智慧ノ出来スルハ種子マク心ゾ、

有書不教子孫愚

人有子孫不教之  
讀書則爲愚夫

注ノ意ハ、子孫ヲホシキト云フハ、ソノ家ヲ繼ギ榮ヘサセンガ爲ナリ、愚ナル子孫ハ、家ヲ破ルホドニ、無キガマシ  
ゾ、書ガ何ホドアリテモ、教ヘネバ子孫愚ナリ、子孫ノ愚ハ親ノアヤマチゾ、

倉廩虛兮歲月乏

倉廩空虛、無儲蓄  
則度歲月必匱乏

言フハ、田地アリナガラ、倉廩空シウシテ儲ケ貯ヘ無キ時ハ、渡世乏シク貧ナリ、歲月乏トハ、渡世ノ歲月ナリ、一  
ケ月モ、二ケ月モ、一年モ何トモナラヌコトガアルゾ、人モ天性ヲ生マレツキナガラ、學文ヲセネバ、身ノ置キ處ガ  
ナク、世ヲ渡リカヌルゾカラノコトゾ、

子孫愚兮禮義疎

子孫不學愚魯、則  
於禮義必乖疎

唐ハ禮義ヲ知ラネバ、世ニ立ツコトガナラヌゾ、禮義ニソムケバ、罪ニ入ルゾ、學文ヲセネバ、禮義ヲ知ラヌゾ、魯  
ノ字モ、魯鈍トテ、ドンナコトゾ、愚魯ハウツケタト云フコトゾ、

若惟不耕與不教

若惟是有田不  
耕與有子不教

是乃父兄之過歟  
乃爲父  
兄之過

耕スト云フハ、學文ノタトヘノミナラズ、人ノ職々ヲ勤メヨト云フ心サリ、子ハ子ノ職、父ハ父ノ職、君ハ君ノ職、  
臣ハ臣ノ職、ソノ外、士農工商、ソレゾレノ職ヲ勤メナシ、學文ヲセヨゾ、子タルモノ、學文ヲモセヌハ、ソノ子ノ  
咎バカリデハナイゾ、親元ガゾ、人ノ親ニナル職ヲ知ラヌゾ、弟タルモノ、イタヅラナルハ、ソノ人ノ過ノミナラズ

兄タル人ノ過ゾ、父兄タル人、子弟ノ育テヤウラシラヌハ曲事ゾ、注モ同シ心ナリ、

朱文公勸學文

謂人之爲學、當勉勵  
進修、不可因循苟且

題注ノ意ハ、急ニ學文ヲ勵マセト云フ心ゾ、因循ハ序々ニスルコトナリ、苟且ハマゾカウメテケト云フ心ゾ、  
サヤウニシテハ、學文ハナラヌ者ゾ、キツト勵マセト云フ心ゾ ●朱文公、名熹、字元晦、南宋高宗建延四年九月甲  
寅生、居紫陽山下、築室建陽、號雲谷老人、其草堂曰晦菴、故號晦翁、晚居考亭精舍、號蒼州病叟、始歷除兵  
部郎官江西提刑、而後爲崇政殿說書、辭不至、爲待講、又爲知潭州、紹熙中、爲煥章閣待制、以疾丐、休致、  
號遜翁、寧宗慶元六年三月乙丑日以疾卒、壽七十一、大學中庸章句成ツテ十一年目ニ卒シタゾ、一心ヲ以テ造  
化ヲ究メ、性情ノ妙ニ至リ、四書五經ノ誤ヲ正シ、集注ヲ作り、易ノ本義ヲ作り、儒道ノ正路ヲ天下ニ流傳シ  
タルハ、朱文公ニ若クハナシ、朱子ヲ宗トセザレバ、學ニ非ズト云フタゾ、理宗ノ朝ニ大師ヲ贈リ、徽國公ニ  
封セラレタ人ゾ、

謂ふ勿れ今日學ばずして來日ありと、謂ふ勿れ今年學ばずして來年ありと、日月逝きぬ、歳我を延ばさず、嗚呼老いたり、  
是れ誰の愆ぞや、

勿謂今日不學而有來日

學文スルモノハ、今日ハ心ガ向カヌハ、又ハ隙ガ入ルハト云フコトナカレ、今日心ガ向カネバ、明日モ又心ガ向カヌ  
モノゾ、今日隙ガ入ルト云ヘバ、明日モ隙ノ入ルコトガ出來ルモノゾ、今日ムヅカシケレバ、明日モムヅカシキゾ、  
毎日同ジ我ガ身ナレバ、イツモ同ジ心ゾ、今日ヲ明日ト延ベテ行クモノハ、學文スル日ハナイゾ、



勿謂今年不學而有來年。

言フハ、今年ハ何事ニ指合ノ用ガ多キホドニ、コノ際ヲアケテ來年ト云フモノハ、又來年モ、別ノ用ガ、ヒタモノ出來ルホドニ、學文スル年ハナクナルゾ、

日月逝矣。歲不我延。

言フハ、日月ハ片時モ待タズ、光陰箭ノ如ク移リテ、我ガ延バスコトヲ待タズ、今年空シク送レバ、最早二度今年ノ我ガ年ニハナラヌ故ニ、イカサマ學文ヲセント思フ中ニ年月ハ去ルゾ、

嗚呼老矣。是誰之愆。

老而不學。悔將何及。

學文ヲセント思フ中ニ、年ガ寄りテ、最早ナラヌ時ニ嘆クゾ、嗚呼ハ嘆ク聲ゾ、年ヨリテ次第ニ氣力衰ヘテナラヌニ極マル時、後悔スルゾ、誰ヲ恨ムベキヤウモナイゾ、我ガ過ヂヤト云フ心ゾ、世間ノ人ノ年老イタルヲ見ルニ、一向ノ無智ナル者ハ、言葉ニ載スルニ及バズ、中ヨリ上人ハ、無智無學ニシテ、年ヨリテ後悔セヌ人ハナイゾ、若キ時ハ、武士ハ武勇一片、町人ハ職一片ナレドモ、武士ノ武勇アル人モ、年ヨリテ馬物ノ具ノ輕業モナラズ、人ニ年ヨリトテ馳走セラレテ、少キ人ヨリ無學無智ナルハ、傍ヨリ見テモ香シカラズ、ソノ身ニナリテモ、少キ時、學文スベキモノヲ後悔セヌハナシ、後悔セヌホドノ人ハ、恥ヲ知ラズ故ニ、ナマ年ヨリテ片腹イタキコトヲ云フゾ、町人モ、富貴ニナリテ、町ノオトナ年ヨリニナリテ、無下ナル事ヲ云フハ、人ガ笑フゾ、マシテ、公家ハ其家ナレバ沙汰ニ及バズ、人ノ人タルハ、學文ニ如クハナシ、コノ故ニ、古文真寶ノ始ニ勸學ノ文ヲ置イテ、人ヲ學ニ勸メ、終ニ出師陳情ノ表ヲ置イテ、學文シテハ、必ズ忠孝ヲ本トセヨト云フ心ニ編ミタル書ゾ、

符讀書城南

韓昌黎先生有子、名符、讀書於郡城之南、作此篇勉之、蓋欲學者、知學則爲君子、不學則爲小人一耳、

韓退之

昶、小字符、幼讀書城南、長慶中、進士、爲集賢校理、尚書、故實、昶之子昶不惠、爲集賢校理、史傳有金根車、韓昶以爲誤、改根爲銀、韓文第六古詩部載之、題下注、樊曰、符公之子、城南公別墅所在、孟東野詩有喜符郎詩、有三天縱、有遊城南韓氏莊之作、張籍詩、有子符奉其言、有養疾城南莊之語、按墓誌及登科記、公子曰昶、登進士第、在長慶四年、此云符則疑爲昶之小字也、元和十一年秋、作長慶、穆宗、元和憲宗、漁隱前集十六、東坡云、昶之示兒、云、主婦治北堂、膳服適戚疎、恩封高平君、子孫從朝罷、開門問誰來、無非卿大夫、不知官高卑、玉帶懸金魚、又云、凡此座中人、十九持釣竿、所言皆利祿事也、至老杜、則不然、示宗武云、試吟青玉案、莫羨紫香囊、應須飽經術、已似愛文章、十五男兒志、三千弟子行、曾子與游夏、達者得升堂、所示皆聖賢事也、

訓 木の規矩に就く、梓匠論輿に在り、人の能く人たる、腹に詩書あるに由る、詩書勵むれば乃ち有り、勤めざれば腹空虚、學の力を知らむと欲せば、賢愚同一初、その學ばざるに由つて、入るところ途に開を異にす、兩家各子を生ず、提孩巧に相如く、少長聚まつて嬉戯、同隊の魚に異ならず、年十二三に至る、頭角稍や相疎なり、二十漸く乖張、清漣汗流に映ず、三十にして骨體成る、乃ち一龍一猪、飛黃騰踏して去り、蟾蜍を顧る能はず、一は馬前の卒となり、背を鞭たれて蟲蛆を生ず、一は公と相となり、潭潭府中に居る、これを問ふ何に因つて爾る、學ぶと學ばざるとか、金壁は重寶と雖も、費用貯儲し難し、學問は之を身に藏すれば、身在れば餘あり、君子と小人と、父母に繋ばらず、見すや公と相と、身を起す聲動よりす、見すや三公の後、寒饑出づるに馳なし、文章豈に貴からざらむや、經訓乃ち舊書、潢潦根源なし、朝に滿つれば夕までに除く、人古今に通ぜず、馬牛にして糞器、

身を行つて不義に陥る、況んや名譽多きを望むをや、時秋にして積雨霽れ、新涼郊墟に入る、燈火稍く親むべし、簡編卷舒すべし、豈に且夕を念はざらむや、爾の爲に居語を惜む、恩義相奉ふあり、詩を作つて躊躇を勤む、

木之就規矩。

凡木之成就、於規圓矩方也。惟在梓匠輪輿、木之工、爾事見周禮、孫曰、梓匠輪輿、皆木工也、韓曰、孟子盡心、梓匠輪輿、能與人規矩、不能使三人巧、

在梓匠輪輿。

惟在梓匠人輪輿人攻、

人之能爲人。由腹有詩書。

自其胸次之間、有詩書充實之美、

詩書勤乃有。

誦詩讀書、勤乃有、得、

不勤腹空虛。

若不專勤、則心

腹空空

欲知學之力。賢愚同一初。

賢智愚昧、同此有生之初、初者木然之性也、

由其不能學。所入遂異閭。

所以遂異

其門、兩家各生子。提孩巧相如。少長聚嬉戲。

稍稍長大、則相聚嬉遊、戲、少書治切、

漫曼詩話云、符讀書城南、詩云、少長聚嬉戲、不殊、同隊魚、世人多讀爲長少之少、及閱漢史匈奴傳、云、兒能騎羊引弓、射鳥鼠、少長即能射、狐兔、乃知爲多少之少、韓文注、羊作牛、

不殊同隊魚。

不殊、異於水中同隊之魚、

補注、山谷次韻高子勉、忽作飛黃去、頓超同隊魚、皆用公語也、

年至十二三。頭角稍相疎。

學者嶄然露頭角、稍稍與不學者相疎外矣、

二十漸乖張。清溝映汗渠。

如清榮之溝、映汗濁之渠、

十骨骼成。乃一龍一豬。

於是一學者如神龍之有變化、不學者則如豬畜之無變化也、

集注、說文、禽獸骨曰骼、此云骨骼、爲一龍一豬、而言也、杜工部瘦馬行、骨骼硬兀如塔墻、禮記、掩骼埋骨、骼音洛、韻府、入聲、骼音格、古伯切、骨也、揚雄傳、折骨拉骼、埤雅云、龍八十一鱗、九九之數、有鱗曰蛟龍、有翼曰應龍、有角曰虬龍、爾雅、馬高八尺以上爲龍、豬陟魚切、與豕豨豚通用、易說卦、艮爲黔喙之屬、豬稱、烏將軍、歐公云、接援泥淖、計、無異、鴨與豬、王逸少云、凡字多肉少骨謂之墨猪、

飛黃騰踏去。

龍馬飛黃騰踏、

淮南子、黃帝時、飛黃服卓、飛黃神馬也、詩、乘彼黃、選、張景陽七命、整頓其輅、驂飛黃、又淮南子曰、黃帝治天下、於是飛黃服卓、高誘曰、飛黃如狐、背上有角、乘之壽三千歲也、

不能顧蟾蜍。

蟾蜍者、

蟾蜍ハ、注ニ硯滴也ト云ヒ、硯ノ水ヲ云フゾ、無學ノ者ハ、硯モ入ラザルホドニ、顧ミモセヌゾ、又ハ蝦蟇也ト云フゾ、蝦ナドモ蟾ヲ拵ヘテ用心ヲスレドモ、遂ニ用ニモ得立タイデ、人ニ捕ラレテ果ツルゾ、ソノ如クニ、入ラヌコトヲ爲ウヨリモ、學文ヲセヨトノ異見ゾ、

一爲馬前卒。

其不學者、爲馬前至賤之走卒也、

鞭背生蟲蛆。

有過則受鞭背之刑、肉腐則生蟲蛆之惡、

一二背上生蟲蛆。二作ル、蛆蟲肉中ニ在ルゾ、言フハ、不學者ハ、馬追ラシテ歩キ、又ハ馬ノ口取リト成ツテ、背ノ

肉ヲ打破ラレテ、サテ皮肉ノ間ニ蛆ヲ涌カシテ、ムサイ日ヲスルゾ、

一爲公與相潭潭府中居

潭潭、大府之中居處、

史記陳勝傳、陳涉之爲王沈沈者、注、宮室深遠貌、集韻、通作、亦通作潭、又魏都賦、耽耽帝宇、注同上、言フハ、不學者ハ馬ノ口取リトナルニ、學問ヲスレバ、三公トモナリ、宰相トモナリ、王者トモナリテ、潭潭タル深遠ノ宮室ニ入ルゾ、コレハ何事ゾナレバ、學文故ゾ、

問之何因爾學與不學歟

學者ト不學者トハ、一毛泰山隔ツホドノコトノ、イカイ違ヒイゾ、補注、上舍陸唐老曰、退之不絶、吟六藝之文、不停、披百家之編、招諸生、立館舍、勉勵其行業之未至、而深戒其責、望於有司、此豈有利心於吾道者、佛骨一疏、議論奮激、曾不下以去就禍福、題其操、原道一書、累千百言、攘斥異端、用力殆與孟軻氏等、退之所學所行、亦無愧矣、惟符讀書城南一詩、乃微見其有反於向之所自得、駭目潭潭之居、揜鼻蟲蛆之背、切切然餌其幼子、以富貴利達之美、此豈故韓愈哉、

金壁雖重寶

黃金碧玉雖貴重之寶、

費用難貯儲

然耗費用度、難以收貯儲藏、

言フハ、金銀珠玉ハ、寶トハ云ヘドモ、永ク儲ヘ難キ物ゾ、コレハ當座ノ物デ、末代マデ吾ガ身ニツカヌ、學文ハ末代マデ名ヲ殘ルゾ、人ハ一代、名ハ末代ゾ、

學問藏之身身在則有餘

此身在則學問自有餘用、

荀子、雖王公大夫之子孫也、不能屬禮義、則歸之庶人、庶人之子孫也、積文學、正身行、能屬於文義、則歸之卿相士大夫、

君子與小人不繫父母且

不關係於父母生我之時、在人學與不學耳、且子魚反、

韓曰、詩巧言、悠悠受天、曰父母、且トハ語ノ助ナリ、注ニ在ル如ク、君子ニナルモ、小人ニナルモ、ソノ身ノ器用次第ゾ、父母ノカデハナイゾ、

不見公與相起身自犁鋤

起身自田家、

不見三公後

豈不見太傅太保三公之後子孫、

寒饑出無驢

寒凍飢餓、出無驢馬可乘、

不及下抄也、如注、

文章豈不貴經訓乃蓄畬

經學之教訓、乃所以敷蓄畬田、者也、蓄音幅、畬音余、

禮曰、易不畜畬、爾雅、田一歲曰蓄、三歲曰畬、孫曰、蓄畬耕也、言文章當以經訓爲本、韓曰、以經訓爲蓄畬、則班超所謂筆耕也、補注、呂原明雜記云、杜子美詩云、文章一小技、於道未爲尊、文者載道之器、安得謂之小技、顧所用如何耳、韓退之詩曰、文章豈不貴、經訓乃蓄畬、此說有可取焉、

潢潦無根源。

潢貯蓄之水，流驟至之水，潢音皇，潦音老。

朝滿夕已除。

早朝滿溢，夕已除蕩。

人不通古今，馬牛而襟裾。

如馬牛獸畜之無所知，而彼服世人之襟裾也。

樊曰：孟子，飽食煖衣，逸居而無教，則近於禽獸。

行身陷不義。

行於身者，尚且失於不合義理。

況望多名譽。

況可得芳名美譽者也。

時秋積雨霽。

秋雨初霽。

新涼入墟。

新涼入於墟。

墟，郊野丘墟。

孟子曰：苟惟無木，七八月之間，雨集，溝澮皆盈，其潤也，可立而待也。郊墟，郊野也。祝曰：說文曰：墟，大丘也。左氏有莘之墟，禮記墟墓之間。

燈火稍可親。

短檠燈火，稍可親近。

簡編可卷舒。

簡冊編帙，可卷可舒。

豈不日夕念。

平日日夕致其念慮。

爲爾惜居諸。

爲爾愛惜日居月諸，無廢學問。

孫曰：居諸謂日月。詩曰：日居月諸。藝苑雌黃云：昔人文章，多以兄弟爲友，子日月爲居諸。黎民爲周餘，子孫爲詒。

厥，新昏爲燕爾類，皆不成。子美韓退之，亦有此病。豈非徇俗之過耶？子美云：山鳥山花吾友于，又云：友于皆挺拔，退之云：豈謂語厭無基趾。

恩義有相奪。

閨門之情，以恩掩義，師友之教，以義掩恩，私恩失義，無久遠之理，有相奪之期。

孫曰：恩以愛之，義以教之，兩者不並立，故曰相奪。

作詩勸躊躇。

故作此詩勸之。

孫曰：躊躇猶豫不決貌。樊曰：魯直嘗書此詩，跋其後曰：或謂韓公當開後生，以性命之學，不當誘之以富貴榮顯。浩翁曰：熙寧元豐間，大儒之過，又何學焉？孔子曰：齊景公有萬千驪，死之日，民無得而稱焉。伯夷叔齊餓于首陽之下，民到于今稱之。韓公之言，其於勸將大之功，異趨而同歸也。

●五言古風短篇

●清夜吟

言道之全體、中和之妙用、自得之樂、少有人能知此味也。

邵康節

蔡寬夫詩話云、五言起於蘇武李陵、自唐以來、有此說、雖韓退之亦云、然蘇李詩、世不復見、惟文選中七篇耳、世以下蘇武詩云、寒冬十二月、晨起踐凝霜、俯觀江漢流、仰視浮雲翔、以爲不當有江漢之言、或疑其僞、予嘗攷之、此詩若答李陵、則稱江漢、決非是、然題本不云答李陵、而詩中且言結髮爲夫婦之類、自非在虜中所作、則安知武末嘗至江漢耶、但注者淺陋、直指爲使匈奴、故人多惑之、其實無據也、古詩十九首、或云枚乘作、而昭明不言、李善復以下、其有驅車上東門、與游戲宛與洛之句、爲辭兼東都、然徐陵玉臺分西北有浮雲、以下九篇、爲乘作、兩語皆不在其中、而深澤歲暮、冉冉孤生竹等、別爲古詩、則此十九首、蓋非一人之辭、陵或得其實耳、乘死在蘇李先、若爾則五言未必始一人也、邵康節、東都事略隱逸傳、一百一、言行錄後集十四、有邵康先生傳、名雍、字堯夫、始至洛、蓬萊環堵、不蔽風雨、名所居曰安樂窩、有擊壤集二十卷、宋文公贊曰、駕風鞭霆、云々、手探月窟、足躡天根、閑中今古、醉裡乾坤、

●月到天心處

調 月天心に到る處、風水面に到る時、一般の清意味、料り識る人の知る少きを、

●風來水面時

天心トハ夜半ゾ、晴レタレバ、月モ一段明ナリ、三更ノ時分マテ居ルゾ、コレヲ下句ニシテ見ルガ善イゾ、

風ガ水面ヲ吹イテ來タ時ハ、心ガ清清ト潔イゾ、コノ句ヲ上ニシテ見タガ善イゾ、

●一般清意味料得少人知

言フハ、月ハ明カナリ、涼風ハアリ、コノ意ノ潔イ處ノ味ヲ何人カ知ラウゾ、コレホド心ノ澄ンデ面白イ味ヲバ、人ガ得知ルマイゾト、一人心ヲ清マシテ吟味シタゾ、塵俗ノ人ハ得知ルマイゾ、

●四時

春水夏雲秋月冬松、  
足ニ以盡四景之奇

陶淵明

注ニ在ル如ク、春ハ水ガ面白ク、夏ハ雲ガ立シサウナ時分、奇タル峯ノヤウナ雲ガタツゾ、秋ハ月ガヨシ、

冬ハ山上雪モアリ、松ノリンキントソリマハツタニ雪ナドノアルガ面白イゾ、

調 春水四澤に満ち、夏雲奇峰を多し、秋月明輝を擧げ、冬松孤松を秀づ、

●春水滿四澤。夏雲多奇峯。秋月揚明輝。冬嶺秀孤松。

詩ノ心、別義ナシ、四時ノ奇景ヲアリクト作ツタゾ、コノ詩ハ淵明ガ作ニテハナイ、顧愷之、字ハ長康、小字ハ虎頭ト云フ者ノ作ゾ、許彥周詩話ニ云フ、春水——夏雲——秋月——冬嶺——此顧長康詩、誤編入彭澤集中、見漁隱前集第三、

●訪道者不遇

童子言、師入山採藥、  
白雲深處、無蹤尋覓、

僧無本

翰墨全書、賈島、字浪仙、初爲浮屠、號無本、居法乾寺、後舉進士、苦吟踴驢、不避公卿貴人、嘗吟詩云、鳥宿池中樹、僧敲月下門、又欲下推字、於驢上、以手作敲推勢、不覺衝至京尹韓愈第三節、左右擁至馬前、詰之、

以實對、愈曰、敲字佳、與共論詩、爲布衣交、除遂州長江主簿、時稱賈長江、才子傳云、賈島、字閻仙、范陽人也、初敗文場、遂爲浮屠、一名無本、來東都、居青龍寺、自稱碣石仙人、云々、韓愈贈詩云、孟郊死葬北邙山、日月風雲頓覺閑、天恐文章渾斷絕、再生賈島在人間、唐書賈島傳云、字浪仙、云々、或浪、或闌、或法乾、或青龍、各不同、故並記之、才子傳、李洞、字才江、雍州人、酷慕賈長江、遂銅寫島像、戴之巾中、常持珠數、念賈島佛、一日千遍、人有喜島者、洞必手錄島詩贈之、叮嚀再四曰、此無異佛經、歸焚香拜之、

松下問童子。

言フハ、道者ハ何處ニ居ラシムゾト問フタゾ、

言師採藥去。只在此山中。雲深不知處。

童子ノ返事ニ、師ハ藥ヲ採リニ山中ヘ行カレタ、我モ尋ネニ參リタケレドモト云フ心ヲ、三四句デ答ヘタ、トテモ餘處ニテハアルマイ、定メテ、コノ山中ニ居ラレウズガ、白雲深キ處デ、何處ニ居ラル、ヤランヤ、處ヲ得知ラズト云フゾ、

蠶

婦

出城歸家、有感、下淚、見不蠶者、皆衣羅綺、不知養蠶之辛苦也、

無名氏

男子ハ田ヲ耕シ、貢ヲ出スヲ本トシ、婦ハ桑ヲ取リ、蠶ヲ養ヒ、衣服ヲ調フルガ所作ゾ、然ルニ、カ、ル辛苦ヲスル者ハ、羅綺ノ結構ナル衣裳ヲハ著キヌゾト、感アツテ作リタル詩ゾ、作者ハ知レヌゾ、

昨日城郭に至る、騎り來つて涙中に滴つ、遍身綺羅の者、是れ養蠶の人ならず、

昨日到城郭。歸淚滿巾。偏身綺羅者。不是養蠶人。

閨

農

農家當暑耘耨、流汗浹於田泥、人知食其粟、遺知耕稼之苦哉、

李

紳

言フハ、民百姓ノ辛苦スル處ヲ感ジテ作ツタ、百姓ハ、夏ハ草ヲ採リ、田地ヘ水ヲ入レ、種々サマザマニ汗ヲ流シテ、辛勞シテ作り出ストコロヲ、ソノ粟米粒ヲ食スルコトヲバ知ツテ、民ノ苦ヲバ知ラヌゾト憐ミテ作レリ、李紳、字公乘、爲人短少、精於詩、號短李、與李德裕元禎、號三俊、武宗時、拜相、唐書有傳、又セイガ小サイホドニトテ、亭ヲ作りテ、其名ヲ短李亭トイフゾ、コレ東坡ノ詩ニモ、故老猶言短李亭ト作ツタゾ、

禾を鋤いて日午に當る、汗は滴る禾下の土、誰か知らむ盤中の殮、粒粒皆辛苦、

鋤禾日當午。汗滴禾下土。

百姓、田地ヲ鋤イテ辛苦ス、日午ニハ、通身汗ヲ流シテ苦勞ナスルゾ、カウアルニ、何トモ思ハズシテ、食ヒ盡シテ徒ニ居ルハ、禽獸同前ゾ、夏ノ時分ハ、百姓ノ辛苦スル時ナリ、辛苦ノ義ニ就イテ、孟子滕文公章ニ、曾子曰、脅肩諂笑、病于夏畦ト言フハ、當世小人、道ヲバ道トセイデ、媚ビ諂ウテ、肩ヲスベ、身ヲヨリフツテ、追從笑ヲスル、國ヲ亂シサウデ、アブナイ、コレガ夏ノ田ノヤクルヨリモ、猶ホ病マシイゾト、

誰知盤中殮。粒粒皆辛苦。

結構ナル盤中ニ盛ツテ、飽クマデ喰スルガ、百姓ノ辛苦ヲモ得知ラズシテ居ルハ、アマリナコトゾト、百姓ヲ憫ミテ

作レリ、

●讀李斯傳

謂李斯棄傲、以欺其君、  
自取刑禍、能欺天下乎、

李

鄴

史記、李斯楚上蔡人也、少時爲郡小吏、見吏舍廁中鼠、食不潔、近人犬、數驚恐、觀倉中鼠、食積粟、居大廡之下、不見人犬之憂、乃歎曰、人之賢不肖、譬如鼠矣、サテ楚國ヲ出テ去ツテ、秦ノ始皇ニ付イテ、秦ノ國ヲ自由ニシテ、天下ヲ欺イタゾ、

欺暗常不レ然。

訓讀 暗カ欺クも常に然らず、明を欺ク當に自ら戮すべし、一人の手を將て、天下の目を掩ひ得がたし、

欺明當自戮。

言フハ、常ニ人ヲ欺クモ、暗君ノ鈍キ者ハ何タル事ヲ云ウテモ、苦シクモナイゾ、サル程ニ、然ラズト云フタゾ、

言フハ、明君明智ノ人ヲ欺イタラバ、ソノ身ノ害ニナルベキゾ、譬ヘバ、犬ヤ猫ヤナドヲナブリタ合手ヲシテ、虎狼ヲナブリタラバ、一口ニ遇フベキゾ、蟻蟻ガ鐵柱ヲ動カシ、蚍蜉ガ大樹ヲ撼カスツレゾ、ナラヌコトヲセウトスルニタトヘタゾ、

難將一人手掩得天下目。

言フハ、一人ノ手ヲ以テ、天下ノ人ノ目ヲ何トシテ掩ヒ得ンゾナリ、

●王昭君

王嬙下嫁單于、臨行、上馬、淚濕、  
紅粧、今日漢之妃、明日胡之妾、

李

白

漢書列傳六十四、匈奴傳、單于自言、願增漢氏、以自親、以後宮良家子王嬙、字昭君、賜單于、士賈、曰、此篇蓋借漢事、以詠當時公主出嫁異國者、昭君傳記、詳于明妃曲也、

訓讀 昭君玉鞍を拂ひ、馬に上つて紅粧を啼く、今日は漢宮の人、明日は胡地の妾、

昭君拂玉鞍。上馬啼紅頰。

言フハ、昭君ガ胡國ヘ行カル、時、馬ニ結構ナル玉鞍ヲ置イテ粧ヒ、出立シテ行ケドモ、心ハ一向面白クモナイゾ、花ノ都ヲ去ツテ遼國ノ夷ニ行クホドニ、紅涙ヲ流シ、思モ寄ラズ旅ニ趣クゾ、玉鞍、漢武時、身毒國獸、連環羈、皆以白玉作之、馬礪石爲勒、白光瑠璃爲鞍、鞍在暗室中、常照十餘丈、如晝日、鞍ヲモ玉デ作ツタゾ、

今日漢宮人。明朝胡地妾。

言フハ、今マデハ、漢宮三千人ノ中ノ美人ナレドモ、明朝ハ早天ヨリ胡國ヘ行クホドニ、單于ノ妾人デアルゾ、

●劍客

借物比喻、幾年間學成材、一旦  
得君、當爲朝廷斥去姦邪、

賈

島

訓讀 十年一劍を磨し、霜刃未だ嘗て試みず、今日把つて君に似ず、誰か不平の事ある、

十年磨劍客。霜刃未曾試。今日把似君。誰有不平事。

●七步詩

魏文帝、令弟曹植七步  
作詩、如不成行大法、

曹

子

建

三國、魏曹操武帝、其子曹丕文帝、其弟曹植子建、多才、兄文帝忌其才、欲害之、令作詩、限七步、云々、謝靈

運云、天下文章、止一子建、獨得八斗。魏曹操武帝、有二十五男、下皇后生文帝丕、任城王彰、陳思王植、武帝、令子建、賦銅雀臺、立援筆成之、武帝異之、同母兄文帝不即位、徙雍丘王、又封東阿王、又封陳思王、三徙、都、汲汲無歡、遂發疾、年三十一、子建、不弟丕、多才、阿、兄丕、中、惡、カ、ツ、タ、ゾ、

豆を煮るに豆の莢を燃やす、豆は釜中に在つて泣く、本とは是れ同根より生ず、相煎する何ぞ太だ急なる。

煮豆燃豆其同根而生

言フハ、豆ハ其ト同根ヨリ生ジタ物ナレドモ、豆ヲ煮ル時ハ、其ヲ燒イテ煮ルゾ、丕ト植トハ、兄弟ナレドモ、吾ヲ

惡ンデ責メラル、ト云フコトゾ、

豆在釜中泣

豆在釜有聲、如涕泣之狀、

言フハ、豆ヲ煮ル聲ガ泣クヤウニ聞コユルゾ、サテモ迷惑ナト云フ心ゾ、

本是同根生

兄弟同胞所出也、

言フハ、文帝丕ト植トハ、父母一腹一姓デアルゾ、

相煎何太急

相煎逼、何太甚、

言フハ、甚シク我ヲ責メテ、七步ノ中ニ詩ヲ作レトアルハ、御情ナイゾ、骨肉同胞ノ替ハリタル義モ御座ナイニ、斯様ニアラウズルコトデハナイナリ、

● 貪 泉

吳 隱 之

吳隱之、字處默、介立有清操、爲廣州刺史、酌貪泉、飲之、曰、云々、爲度支尚書、以竹蓬爲屏風、坐無氈席、有女將嫁、使婢牽一犬賣之、此外蕭然無辦、勝覽三十四、廣東路十四州中、廣州、貪泉在番禺縣西二十里石門北岸、郡國志、呂嘉拒漢積石、江中爲門、因名石門、

古人云此水、一飲千金、試之、夷齊、飲之、飲之、

古人云此水

吳隱之、爲廣州太守、州有貪泉、謂飲之、皆貪、隱之飲此、清操愈厲、因賦是詩、

一飲懷千金

秋山、治反、

言フハ、コノ貪泉ヲ飲メバ、人ノ心モ欲心ニナルト云フ、サモアルカト思ウテ、吳隱之ガ吞ンデ見タレドモ、一向サモナイゾ、

試使夷齊飲終當不易心

不能易其清節也、

言フハ、伯夷叔齊ハ賢人デ、周ノ粟ヲ食ハスト云ウテ、首陽山ニ蒞テ探ツテ餓死シタゾ、コノ水ヲ一期ノ間、飲マセタリトモ、心ハ易ヘマイゾ、

● 商山路有感

白 居 易

萬里路長在、六年今始歸

萬里路長在、六年今始歸、三年一番得歸、



言フハ、一ヶ國ヲ二年ヅツ守護ヲシテ歸ルゾ、コレハ六年ゾ、  
所經多舊館。向日所經。大半主人非。大半皆非。

言フハ、富貴高官ノ處モ多クツタガ、六年目ニ通レバ、大半ナクナツタゾ。漢書、伍被曰、秦作阿房宮、收大半之賦、草  
昭曰、凡數三分有レ一、爲ニ大半、

●金谷園

石崇有別館、在河陽金谷、

無名氏

當時歌舞地。當時於此園中歌舞、

言フハ、ソノカミ、歌舞ヲコノ園中デシタ地ト云フ心ゾ、

不說草離離。豈知今日離離生草、

言フハ、今日ハ荒レ果テ、離離ト草ガ生ズルコト、豈ニ知リハセマイゾト云フ心ゾ、

今日歌舞盡。樂極。滿園秋露垂。秋露垂垂、

言フハ、今日歌舞ノ樂モ盡キハテ、悲ガ來テ、滿園ニハ秋ノ露タレテアルガ涕泣シタヤウナゾ、

●遊子吟

孟郊

孟郊、字東野、洛陽人、初隱嵩少、稱處士、貞元十二年、李程榜進士、時年五十矣、云々、證貞曜先生、郊拙於  
生事、一貧徹骨、有咸池集、初登第吟曰、昔日離離不足嗟、今朝曠蕩思無涯、春風得意馬蹄疾、一日看盡長安  
花、

慈母手中線、遊子身上衣、行々に臨んで密縫ふ、意に恐る遲遲として歸るを、寸草の心を將て、三春の輝に報じ得  
たし、

慈母手中線。慈者仁愛也、遊子將有行、臨行密密縫。意恐遲遲歸。難將寸

草心。遊子自謂、難將寸心之上、報得三春輝。春暉陽春和氣也、所以發  
育草木者、故此慈母、

此詩以注可考、不及抄也、

●子夜吳歌

李太白

漢武帝時、有女名子夜、歌造此曲、因名、見韻府歌、吳即美人出處、自作此曲、號子夜吳歌、而已、士贇曰、古今  
樂錄清商曲、子夜亦曰子夜吳聲四時歌、亦曰子夜吳歌、晉有女子、名子夜、作是歌、甚哀、晉武帝、太元中、琅琊  
王軻家有鬼歌、之、子夜之音、同於白紵、皆清商調也、故梁武本白紵、而爲子夜吳聲四時歌、明此子夜亦有晉  
聲、其實不離清商、

長安一片月。長安京兆也。萬戶擣衣聲。戌婦擣衣於月下。秋風吹不盡。總是玉關情。班超傳、但願生入玉門關。何日

平胡虜。期、望胡虜早平。良人罷遠征。良人謂夫、得罷征役也。

以注可考、不及抄也。

●友人會宿

良朋邂逅、飲酒消愁、月夜高談、不能寐。

李太白

滌蕩千古愁。

士資注曰、古詩、蕩蕩放情志、何爲自結束、成公綏嘯賦、心滌蕩而無累、

留連百壺飲。

鮑照詩、留連徘徊不忍散、留連トハ、一夜ノ飲酒ゾ、

良宵宜且談。

劉楨詩、清談同日夜、言フハ、ヨイ夕暮ヂヤ程ニ、清談シテ、一盃下サレウズト云フ心ゾ、

皓月未能寢。

謝莊月賦、情紆軫而何託、想皓月而長歌、

醉來臥空山。天地即衾枕。

劉伶幕天席地之意、非襟懷曠達者不能也、

●雲谷雜詠

雲谷在、考亭之西三十里、乃朱子讀書之處、

朱晦菴

野人酒載來。農談日西夕。載酒來訪農家、日已向夕、

此意良已勤。感歎情何極。歸去莫頻來。林深山路黑。

揚子雲故事、但不問字、問田業、

●傷田家

聶夷中、才子傳云、夷中字、河南人、咸通十二年、禮部郎高湜、下進士、與許棠公乘德同榜、時兵革多務、不暇銓

聶夷中

而不傷、正國風義也、其詩一卷、今傳、題ノ心ハ、時ナラザル物ヲ百姓トモガ貢スルヲ傷ムトナリ、

二月新絲を賣り、五月新穀を糶す、眼前の瘡を醫し得て、心頭の肉を剝却す、我願はくは君王の心、化して光明の燭となす

綺羅の筵を照らす、偏に逃亡の屋を照らさむことを、

二月賣新絲。二月方蠶、未レ有。五月糶新穀。五月方芸、未レ有。穀之時、先糶穀、

吳都賦云、國稅再收之稻、鄉貢八蠶之綿、又占城有早稻、見東坡詩、由是則此注恐不可、二月之新絲、五月之早稻、無可疑也、二月ハ新蠶ノ絲ノナイ時分ナリ、五月ハ芸ル時分デ、新穀ノナイ時ゾ、然ルニ吳都賦ニハ、アルトシタゾ、再收八蠶トアル時ハ、新絲モ早稻モアルト見エタゾ、

醫得眼前瘡、剗却心頭肉。他日絲成穀熟、已爲他人所食矣、

言免得催租之癢、盡賣絲穀以辨之也、又所營之絲穀、歸他人手、則農家夫婦無所潤、而心頭却生瘡、是剗其肉身者也、言フハ、衣裳飯米ヲ賣ツテ、飢寒ヲコラヘテナリトモ、年貢ヲ奉ラン、肉身ヲ賣ツテ瘡ヲ免レ得ルゾ、

我願君王心。我願望君王之仁心、化作光明燭。變化作光明之燈燭、不照綺羅筵、徧照逃亡屋。不照於綵綺羅之筵席、要周羅之筵席、要周徧照見逃亡之屋也、

此四句、以注可考也、無他義矣、

時興 感時寄興、言貴顯之人、昔日未貴顯之時、

貴人むかし未だ貴からず、成な願ふ寒微を願るを、自ら樞要に登るに及び、何ぞ曾て布衣を問はむ、平明紫閣に登リ、日晏くして形閣を下る、擾擾たる路傍の子、是非を欲ふを勞する莫れ、

楊 賁

貴人昔未貴、咸願願寒微。

莫不願願寒微之人、

及自登樞要、何曾問布衣。

身貴已登樞要之位、又豈復問布衣

微賤之人、此言知有己、不知有他人也、

平明登紫閣、日晏下形圍。

早登紫宸殿閣、晚出形圍之門、其爲貴也自若、

擾擾路傍子、無勞歌是非。

路傍之遊子、又何必較論誰是誰非也、

離別

陸魯望

杜句、感時花酒淚、恨別鳥驚心。事文類聚後集二十六、李建勳罷相、江南出鎮豫章、二日遊西山田間、茅舍有老叟、教授村童、公觸于其廬、連食數梨、實僚有曰、梨號五臟刀斧、不宜多食、叟笑曰、鵝冠子云、五臟刀斧、乃離別之離、非梨也、蓋離別狀伐胸膈、有若刀斧、遂就架取小册、振拂以呈丞相、乃鵝冠子也。才子傳、陸龜蒙、字魯望、姑蘇人、幼而聰悟、云云、放扁舟、掛蓬席、齋束書茶籠筆牀釣具、鼓櫂鳴榔、太湖三萬六千頃、水天一色、直入空明、或往來別浦、自稱江湖散人、又號天隨子、甫里先生、漢涪翁漁父、江上丈人、與皮日休爲耐久交、著書一篇、繼茶經茶訣之後、今有空澤叢書三卷、詩編十卷、賦六卷、並傳、

調 丈夫淚なきに非ず、灑かず離別の間、劍に仗つて樽酒に對し、遊子の顔を爲すを恥づ、蝮蛇一たび手を齧ず、壯士疾く腕を解く、願ふところは功名に在り、離別何ぞ歎するに足らむ、

丈夫非無淚、不灑離別間。大丈夫、豈如兒女離別時、感有淚酒其間也、仗劍對樽酒、恥爲游子顏。

羞シ作ス遠遊之子  
有ル威威之顔貌

蝮蛇一螫手。壯士疾解腕。

剛毅決裂之性、如毒蛇傷手、急須斷其手腕、恐毒入身也、螫音釋、

所思在功名。離別

何足歎。

大丈夫之志、在於功名、離別何足歎息也、

此詩以注可考也、不レ及抄矣、

古

詩

以合歡被、譬喻故人相與之情、如以膠投漆之固、不能釋然也、

無名氏

李善注云、並云古詩、蓋不知作者、或云枚乘云々、呂向注云、不知時代、又失姓氏、故但云古詩、劉良注云、相與雖違、故人心尚爾然也、

客從遠方來。遺我一端綺。  
綺、綉綵錦、一端、一段也、

文選二十九、雜詩上、古詩十九首中載之、綺韻下有二聯云、相去萬餘里、故人心尚爾、今此眞寶脫之、一端一段、

文綵雙鴛鴦。裁爲合歡被。

呂延濟注云、綺上文綵、爲鴛鴦文、合歡被、以取同歡之意、

著以長相思。緣以結不解。

李善注曰、鄭玄儀禮注曰、著謂充之以絮也、著張慮切、緣、禮記註曰、緣飾邊也、李周翰注曰、被中著綿、謂長相思、絲絛之意、緣被四邊、綴以絲縷、結不解之意、言フハ、被ノ飾ニ絲ヤ房ヲツクルゾ、緣ハフサノツイタル緒ゾ、

以膠投漆中。

膠漆如雷陳膠漆之義、取其堅固也、

誰能別離此。

韓詩外傳、子夏曰、實之與實、如膠與漆、君子不可不留意、呂向曰、以膠和漆、堅而不別也、

歸園田居

言小人多君子少、

陶淵明

逋齋閑覽云、文選有文通擬古詩三十首、如擬休上人閨情詩云、日暮碧雲合、佳人殊未來、今人遂用爲休上人詩故事、又擬陶淵明歸園田詩云、種禾在東臯、苗生滿阡陌、今此詩亦收在陶淵明集中、皆誤也、東坡亦因其誤、和之、コノ題ハ、小人ハ多ク、君子ハ少シト云フ、豆ヲ種ユルハ君子ニ喻ヘ、草盛ナルハ小人ニ喻フ、豆苗モ君子ゾ、草木長ズルモ小人ゾ、詩心別ノ義ナシ、

種豆南山下。草盛豆苗稀。侵晨理荒穢。

言田園種豆、在於去穢草、如朝廷用賢、在於去小人也、

帶月荷鋤歸。道狹

草木長。夕露沾我衣。衣沾不足惜。但使願無違。

東坡曰、以夕露沾衣之故、而違其所願者多矣、

此詩詳見于注、又題下明之也、

●問來使

爾山中より來り、早晚天目を發する、我が屋南山の下、今幾叢の菊を生ずる、薔薇葉すでに抽き、秋蘭氣當に霞しかるべし、歸り去らむ山中、山中酒應に熟すべし、

陶淵明

爾從山中來、早晚發天目。

天目、山名、在今杭州。

我屋南山下、今生幾叢菊。薔薇葉已抽、秋蘭氣

當馥、歸去來山中。山中酒應熟。

陶淵明、心在歸隱、因來使、而問南山之菊、山中之酒。

漁隱前集四、西清詩話、淵明意趣真古、清談之宗、詩家視淵明、猶孔門視伯夷也、其集屢經諸儒手校、然有問來使篇、世蓋未具、獨南唐與晁文元家二本有之、

●王右軍

寫經、換鵝、

李太白

王羲之、字逸少、導從子也、臨池學書、池水盡黑、草隸爲古今之冠、論者稱其筆勢飄若游雲、矯若驚龍、任晉爲右軍將軍會稽內史、子七人、其知名者、玄之、凝之、徽之、操之、書也、西清詩話、載李白詩、山陰道士如相訪、寫黃庭、換白鵝、攷之晉史、逸少所寫、乃道德經、非黃庭也、太白誤用此事、比觀梅聖俞謝宗元憲贈鵝詩、會居風池上、會食風池萍、乞與江湖去、從教美素餅、不同王逸少、辛苦寫黃庭、聖愈此語、豈又承太白之誤歟、又按梁虞無論書表云、山陰雲嶺村養鵝道士謂羲之曰、久欲寫河上公老子、緣素早辨、而無人能書、府君若能白鵝爲書、道德經兩章、便合群以奉於、是羲之使停半日、爲寫畢、携鵝去、

右軍本と清眞、瀟酒風塵に在り、山陰羽客に遇ふ、この鵝を好むの實を要す、素を掃うて道經を寫す、筆精妙神に入る、書し罷んで鵝を籠して去る、何ぞ曾て主人に別れむ、

右軍本清眞

右軍即王羲之

瀟酒在風塵、山陰遇羽客。要此好鵝賓、掃素寫道經。筆精妙

入神、書罷籠鵝去。

山陰有道士、好養鵝、羲之往觀、求而市之、道士云、爲我寫道德經、舉羣相贈、羲之寫畢、籠鵝而歸、此五句、以注古事、考之、可見之、故略之、

何曾別主人。

言不用告別之語也、如桓伊吹三弄、王徽之聽焉、臨別不交一語也、

●對酒憶賀監二首

李太白

賀知章、字季真、陸象先曰、季真清談風流、吾一日不見、鄙吝生矣、天寶中、乞歸田里、爲道士、許之、以宅爲千秋觀、而賜鏡湖一曲、嘗見李白、呼爲謫仙人、以金龜換酒與共飲、

四明有狂客、風流賀季真。知章字季真、白。長安一相見。呼我謫仙人。知章在紫極宮、一見呼白爲謫

仙、謫、昔好孟中物、孟中物、酒也、今爲松下塵、金龜換酒處、知章見李白、因解金龜、換酒、盡歡而罷、却憶淚沾巾。

又

狂客歸四明、山陰道士迎、按、知章自號四明狂客、因請爲道士、還鄉里、詔賜鑑湖剡川一曲、鏡湖水、爲君臺沼榮、按、知章自號四明狂客、因請爲道士、還鄉里、詔賜鑑湖剡川一曲、人亡

餘故宅、知章已亡、空有荷花生、念此杳如夢、思之杳、凄然傷我情、然如夢、

右二首ノ詩モ、註ニテ詳ニ知レタリ、故ニ之ヲ抄略ス、

送張舍人之江東

送張翰爲江東行役詩、寓別懷、

李白

呂東萊唐書詳節、無張翰姓名、才子傳亦無之、張說、字道濟、洛陽人、遷鳳閣舍人、開元十八年終、左丞相燕國公、不知此人歟、又有張翰、與晉人、其姓名同者歟、晉張翰、字季鷹、善屬文、號爲江東步兵、晉惠朝、齊王問辟、爲東曹掾、因秋風起、思吳中菰米蓴羹、魚膾、歎曰、人生貴適志耳、富貴何爲、即引去、漁隱前集五、荆公云、詩人名有所得、清水出芙蓉、天然去雕飾、此李白所得也、或看翡翠蘭苔上、未掣鯨魚碧海、中、此老杜所得也、私云、翰方早、秋風ノ起ルヲ見タモ所得ナリ、

張翰江東去、正值秋風時、天晴一鴈遠、海濶孤帆遲、白日行欲暮、滄波杳難期、

漁隱後集三十三曰、夜涼江海近、天闊斗牛微、是張右子潛集中佳句也、李太白有云、天清一鴈遠、文潛有云、天形一鴈高、二句俱工夫易分、優劣也、某謂、清與晴有異、

吳洲如見月、千里幸相思。

晉書嵇康傳、呂安與嵇康友、每相思、輒千里命駕、翰ハ吳中ノ故郷ニ歸ツタ、吳ヘ歸リ付クノ時分ハ、即チ秋風ノ起ル時ナリ、吳中デ秋月ヲ見テ、千里コナタノ都ノコトヲ思ヒ出セト云フコトゾ、呂安モ、嵇康モ、舊友ナルホドニ、千里萬里隔テ居レドモ、相思ノ時ハ輒チ駕ヲ命ジテ行クゾ、

戲贈鄭溧陽

太白高尙其志、得酒中之趣、笑教流俗、自以淵明、比方也、

張文潛云、陶元亮、雖嗜酒、家貧不能常飲酒、而況必飲美酒乎、其所與飲、多田野樵漁之人、班坐林間、所以奉身、而悅口腹者、蓋略矣、白樂天亦嗜酒、其家釀黃醖者、蓋善酒也、又每飲酒、必有絲竹儻妓之奉、洛陽山水風物甲天下、其所與游、如裴度劉禹錫之徒、皆一時名士也、夫欲爲元亮、則窘陋而難安、欲爲樂天、則備足而難成、吳德仁居二人之間、真率儻似陶、而奉養略如白、其放達則並有之、豈非賢哉、私云、淵明ハ貧ニシテ、酒モ常ニハナシ、白樂天ハ江州ノ司馬、デ大名ナルホドニ、常ニ酒ヲ釀サセテ、儻ヤ妓ヤニ音樂ヲサセテ飲酒ス、裴度ヤ禹錫ヲ相手ニシテ、肴ヲ催シテ游ビタゾ、吳德仁ハ貧デ飲酒スレドモ、淵明ト同前ナリ、

李白ハ放達ト云ウテ、天子ノ御前デモ大酒ヲ呑ンデ榮華ヲシタゾト、張文潛ガ批判ゾ、實ニモ、シカアルベキゾ、又詩人ノ眼ニハ、山水風物ハ天下ノ景物チャホドニ、吟ジ入レウトマ、チャ、ソノ如ク貧ト富貴トハ吟ジ入ル、ト吟ジ入レザルトノ心ゾ、

陶令日醉陶淵明爲、知らず五柳の春なるを、素琴本と絃なし。酒を漉すに葛巾を用ふ。清風北窓の下、自ら謂ふ羲皇の人、何時か栗里に至り、一たび平生の親を見む。

陶令日醉

陶淵明爲

不知五柳春

陶潛門前種五柳

素琴本無絃

陶潛密素琴一張、微絃不具、每撫和之曰、但得琴中

趣、何勞

漉酒用葛巾

王弘使郡將候之、值陶潛漉酒、乃取頭上葛巾漉酒、還復戴之

清風北窓下

自謂羲皇人

陶潛夏月虛閑、高臥北窓之下、

絃上聲

清風颯至、自

謂羲皇上人、

何時到栗里。一見平生親。

太白謂、幾時得到、鄭公所居之栗里、一見平生契舊之親、

詩之意見于註、

嘲王歷陽不肯飲酒

李

白

地白風色寒、雪片大如手、笑殺陶淵明、不飲孟中酒。浪撫一張琴、虛裁

地白風色寒、雪片大如手、笑殺陶淵明、不飲孟中酒。

以陶淵明、比方王歷陽、

浪撫一張琴、虛裁

五株柳、空負頭上巾。

三事並見上注、

某謂、浪字下虛字下置負字、可解每句之義、是亦詩之一體也ト、空負頭上巾ト云フ負ノ字デ、三句共ニ心モチ一ツゾ、

吾於爾何有。

語、何有於我哉、太白謂、既不飲、酒則虛負張琴五柳與葛巾耳、

紫驢馬

晉王濟乘馬、不肯渡水、曰、馬必惜連乾障泥、去之乃渡、杜預曰、濟有馬癖、

李

白

晉書、王濟、字武子、少有逸才、濟善解馬性、嘗乘一馬、著連乾障泥、前有水、終不肯渡、濟云、此必是惜障泥、使人解去、便渡、杜預謂、濟有馬癖、

紫驢行且嘶、雙翻碧玉蹄、臨行不肯渡、似惜錦障泥、白雪關山遠、黃雲海戍迷、揮鞭

萬里去、安得念香閨。

乘之成於關山之遠、寧憶春閨之人乎、

雍陶詩云、可憐無定河邊骨、猶是春閨夢裡人、

待酒不至

太白沽酒以待賓、久而酒不至、故賦此詩、以寄興耳、

玉壺繫青絲。沽酒來何遲。  
揚子、何來之遲而去之速、

山花向我笑。正好啣盃時。  
杜、生前相  
遇且啣盃、

晚酌東山下。流鶯復在茲。春風與醉客。今日乃  
相宜。得酒之遲、晚酌於東山之下、

猶及春風流鶯囀和之時也、  
此詩以註可考也、

遊龍門奉先寺

龍門、在西京河南縣、  
名、闕塞山、一名伊闕、

杜 子 美

杜第一讀、愚得作、宿龍門奉先寺、以望岳詩、爲押卷、此詩次、數篇之後、批點杜詩第一遊、龍門奉先寺、注、魯嘗  
曰、龍門、在東都河南縣、地志云、闕塞山、一名伊闕、而俗名龍門、黃鶴曰、唐志、河南自龍門山東、抵天津、有伊  
水、然後漢志唐志云、馮翊有龍門山、按馮翊與河中府爲隣、而河中有龍門縣、又有龍門山、志云、即導河至  
龍門之地、土紀云、梁山北有龍門、並河中之境、故河中有龍門關、九域志云、河南縣有龍門鎮、又有闕塞山、云、即  
龍門、薛仁貴傳云、絳州龍門人、則絳州亦有龍門、公自秦赴同谷、道經龍門鎮、則秦成間又有龍門、嘗考、絳至  
河中、不滿三百里、馮翊至河中、不滿百里、兩地相接、按地理、河南郡春秋時屬魏地、兼直雍州、乃屬秦州、

宣此山之跨數郡、是詩乃云、開元二十四年、後遊東都、作、玄宗開元八年、公九歲、壯遊詩云、九齡書大字、有、作  
成一囊、開元十四年、公十五、壯遊詩云、往昔十四五、出遊翰墨場、此篇、公二十四、作、

已從招提遊。更宿招提境。  
僧史、後魏始光元年、創  
立伽藍、爲招提之境、  
師古曰、釋書、招提菩薩皆古佛號、故寺謂之招提、或名伽藍、或名道場、其實一也、

陰壑生靈籟。月林散清影。  
梁昭明太子詩、  
月落林餘影、

天關象緯逼。雲臥衣裳冷。  
孟浩然詩、雲  
臥畫不起、  
靈籟即風也、猶、靈雨、茶夢弼曰、一本作、虛籟、

欲覺聞晨鐘。

蔡條西清詩話云、天關當作天關、對雲臥、爲親切、韋述東都記、龍門號雙闕、此詩闕字用無疑、批云、臥字可虛可  
實、用天關語、渾若、天關天關、豈不牽強、耶、王介甫以天關不可對雲臥、改作天關、閱視也、視天上象緯逼近、殊不  
知、此詩乃詠龍門、有取於關、其理必然、二十八宿爲經、五星爲緯、象緯逼言山之高也、山高則多雲霧、夜宿此寺、  
如雲中、衣皆冷潤、

令人發深省。

陶淵明、問遠公議論人  
曰、令人頗發深省、



釋氏有聲聞緣覺、耳有所聞而悟、未若心解之爲上也、其悟道者、則吾聞三巫吹角悟、云々●高僧傳、劉貴民、雷次宗等、依遠公於廬山、遠於精舍、無量壽像前、建齋立社、期生西方、陶元亮訪遠公、聞鐘有省、攬眉而去、

戲簡鄭廣文度兼呈蘇司業

源明、杜本集第二、唐史稱鄭度、在官貧約、乃引子美贈詩、曰、才名三十年、坐客寒無氈、則知公之詩、真史矣、

廣文到官舍、繫馬堂塔下、醉即騎馬歸、  
山簡傳、日暮倒載歸、醉無所  
知、時時能騎馬、倒著白接羅、

三十年。坐客寒無氈。

吳隱之、爲度支尚書、以竹蓬爲屏風、  
坐無氈席三十年、引此言度之貧約、

近有蘇司業。時時與酒錢。

度始爲  
廣文館

學士、性嗜酒、不治事、數爲官長所誚、怡然不以爲意、祿山反、陷于賊、後竄歸、坐免官、故至貧窶、惟蘇源明、重其才、乃時一給餉之、

寄全椒山中道士

韋應物

詩林廣記前集四、韋蘇州寄全椒山中道士詩云、今朝云々、許彥周詩話云、韋蘇州此詩、東坡用其韻、曰、寄語菴中人、飛空本無迹、坡本集作「空飛」此非「才不才」連、蓋絕唱不當和也、

今朝郡齋冷。忽念山中客。澗底束荆薪。歸來煮白石。  
荆者木也、薪者柴也、白石煮之如芋、可食也、思道士束荆薪來煮白石之樂、

今朝郡齋冷。忽念山中客。澗底束荆薪。歸來煮白石。

荆者木也、薪者柴也、白石煮之如芋、可食也、思道士束荆薪來煮白石之樂、

遙持一盃酒。遠慰風雨夕。

韋詩、何時風雨夜、  
復此對床眠、

落葉滿空山。何處尋行迹。

詩謂坐郡齋而思憶  
道士山中之樂、何時

持酒、慰此牢落、但見落葉遍山、而道士不見爾、

和韋蘇州詩寄鄧道士

坡自序云、羅浮山、有野人、相傳爲稚川之隸也、鄧道士守安、嘗於菴前、見其足迹、長一尺許、以酒一壺、依蘇州韻、作寄之、

東

坡

一盃羅浮春。遠採薇客。醉臥松下石。幽人不可見。清嘯聞月夕。  
聊か庵中の人に戯れ、空飛本と跡なし、  
遠に知る獨酌罷か、酔うて松下の石に臥す、幽人見るべからず、清嘯月夕に聞ゆ、

一盃羅浮春。

羅浮春、先生所造酒名也、以惠州見羅浮山而得名、

遠餉採薇客。

伯夷叔齊、採薇於首陽山、

遙知獨酌罷。醉臥松下石。幽人不可見。清嘯聞月夕。

晉劉琨爲胡騎所圍、乘月登樓清嘯也、

聊戲菴中人。

空飛本無迹。

柳子厚詩、飛鳥無遺迹、

●足柳公權聯句

蘇子瞻

唐書、柳公權傳云、公權、公綽弟也、年十二、工辭賦、穆宗曰、朕嘗於佛廟見卿筆蹟、思之久矣、即拜侍書學士、帝問、公權用筆法、對曰、心正則筆正、筆正則可法矣、時帝荒縱、故公權及之、帝改容、悟其以筆諫也、文宗嘗召聯句、帝曰、人皆苦炎熱、我愛夏日長、公權屬曰、薰風自南來、殿閣生微涼、他學士亦屬、帝獨諷公權者、以爲詞情皆足、命題於殿壁、字率徑五寸、帝歎曰、鍾王無以尚也、僧問、雲門、如何是諸佛出身處、門云、東山水上行、圓悟云、薰風自南來、殿閣生微涼、僧於言下、豁然頓悟、

人皆苦炎熱。我愛夏日長。薰風自南來。殿閣生微涼。  
此四句、乃公權與唐文宗聯句、言日長風涼之盛、有美而無箴也、

居所移。苦樂永相忘。願言均此施。清陰分四方。

此四句、乃子瞻足成其篇、獨舉於清陰分四方之事、有望於上人恩施者深矣、

●子瞻謫海南

蘇東坡謫惠州儋州

黃山谷

山谷集十七、跋子瞻和陶詩、題注云、東坡和陶淵明詩、凡一百有九篇、追和古人、自東坡始、冷齋夜話云、東坡在惠州、盡和淵明詩、山谷在黔南、聞之作、偶曰、子瞻謫南海云々、尋又遷儋耳久矣、天下盛傳子瞻已仙去、李賀追和柳惲詩云、汀洲白蘋草、柳渾乘馬歸、江頭檣樹香、岸上胡蝶飛、酒盃著葉露、玉斝蜀桐虛、朱樓通

水陌、沙暖一雙魚、

子瞻謫海南。時宰欲殺之。飽喫惠州飯。細和淵明詩。彭澤千載人。  
百世之師、出處出じからずと雖も、氣味乃ち相似たり、

出處雖不同。氣味乃相似。  
子瞻之氣味、與淵明相似、

●少年子

識當時少年豪俠子弟、挾彈馳馬、醉臥於瓊樓、曾有夷齊守節之志否、

青春少年子。挾彈章臺左。  
青春少年子、彈を挾む章臺の左、鞍馬四邊に開き、突として流星の過ぐるが如し、金丸飛鳥を落し、夜は瓊樓に入つて臥す、夷齊是れ何人、獨り西山の餓を守る、

青春トハ、若イト云フ心ゾ、

鞍馬四邊開。突如流星過。金丸落飛鳥。夜入瓊樓臥。夷齊是何人。獨守西山餓。

●金陵新亭

金陵今建康府

金陵風景好し、豪士新亭に集まる、目を舉ぐれば江河異なり、偏に周顛の情を傷ましむ、四座楚囚の悲、社稷の傾くを憂へ

す、王公何ぞ慷慨、千載雄名を仰ぐ、

金陵風景好。豪士集新亭。

言フハ、金陵ノ風景、一段ト好キト云フ意ゾ、豪士……コレヨリ下、句面デ聞コエタリ、

舉目江河異。偏傷周顛情。四坐楚囚悲。不憂社稷傾。

稷トハ、色々説アリ、白虎通ニハ、國之總名トアリ、史ニハ五穀社之神トアリ、

王公何慷慨。

按王導傳、過江、人士毎レ至ニ暇日、相邀出ニ新亭ニ飲宴、周顛中坐而歎曰、風景不殊、舉目有江河之異、皆相視流涕、惟導慨然變色曰、當共戮力王室、克復神州、何至作楚囚、相對而泣耶、衆收

淚謝之、王公王導也、千載仰雄名。

五言古風短篇

六臣文選二十七、樂府上四首、五言古辭注、李善曰、漢書曰、武帝定郊祀之禮、而立樂府、言古詩不知作者姓名、他皆類此、濟曰、漢武帝、定郊祀、乃立樂府、散採齊楚趙魏之聲、以入樂府也、名字廢滅、不知作者、故稱古辭、二、飲馬長城窟行云、青青河畔草、蘇蘇思遠道、二君子行云、君子防未然、不處嫌疑間、三、傷歌行云、昭昭素明月、暉光燭我床、四、長歌行云、青青園中葵、朝露待日晞、某謂、文選此篇古辭四首、而不記作者名、今以爲沈休文、恐非歟、

長歌行

此篇托物比興、謂露中之葵、遇春而發生、至秋而凋落、喻人之少壯、若不勉力功名、徒傷悲於遲暮之時、則亦無及矣、

沈休文

翰墨全書、沈約、字休文、作文用宮商、將平上去入四聲、制韻、有平頭上尾蜂腰鶴膝之名、號永明、南朝齊世、梁武帝朝受禪、拜爲尚書僕射、孫仲興、梁武帝嘗令作竹賦、敕曰、卿文體翩翩、可謂無忝爾祖矣、  
訓讀 青青たる園中の葵、朝露日の晞くを待つ、陽春德澤を布き、萬物光輝を生ず、常に恐る秋節の至り、焜黃華葉衰ふを、百年東海に到る、何の時か復た西に歸らむ、少壯努力せずむば、老大徒に傷悲、

青青園中葵。朝露待日晞。

晞乾也、晞音希、

善曰、毛詩云、淇淇露斯、匪陽不晞、

陽春布德澤。萬物生光輝。萬類得陽春之發生、喻人少壯。

淮南子曰、光輝萬物、翰曰、爲事當及少年之時。

常恐秋節至。焜黃華葉衰。至秋而華葉焜黃、喻人之老景也、焜胡木反。

善曰、焜黃色衰貌、濟曰、恐至暮年、志氣銷歇。

百川東到海。何時復西歸。百川水東流至海、無復返流、喻人既老而不復少壯。少壯不努力。老大徒傷悲。

善曰、尚書大傳曰、百川赴東

海、銑曰、年一過、不可再來。

●雜

詩

陶淵明、作此以詠其幽居之趣、心遠地偏、真樂自得於心、不待形之言也。

此篇、作者名不記、誤也、淵明作也。

淵明廬を結んで人境に在り、しかも車馬の喧しきなし、君に問ふ何ぞ能く爾かる、心遠ければ地自ら偏なり、菊を東籬の下に采り、悠然として南山を見る、山氣は夕佳なり、飛鳥相與に還る、この中風意あり、結むと欲して已に言を忘る。

結廬在人境。而無車馬喧。問君何能爾。心遠地自偏。

善云、結構也、廬室也。

採菊東籬下。悠然見南山。

東坡曰、採菊之次、偶然見山、初不用意、而景與意會矣。

蔡寬夫詩話云、採菊東籬下、悠然見南山、此其閑適自得之意、真若超然遺世出宇宙之外、俗本多見字爲望字、一字誤也、此兩句、冷齋如大匠運斤、無斧鑿痕、不知者、疲精力、至死不悟、如曰、二千里色中秋月、十萬軍聲半夜潮、又云、胡蝶夢中家萬里、子規枝上月三更、云云、向云、菊香草黃華可、以泛酒、悠然遠貌、此得性、章蘇州答長安丞裴稅詩云、采菊露未晞、舉頭見秋山、乃真得淵明詩意。

山氣日夕佳。飛鳥相與還。此間有真意。欲辯已忘言。

善曰、管子曰、夫鳥之飛、必還山集谷也。楚辭曰、狐死首丘、夫人孰能反其真情。王逸注曰、真本心也、莊子曰、言者所以在意也、得意而忘言、翰曰、日暮山氣蒙蒙、所謂佳也、飛鳥盡游、而夕相與歸于山林、此得天性、自任者也、末二句同。

●雜 詩

陶 淵 明

淵明 秋菊に佳色あり、露に萎うて其英を撥ふ、これを忘憂の物に況べ、我が遺世の情を遠くす、一鵬獨り進むと雖も、盃盡きて壺自ら傾く、日入つて群動息み、歸鳥林に趨つて鳴く、嘯傲す東軒の下、聊か復た此生を得たり。

秋菊有佳色。裛露掇其英。

良曰、撥采也、英花也、菊有佳色、故乘露采之、泛之於酒、自飲、天性故遠達世上情、不若我也、忘憂謂酒也。

汎此忘憂物。

忘憂物、乃酒也。

遠我遺世情。

歸去來辭、請息交以絕游、世與我而相遺。

一觴雖獨進。孟盡壺自傾。

一觴、良日、獨酌。

獨進、孟也、又自傾、壺而滿之。

日入群動息。

善曰、莊子善卷曰、余日出而作、日入而息、戶子曰、晝動而從息、天之道也、杜育詩曰、臨下覽動、曹子建贈白馬王彪詩曰、歸鳥赴喬林、銑曰、衆物之群動者、日入皆息、故歸鳥趨飛於林、而喧鳴也。

歸鳥趨林鳴。嘯傲東軒下。聊復得此生。

善曰、郭璞遊仙詩曰、嘯傲遺俗、羅得此生、劉瓛易注曰、自無出有曰生、生得性之始也、向日、嘯傲超逸貌、軒、櫺也、言自超逸於東櫺之下、聊復得此達生之樂也。

擬

古

陶淵明

選注、良日、此言榮樂不常。

訓讀 日暮れて天に雲なし、春風微和を扇ぐ、佳人清夜を美とし、曙に達して酣且つ歌ふ、歌竟へて長しへに嘆息、これを持して人を感ずること多し、皎皎たる雲間の月、灼灼たる葉中の華、豈に一時の好きならむや、久しからず當に如何すべき。

日暮天無雲。春風扇微和。

言一時之景也。

佳人美清夜。達曙酣且歌。

佳人自夜達且酣歌燕飲。

善曰、尚書曰、酣歌于室、向日、佳人謂賢人也、美猶愛也、樂酒曰酣、言天清風和、賢人愛此良夜、至明酣歌也。

歌竟長歎息。持此感人多。

有感而作是詩。

銑曰、樂極悲來、故歌竟歎息、言是事多感於人心也。

皎皎雲間月。灼灼葉中華。

少年如花開月明、一時之盛。

皎明也、翰曰、灼灼明也、言月滿則缺、花盛則落、好惡暫時、此安能久、當如何、言不可奈何、下同、

豈無一時好。不久當如何。

年老如花凋月蝕、則不能久也。

鼓吹曲

此篇形容金陵帝都之盛。

謝玄暉

文選二十八、謝玄暉鼓吹曲、題注、善曰、集云、奉陪王教、作古入朝曲、蔡邕曰、鼓吹歌軍樂也、短箫鑼鼓、黃帝岐伯所作也、謝朓、字玄暉、文章清麗、長五言詩、在宣城、因登三山、得澄江淨如練之句、古今所稱好、唐子西語錄、江左諸謝詩文、見文選者六人、希遇無詩、宣遠叔源有詩不工、今取靈運惠連玄暉詩、合六十四篇、爲三謝詩、是三人者、詩至玄暉、語益工也。

訓讀 江南佳麗之地、金陵帝王之州、逶迤綠水而帶、迢遞朱樓而起、飛蓋馳道而夾、垂楊御溝而蔭、凝笳高蓋而翼、疊鼓華軒而送、獻網雲臺之表、功名良に收むべし。

江南佳麗地。金陵帝王州。

金陵、建康也、世紀、晉都洛陽、至永嘉、南居建康、至宋齊梁陳、並都金陵、寰宇記、諸葛孔明謂帝曰、鍾山龍盤、石城虎踞、真帝王居也。

善曰、爾雅曰、江南曰揚州、吳錄曰、張紘言孫權曰、秣陵、楚武王所置、名爲金陵、秦始皇時望氣者云、金陵有王者氣、故斷連崗、改名秣陵、曹植贈王粲詩曰、壯哉帝王居、佳麗殊百城、

透迤帶綠水。  
透迤斜去貌、透

善曰、透迤長貌也、吳郡賦、互以綠水、

迢遞起朱樓。  
迢遞遠貌、

善曰、迢遞遠貌也、馮衍曰、伏朱樓而四望、探三秀之華英、翰曰、迢遞高貌、

飛臺夾馳道。  
臺音萌、

向云、飛臺屋檣也、馳道天子出行之道也、

垂楊蔭御溝。

向云、御溝長安有之、金陵擬而作也、又洛陽記曰、有石御溝、又長安御溝謂之楊溝、植楊於其上、

凝笳翼高蓋、疊鼓送華輶。

善曰、徐引聲謂之凝、翼送也、老子曰、驅馬高蓋、小擊鼓謂之疊、西京賦曰、龍輶華輶、銑曰、凝笳其聲凝咽也、疊鼓其聲重疊、笳蕭也、翼扶也、華輶謂刻畫車之輶也、末句無別義也、

獻納雲臺表。

後漢明帝永平三年、圖二十八、將於南宮雲臺、以鄧禹爲首、

功名良可收。

和徐都曹

鋪敘宛洛春日遊觀之勝槩、

文選三十、謝玄暉和徐都曹題注、善曰、集云、和徐都曹勉、味且出新、洛銑曰、都曹郎徐免也、但善作勉、銑作免、  
宛洛遊遊佳、春色皇州滿、軫、結、青、郊、路、迥、瞰、蒼、江、流、日、華、川、上、動、風、光、草、際、浮、桃、李、成、蹊、徑、桑、榆、蔭、道、周、成、桑、榆、道、周、在、東、郊、下、以、假、載、有、言、歸、歸、綠、疇、望、也、

宛洛佳遊。

宛洛地名、  
春色滿皇州。  
皇州謂京都、

善曰、古詩曰、驅車策馬、遊戲宛與洛、鮑昭結客少年場、日表望皇州、宛南陽也、洛洛陽也、

結軫青郊路。

軫車後木也、  
迥瞰蒼江流。  
瞰、

善曰、楚辭曰、結余軫於西山、周禮曰、東方謂之青、向日、軫車也、車馬相從如結、回遠瞰視也、

日華川上動、風光草際浮、桃李成蹊徑、桑榆蔭道周。

善曰、漢書曰、日華曜、宣明、楚辭曰、光風轉蕙汎崇蘭、王逸注曰、光風謂日出而風、草木有光色也、翰曰、風木無光、草上有光色、風吹動之、如風之有光也、班固漢書贊曰、諺曰、桃李不言、下自成蹊、楚辭曰、鳴鳩栖於桑榆、毛詩曰、有杖之杜、生于道周、周曲也、濟曰、人皆好桃李之色、遊其下、故成蹊、

東都已倣載倣載始言歸望綠疇事也

毛詩曰以我覃耜俶載南畝覃利也賈逵國語注曰一井爲疇將歸田里以望綠疇田也

遊東園形容東園之佳致

文選二十一有沈休文宿東園注濟曰休文家園某謂謝朓即東田田字與園其音近其形似故訛作園歟  
威威驚なきに苦む手を携へて共に行樂雲を尋れて累樹に陟り山に隨つて菌閣を望む遠樹暖として阡阡生煙粉として漠漠魚は戯れて新荷動き鳥散じて餘花落つ芳春の酒に對せず還た青山の郭を望む

戚戚苦無棕棕祖宗反樂也携手共行樂

魏文帝曰端坐苦無棕駕遊遠望山良曰戚戚憂歎貌棕亦樂也行樂謂遊東園也

尋雲陟累樹隨山望菌閣菌香草也遠樹暖芊芊暖不明芊芊茂美貌生煙紛漠漠

羊祜請伐吳表曰高山尋雲霓楚辭曰層臺累樹臨高山王逸曰層臺皆重也尙書曰隨山刊木楚辭曰菌閣兮蕙樓鉄曰陟升累重也芊芊盛也仟與芊同紛亂也漠漠布散也

魚戲新荷動鳥散餘花落不對芳春酒還望青山郭

善曰言野外昭曠取樂非一若不對茲春酒還則望被青山

怨歌行

漢宮班婕妤寵眷既衰託興於紈扇謂其得寵之時如扇出入於君之懷抱衣袖間一旦愛衰則如秋至風涼廢棄於篋笥中恩愛絕矣

班婕妤好

文選二十七班婕妤怨歌行注云善云歌錄曰怨歌行古辭然言古者有此曲而班婕妤擬之鉄曰懼寵之移也

新裂齊紈素齊地產絹皎潔如霜雪裁爲合歡扇二而相夾謂之合歡扇團圓似明月出入君懷袖

動搖微風發常恐秋節至涼颼奪炎熱颼音標風也棄捐篋笥中恩情中道絕

向曰果見遺擲矣篋笥盛扇之箱

雜詩亦寄興於紈扇以寫哀憤大意與前篇相類

作者江淹文通善擬班婕妤作之也文選二十一江文通雜詩三十首序云今作三十首詩效其文體雖不定品藻淵流庶亦無商榷云爾此篇第三番載之

紈扇圓月の如し機中の素より出づ畫いて作す秦王の女乘鸞煙霧に向ふ采色世の重んずるところ新と雖も故に代へず竊に恐る涼風至り我が玉階の樹を吹くを君子恩未だ畢らず零落中路に在り

紈扇如圓月。出自機中素。

濟曰、紈綺類也、圓月陰象、取與婦人、機織作之具、以喻父母、

畫作秦王女。乘鸞向烟霧。

蕭史善吹笙、秦穆公女弄玉好之、以妻焉、爲作鳳臺、夫婦止其上、一旦乘鸞鳳而去、

采色世所重。雖新不

代故。

代替也、故舊也、

竊愁涼風至。吹我玉階樹。君子恩未畢。零落在中路。

善曰、班婕妤怨詩曰、弃捐篋笥中、恩情中道絕、銑曰、言君子所愛未畢、而時已涼、故零落在中路、

古

詩

論、臣之不得事君、如牛女之不得相會、

無名氏

紈 迢迢たる牽牛の星、皎皎たる河漢の女、織機として素手を握き、札札として機杼を弄す、終日章を成さず、泣涕零ちて雨の如し、河漢清且つ淺、相去ること復た幾許ぞ、盈盈たる一水の間、脈脈として語るを得ず、

迢迢牽牛星。

牽牛也、

皎皎河漢女。

織女也、

織機擢素手。札札弄機杼。

善曰、毛詩曰、皖彼牽牛、不以服箱、又曰、維天有漢、監亦有光、跋彼織女、終日七襄、濟曰、牽牛織女星、夫婦道常阻、河漢、不得相親、此以夫喻君、婦喻臣、言臣有才能、不得事君、而爲讒邪所隔、亦如織女阻其歡情也、迢迢遠貌、皎皎明貌、薛君曰、織機、女手之貌、銑曰、喻有禮義節度也、札札弄機杼、喻進德修業也、札札機杼聲、

終日不成章。涕泣零如雨。河漢清且淺。相去復幾許。盈盈一水間。

天河之隔、

默默不得語。

下情不能上達也、善曰、毛詩曰、不成報章、又曰、瞻望不及、泣涕如雨、向曰、終日不成章、喻臣能進德修業、有文章之學、不爲君所見、知不用於時、與不成何異也、泣涕謂悲、王室微窮、朝多邪臣、恐國亡也、河漢清且淺、喻近也、能相去幾何也、盈盈端貌、

古

詩

喻、人自小至老、不知休息也、

生年百に満たず、常に千載の憂を懐く、晝は短く夜の長きに苦む、何ぞ燭を乗つて遊ばざる、樂を爲す當に時に及ぶべし、何ぞ能く來茲に待たむ、愚者は費を愛惜して、但だ後世の嗤となる、仙人の王子喬、與に期を等しうすべき難し、

生平不滿百。常懷千歲憂。

選、生年トナス、善曰、孫卿子曰、人生無百歲之壽、而有千歲之信士、何也、曰、以夫千歲之法、自持者、是乃千歲之信士矣、向曰、人生不滿百年、而營千歲之計、常以爲憂也、

晝短苦夜長。何不秉燭遊。爲樂當及時。何能待來茲。

來茲、來年也、

呂氏春秋曰、今茲美禾、來茲美麥、高誘曰、茲年、濟曰、來茲謂後期也、

愚者愛惜費。但爲塵世嘖。

音、

說文曰、嘖笑也、翰曰、至愚之人、皆惜愛其財、不爲費用、一期所減、爲後所笑也、



仙人王子喬

王子喬、後漢人、爲葉縣令、後爲神仙、

難可以等期

列仙傳曰、王子喬者、太子晉也、道人浮丘公、接以上嵩高山、難可以等期、曰、難可以與之同爲不死也、

●綠筠軒

於酒僧有軒、名綠筠、坡老爲賦此詩、

蘇子瞻

選四十一、曹子建、與吳季章書云、植白、季章足下、云々、若夫觴酌凌波於前、蕭笳發音於後、足下鷹揚其體、鳳觀虎視、謂蕭曹不足倚、衛霍不足伴也、左顧右盼、謂若無人、豈非吾子壯志哉、過屠門而大嚼、雖不得肉、貴且快意、當斯之時、願舉太山爲肉、傾東海以爲酒、伐雲夢之竹、以爲笛、斬泗濱之梓、以爲箏、云々、

調論 食に肉ならしむべし、居に竹なかるべからず、肉なければ人をして瘦せしむ、竹なければ人をして俗ならしむ、人瘦する尙ほ肥やすべし、俗士は醫すべからず、傍人この言を笑ふ、高きに似て選た癡に似たり、若し此君に對して仍ほ大嚼、世間那ぞ揚州の鶴あらむ、

可使食無肉不可居無竹

王子欲嘗寄居空宅中、便令種竹曰、何可一日無此君耶、

無肉令人瘦無竹令人俗人瘦

尚可肥俗士不可醫傍人笑此言似高還似癡若對此君仍大嚼

曹子建與吳季章書曰、過屠門而大嚼、

世間那有揚州鶴

昔有客相從各言所志、或願爲揚州刺史、或願多資財、或願騎鶴上揚州、蓋欲兼三人之所欲也、

●月下獨酌

終篇形容獨酌、曲盡其妙、

李太白

漁隱後集四、李陽水云、太白不讀非聖人之書、恥爲鄭衛之作、故其言多似天仙之辭、凡所著述、言多諷興、自三代已來、風騷之後、馳驅屈宋、鞭撻揚馬、千載獨步、唯公一人、故王公趨風、列侯結軌、群賢翕會、如鳥歸鳳、云々、齊賢注云、南中謝謫、不妄交接、門無雜賓、有時獨醉曰、入吾室者、但有清風、對吾飲者、唯當明月、●莊子、人有畏影而走者、走愈疾、影不離身、又惠子謂莊子曰、人故無情乎、莊子曰、然、人無情、何以謂之人、莊子曰、道與之貌、天與之形、惡得不謂之人、惠子曰、既謂之人、惡得無情、莊子曰、是非吾所謂之情也、吾所謂無情者、言人之不以好惡內傷其身、當因自然而不益生也、

調論 花間一壺酒、獨酌相親、相親、蓋舉げて明月を迎へ、影に對して三人と成る、月すでに飲むを解せず、影徒に我が身に隨ふ、しばらく月と影とを伴うて、行樂須らく春に及ぶべし、我歌へば月徘徊、我舞へば影凌亂、醒時同じく交歡、醉後各分散、永く無情の遊を結び、相期して雲漢遊たり、

花下一壺酒獨酌無相親舉盃邀明月對影成三人月既不解飲影徒隨我身暫伴月將影行樂須及春

古詩爲樂當及時

我歌月徘徊我舞影凌亂醒時同交歡

謂我與月對影歌舞

醉後各分散

醉眠則我與月影分散矣

永結無情遊相期邈雲漢

●春日醉起言志

處世大夢の如し、胡すれぞ其生を勞する、所以に終日醉ひ、頽然として前楹に臥す、覺め來つて庭前を盼れば、一鳥花間に鳴く、借問す此れ何の時、春風流鶯語る、これに感じて歎息せむと欲す、酒に對して還た自ら傾く、浩歌明月を待ち、曲盡きて已に情を忘る、

處世若大夢

百年在レ世、渾如二夢、

胡爲勞其生

莊、勞、我、以、生、

莊子曰、且有二大覺、而後、知、此、大夢、也、又子犁曰、夫大塊載レ我以レ形、勞、我、以、生、佚、我、以、老、息、我、以、死、故善、我、生、乃所以善、吾死、也、公孫尼子曰、衆人役、物、而忘、情、郭象論曰、忘、情、於、無、爲、之、域、

所以終日醉頽然臥前楹

醉而臥、所以樂、天真、此四句有、靜意、也、

覺來盼庭前一鳥花間鳴借問如何時

春風語流鶯

春風流鶯、正當、其、時、此四句有、動意、

感之欲歎息對酒還自傾浩歌待明月曲盡已忘情

動靜俱忘

蘇武

傳記見于書、略此、

蘇武匈奴に在り、十年漢節を持す、白雁上林に飛ぶ、空しく傳ふ一書札、羊を牧して邊地に苦み、落日歸心絶り、渴すれば飲む月窟の水、飢えては餐す天山の雪、東に還れば沙塞遠く、北に憐む河梁の別、泣いて李陵の手を把つて、相看て涙血を成す、

蘇武在匈奴

武使、匈奴、單于、欲、降、之、

十年持漢節

杖、漢節、收、羊、臥、起、操、持、而、節、落、盡、

白雁上林飛空傳一書札

匈奴

詭言武死、後漢使復至、常惠教、使者、爲、單于、言、天子射、上林中、得、雁、足、有、繫、帛、書、言、武、在、某、澤、中、使、者、如、惠、語、以、請、單于、單于驚、謝、曰、武、等、實、在、

飲月窟水飢餐天上雪

匈奴、武、置、大、窖、中、絕、不、飲、食、會、天、雨、雪、武、臥、雪、與、旃、毛、並、咽、之、

東還沙塞遠北愴河梁別泣把

李陵衣相看淚成血

李陵別、蘇武、詩、有、携、手、上、河、梁、及、不、覺、淚、沾、裳、之、句、

詩之意趣、詳見于注、不及抄也、

雜詩

陶淵明

人生根蒂なし、飄として陌上の塵の如し、分散風を逐うて轉じ、これ已に常身に非ず、地に落ちて兄弟となる、何ぞ必ずしも骨肉の親、歎を得れば當に樂を爲すべし、斗酒比隣を聚む、盛年重れて來らず、一日は再び長なり難し、時に及んで當に勉勵すべし、歲月は人を待たず、

人生無根蒂

根者本也、蒂、者花之萼也、

杜句、舟楫無根蒂、言フハ、人ノ世ニ在ルハ、更ニ根蒂ナキモノゾ、

飄如陌上塵

言フハ、例ヘバ、九陌ノ上ニ在ル塵埃ノヤウナル者ゾ、

分散逐風轉。塵逐風起也。

言フハ、アソココ、ニ分散シテ、行イテ、一處ニ居ヌ者ナレバ、殊ニ塵ノ風ニ隨ツテ分散スルヤウナゾ、此已非常身。謂人生寄迹於天地間一如郵亭傳舍靡有常也。

言フハ、人ノ身ト云フ者ハ、常ニコトニアルトナ思フゾ、サウシテ差ハナイゾ、

落地爲兄弟。

言フハ、天地ノ間ニ生マルレバ、四海ノ内ハ皆兄弟ゾ、

何必骨肉親。

語云、四海之内皆兄弟也、大抵交遊皆兄弟、又何必論其至親也。

言フハ、何ゾ骨肉ノ親デ、ソウナンドト云フコトハアルマイゾ、誰モ人間ノ間ニ入ル人ハ兄弟ゾ、

得歡當作樂。

言フハ、何事デモアレ、歡ブベキコトハ、相共ニ樂ムベキゾ、

斗酒聚比隣。

比音皮、連居也。

言フハ、酒ガアラバ、隣家ヲ聚メテ歡ブベキゾ、比ハナラブ心ゾ、平ゾ、

盛年不重來。

言フハ、二十餘リナドガ盛年ゾ、重ネテ若ウハナラヌ者ゾ、

一日難再晨。

言フハ、一日ノ中ニ、晨ハ再ビハ無イ者ゾ、

及時當勉勵。

言フハ、人ニツトメ勵マシテ、諸藝ヲ稽古サスベシ、

歲月不待人。

人生行樂、恐歲月已去、不長少年也。

言フハ、光陰箭ノ如シゾ、歲月ト云フ者ハ、更ニ人ヲ待タザル者ゾ、

●歸田園居

莊子養生篇云、瞻彼閭者、虛室生白、吉祥止止、且不止、是之謂坐馳。

野外人事罕に、窮巷輪鞅算し、白日荆扉を掩ひ、虛室塵想を絶つ、時に復た墟曲の中、草を披いて共に來往、相見て雜言なし、但だ道ふ桑麻長すと、桑麻日に已に長じ、我が土日に已に廣し、常に恐る霜霰至り、零落草莽に同じきを、

野外罕人事。深巷寡輪鞅。

輪、車輪、鞅、馬索。

白日掩柴扉。

扉、門也、以柴爲門。

虛室絕塵想。

虛室喻心也。空缺處。必有光入來。是光自空中出。

時復墟曲中。披草共來往。相見無雜言。但道桑麻長。桑麻日已長。我土日已廣。常恐雪霰至。零落同草莽。

雪霰之摧折。則桑麻之長。安保其不零落於草莽乎。

鼠鬚筆

魯公類說云。筆工取鼠鬚。製筆。終不若兔毫之耐。

韻會。鼠小獸。名善盜。火鼠入火不燒。毛長丈許。可爲布。所謂火浣布者是也。水鼠入水不溺。亦紹鼠也。

大倉陳紅。名善盜。火鼠入火不燒。毛長丈許。可爲布。所謂火浣布者是也。水鼠入水不溺。亦紹鼠也。雜沓。架に挿んで刀架健。紙に落して龍蛇驚。物理未だ詰り易からず。時來つて即ち遇ふところ。壻を穿つ何ぞ卑微。これに託して佳譽を得たり。

太倉失陳紅。狡穴得餘腐。

漢書。太倉之粟。陳陳相因。紅腐而不可食。

既興亟相歎。

秦丞相李斯。少時爲郡吏。見吏舍厨中鼠。食不潔。近人犬。數驚恐。觀

又發廷尉怒。

漢廷尉張湯。其父爲長安丞。出外。湯爲守舍。而鼠盜肉。其父還怒。乃笞湯。湯掘得盜鼠及餘肉。刻鼠掠治。并取其文辭。如老獄吏。大驚異之。

鼠與肉具。鼠磔堂下。其父視之。磔肉餒。餓猫分鬻。雜霜兔。插架刀架健。落紙龍蛇驚。

物理未易詰。

時來即所遇。穿壻何卑微。託此得佳譽。

詩意趣。詳于注。今茲不及抄也。

妾薄命二首

謝靈運。有國風法度。

陳無己

東都事略百十六。陳師道。字無己。徐州彭澤人也。少刻苦學問。以文調會。鞏奇之。詩林廣記。後集六。陳後山部云。朱文公語錄云。黃山谷詩云。閉門竟句。陳無己。對客揮毫。秦少游。陳無己。平時出行。覺有詩思。便急歸。擁被臥而思之。呻吟如病者。而後起。真是閉門竟句者也。魏衍后山詩序云。后山詩不犯正位。切忌死語。非冥勞引。不足以知之。妾薄命二首。后山自注云。爲會南豐作。后山集目錄云。后山學於南豐。會鞏子固。南豐卒於元豐六年。此篇必是時所作。

主家の十二樓。一身三千に當る。古來妾薄命。主に事へて年を盡さず。起舞主の爲に壽す。相送る南陽の阡。主の衣裳を著けて。人の爲に春妍を作すに忍びむや。聲あり常に天に徹すべし。涙あり常に泉に徹すべし。死者恐らくは知るなし。妾身長く自ら憐む。

主家十二樓。一身當三千。

長恨歌。後宮佳麗三千人。三千寵愛在一身。

古來妾薄命。事主不盡年。

傷南豐之早亡也。起舞

爲主壽。相送南陽阡。

漢原涉塚畧。曰。南陽阡。

忍著主衣裳。爲人作春妍。有聲當徹天。有淚當徹

泉。死者恐無知。妾身長自憐。

長字是決辭。疊山謂。后山詩可與少陵比。肩。其絕妙句法。在結末。人多不識此。

詩之意詳于注。

又

葉落ちて風起らず、山空しくして花自ら紅なり、世を捐てて老を待たず、妾を恵して其終なし、一死尙ほ忍ぶべし、百歲何ぞ當に窮すべき、天地豈に寛ならざらむや、妾が身自ら容れず、死者もし知らば、身を殺して以て相従はむ、向來歌舞の地、夜雨寒蛩を鳴かしむ。

葉落風不起。山空花自紅。

山中有松柏梓榭楠豫章之林、則可爲棟梁之用、山已空矣、惟有野花自紅、則朝廷無將相之才、而國已空虛矣。

謝疊山云、葉落風不起、如李白詩、雨落不上天、覆水難重收、此意謂、人才凋零、如秋風掃敗葉、葉已墜地、雖有風、不能吹之上樹矣、此言人之云亡、

捐世不待老。惠妾無其終。

疊山云、此二句、無限意味、后山亦自嘆、南豐薦引、雖力而未遂、不期南豐死之速也、

一死尙可忍。百歲何當窮。

忍死尙可、即死實難、

天社注云、言忍死尙可、祈死實難、意謂、安得速死以從其主也、師死而遂背之、讀此詩者、亦少知愧矣、

天地豈不寬。妾身自不容。死者如有知。殺身以相從。

此六句、思慕深恨、不殺身以相從於地下也、

向來歌舞

地。夜雨鳴寒蛩。

蛩、蟋蟀也、詩意謂、歌舞最爲樂處、今聞蛩聲、則悽慘矣、此人事之變也、結句有味、

青青水中蒲

此詩托物比興、謂征夫出戍、其妻幽宮閨房、如蒲在水中、第一章、謂夫君之出、第二章、謂不得相隨、末章勉君子以正、得風人之體、

韓退之

韓文第四、青青水中蒲、題注云、或析爲三章、章四句、樊曰、文選古樂府飲馬長城窟行有青青河畔草、又長歌行有青青園中葵、其大意與此相類、韓曰、詩蓋興寄也、孫曰、當是婦人思夫之意也、

青青たり水中の蒲、下に一雙の魚あり、君今離に上つて去る、我在るも誰と與にか居らむ、青青たり水中の蒲、長く水中に在つて居る、語を寄す浮萍の草、相隨ふ我如かず、青青たり水中の蒲、葉短くして水を出でず、婦人堂より下らず、行子萬里に在り、

青青水中蒲。下有二雙魚。君今上隴去。我在與誰居。青青水中蒲。長在水中居。寄語浮萍草。相隨我不如。青青水中蒲。葉短不出水。婦人不下堂。行子在萬里。

韓曰、選東門行云、居人掩閨臥、行子夜中飯、雜詩云、之子在萬里、江湖迥且深、

幽懷

懷

韓退之

幽懷寫くべからず、この春江の溇を行く、適ま佳節と會す、士女光陰を競ふ、凝妝洲渚に耀き、繁吹人心を蕩す、間關たり林中の鳥、時を知つて和音を爲す、豈に一椀の酒なからむや、自ら酌んで還ら自ら吟す、但だ悲む時の失ひ易きを、四序迭に相侵す、我は欲ふ君子行、古を視る猶ほ今を視るがごとし、

幽懷不可寫。行此春江溇。適與佳節會。士女競光陰。凝妝耀洲渚。繁吹蕩人

心。

祝曰、禮記命樂師大合吹、孫曰、吹、箏、笛、磬也、吹、尺、僞、切、義、與、平、聲、同、

間關林中鳥。知時爲和音。

見音樂之繁、禽鳥之鳴也、

考異、此句作亦知和爲音、韓文注、知時或作亦知、

豈無一樽酒。自酌還自吟。但悲時易失。

蔡曰、前漢通傳、夫功者難成而易敗、時者難值而易失、時乎時不再來、

四序迭相侵。

但悲四序迭相更、代而光陰易失也、

我歌君子行。

古樂府有君子行、

視古猶視今。

蘭亭記、後之視今、猶今之視昔、

韓曰、古樂府有君子行、注謂、君子之道、宜守謙、不履猜疑之地、瑟有三調、此曲處平調、蔡曰、列子楊朱篇曰、楊子曰、五情好惡、古猶今也、四體安危、古猶今也、世事苦樂、古猶今也、變易治亂、古猶今也、予謂、此詩一片意、謂、小入逸遊、而不、知、君子惜時節過、

公

謙

曹

子

建

文選二十、曹子建公謙詩、題下注、李善曰、贈答雜詩、子建在仲宣之後、而此在前、誤、濟曰、公謙者、臣下在公家、侍謙也、此謙在鄰宮、與兄丕謙飲、曹丕文帝、魏曹操武帝之子也、曹植字子建、丕弟也、

調 公子客を愛敬し、宴を終るまで疲るゝを知らず、清夜西園に遊び、飛蓋相追隨、明月清影を澄み、列宿正に參差、秋關長坂に被り、朱華綠池を冒ふ、潛魚清波に躍り、好鳥高枝に鳴く、神廳丹靨に接し、輕輦風に隨つて移る、飄飄志氣を放にし、千秋長く斯の若し、

公子愛敬客。終宴不知疲。

善曰、公子謂武帝、時武帝在、謂五宮中郎也、良曰、時武帝在、故稱不爲公子、

清夜遊西園。飛蓋相追隨。明月澄清影。

善曰、澄、滂也、說文曰、景光也、

列宿正參差。

言楚辭曰、宜遊兮列宿、

秋蘭被長坂。朱華冒綠池。

朱華、荷花也、

善曰、朱華芙蓉也、毛萸詩傳云、冒猶覆也、

潛魚躍清波。好鳥鳴高枝。

已上六句者、鋪敘一時星月之輝、花草之盛、禽魚之樂、而有自得之適也、

翰曰、魚鳥自喻、清波高枝、喻公子也、謂得躍於公子側也、

神廳接丹靨。輕輦隨風移。

善日、慶疾風也、言其疾如神、以接丹轂、謂朱飾也、

飄飄放志意。

善日、古詩曰、蕩漉放情志、

千秋長若斯。

斯此也、

戰國策曰、犀首爲張儀千秋之祝、

●獨

酌

謂人之飲酒、苟但得醉中、意趣、勿爲醒者道也、

李太白

李白集二十三、月下獨酌四首、第一云、花間一壺酒、獨酌無相親、舉盃邀明月、對影成三人、第二云、天若不

愛酒、酒星不在天、第三云、三月咸陽城、千花盡如錦、第四云、窮愁千萬端、美酒三百盃、

訓讀 天もし酒を愛せざれば、酒星天に在らず、地もし酒を愛せざれば、地に酒泉なかるべし、天地すでに酒を愛す、酒を愛して

天に愧ぢず、すでに聞く清の聖に比し、復た道ふ濁は賢の如しと、賢聖すでに已に飲む、何ぞ必ずしも神仙を求めむ、三盃大道に通じ、一斗自然に合す、但だ醉中の趣を得たり、醒者に謂ふて傳ふるなかれ、

天若不愛酒。酒星不在天。

齊賢曰、晉志、軒轅右角南三星曰酒旗、酒官之旗也、主享宴飲食、五星守酒旗、天下大肺、有酒肉財物賜、

地若不愛酒。地應無酒泉。

河西肅州、爲酒泉郡、

漢武太初元年、開酒泉郡、師古曰、城下有金泉、泉味如酒、

天地既愛酒。愛酒不愧天。已聞清比聖。復道濁如賢。

酒之清爲聖人、濁爲賢人、

魏徐邈醉酒、日中聖人、太祖怒、鮮于輔曰、平時醉客謂酒清者爲聖人、濁者爲賢人、耳、

賢聖既已飲。何必求神仙。三盃通大道。一斗合自然。但得醉中趣。勿謂醒者傳。

士賢曰、老子曰、人法地、地法天、天法道、道法自然、晉書、孟嘉爲桓溫長史、好飲、溫曰、酒有何好、而卿嗜之、答曰、公未得酒中趣耳、

●歸田園

敘東臯之勝槩、終歸於農業之務、本朋友之責善也、

陶淵明

淵明、非也、陶徵君潛之詩、文選載之、詩林廣記前集一、陶淵明部、歸田園居題注云、陶集、此題有六首、此首乃末篇也、詩注、東坡云、淵明詩、初視若散緩、熟視有奇趣、如曰、日暮巾柴車、路暗光已夕、歸人望煙火、稚子候簷隙、又採菊東籬下、悠然見南山、

訓讀 苗を種みて東臯に在り、苗生じて阡陌に滿つ、鋤を荷ふの倦ありと雖も、濁酒聊か自ら適す、日暮柴車に巾す、路暗く光すでに夕なり、歸人煙火を望み、稚子簷隙に候す、君に問ふ亦た何をか爲す、百年會ま後あり、但だ願ふ桑麻成り、蠶月紡績を得るを、素心正に此の如し、徑を開いて三益を望む、

種苗在東臯。苗生滿阡陌。

歸去來辭ニ、登東臯以舒嘯ト云フ東臯ゾ、又風俗通曰、南北曰阡、東西曰陌、向曰苗、五穀之苗、臯澤也、阡陌田之封疆也。

雖有荷鋤倦。濁酒聊自適。

善曰、陶詩曰、晨興理荒穢、晚自荷鋤歸、又曰、雖欲揮手歸、濁酒聊自持、郭象莊子注曰、自適其志。

日暮巾柴車。

周禮、有巾車。職、巾猶衣也。

翰曰、巾飾也、柴車、鹿車也。

路暗光已夕。歸人望烟火。稚子候簷隙。問君亦何爲。百年會有役。

善曰、歸去來、稚子候門、濟曰、稚子小子也、良曰、問君謂自舉以答也、何爲辛苦、答云、人生百年、皆有勞役。

但願桑麻成。蠶月得紡績。

陶詩云、相見無雜言、但道桑麻長、家語曰、公文伯之母、紡績不懈矣。

素心正如此。開徑望三益。

論語、益者三友、損者三友。

善曰、素木也、向曰、言我宿素之心、但願齒靜同、蔣謂開三徑、望三益之友而已、コノ末ノ一句、淵明ノ心、三徑ヲ開キ三益ヲ望ムニハアラズ、張子西モ此ノ如ク説クゾ、淹ハ淵明ノ情致ニ比シテ之ヲ作ル、

●和陶淵明擬古

蘇東坡

此詩用老杜羌村詩起句、群雞正亂叫、客至雞鬪爭、驅雞上樹木、始聞扣柴荆、冷齋夜話云、東坡在惠州、盡和淵明詩、黃魯直在黔南、聞之作詩云、子瞻謫嶺南、時宰欲殺之、飽喫惠州飯、細和淵明詩云云。

調韻 客あり我が門を扣き、馬を門前の柳に繋ぐ、庭は空しくして鳥雀噪き、門閉ちて客立つこと久し、主人書を枕して臥す、我が平生の友を夢む、忽ち聞く剝啄の聲、驚散す一盃の酒、裳を倒にして起つて客に謝す、夢覺めて兩つながら愧負す、坐談今古に雜ふ、答へざれば顔愈々厚し、我に問ふ何處より來る、我は無何有より來る。

有客扣我門。繫馬門前柳。庭空鳥雀噪。門閉客立久。主人枕書臥。夢我平生友。忽

聞剝啄聲。驚散一盃酒。倒裳起謝客。夢覺兩愧負。坐談雜今古。不答

顔愈厚。問我何處來。我來無何有。莊子、無何有之鄉。

詩無別義不及抄

●責子

陶淵明

詩林廣記一、淵明部、責子詩、黃山谷云、觀淵明此詩、想見其人、慈祥戲謔可觀也、俗人便謂、淵明諸子、皆不肖、而淵明以愁歎見於詩耳、杜子美遣興詩云、陶潛漚俗翁、未必能達道、觀其著詩篇、頗亦恨枯槁、達士豈是足、默識蓋不早、生子賢與愚、何其掛懷抱、真西山云、淵明又有命子詩曰、夙興夜寐、願爾斯才、爾之不才、



亦已焉哉。責子曰、雖有五男兒、總不好紙筆、天運苟如此、日進盃中物、子美謂掛懷抱者此也。  
自髮兩鬢に被り、肌膚復た實せず、五男子ありと雖も、すべて紙筆を好まず、阿舒すでに二八、懶惰故らに匹なし、阿宣行く志學、しかも文術を受せず、雍端年十三、六と七とを識らず、通子九齡に垂んとす、但だ梨と栗とを覓む、天運苟くも此の如し、しばらく進む盃中の物、

白髮被兩鬢。肌膚不復實。

淵明  
自歎

コノ兩句、淵明ガ我ガ身ヲ歎ジテ云フタ、白髮ハ鬢ニモ髮ニモアル、肌膚モ年ヨリタレバ、皺ガ出來テ、一向若イ時ノヤウニナイゾ、

雖有五男兒。

淵明有子五人、長曰舒、次曰宣、三曰雍、四曰端、五曰通、

總不好紙筆。

皆不學、

言フハ、子ドモハ、五人アレドモ、學問ヲセメズ、

阿舒已二八。懶惰故無匹。

言フハ、一番ノ子阿舒ハ、十六ニナレドモ、物グサイ顔シテ友ダチト出合ヒモセメズ、

阿宣行志學。而不愛文術。雍端年十三。不識六與七。通子垂九齡。但覓柴與栗。

志學ト云フハ十五ゾ、阿宣ハ十有五志學ト云フタゾ、不愛文術ト云ウテ、學ガ不數寄ゾ、雍端年十三ナレドモ、六ト七トヲ識ラヌゾ、雍端ガ同年ハ不審ゾ、二子ガ一年ニ二度産カ、通子ハ九齡デ幼稚ナゾ、江西ノ淵明責子圖詩、典手山河瓜漬日、長沙門戶菊籬秋、翁應自責子何責、濁酒清酒空白頭、御作リアツタ、名譽ノ詩ゾ、典午ハ晉ゾ、晉ハ

司馬氏ナレバ典午ト云フゾ、晉ノ天下亂レテ瓜漬レタヤウナル時、淵明ハ出デテ、山河ヲ太平ニハセズシテ、隱居シテ菊ヲ愛シテハ居タゾ、長沙トハ、祖父子ノ陶侃、長沙郡ニ封ゼラレタゾ、サテ長沙門戶ト云フゾ、子ヲ學問セメガ曲事ト云ツテ、責ムルコトハナイゾ、我ガ身ヲ我ト責メヨ、何故ナレバ、コレホド、司馬ノ天下ハ瓜漬ノ如クナルニ、大酒デ詩ヲ作ツテ、天下ヲモ太平ニ成サズシテ、空シク、年ヨリテ白頭ニナルコトハ、何トシタコトゾ、然レバ、ソノオソノ人デナクンバ道理ナリ、名人デ居テ空シク白頭デ居ルハ、曲事ナリ、コレコソ責ムベキコトヨ、何ゾ子ヲ責ムベキゾ、

天運苟如此。且進盃中物。

淵明歸之天運、自飲盃中之酒、以釋憂悶也、

田家

柳子厚

柳文四十三、田家三首、其一、暮食徇所務、驅牛向東阡、其二、籬落隔烟火、農談四隣夕、其三、古道饒蒺藜、

同題注云、筆墨閒錄云、田家詩云、雞鳴村巷白、又里胥夜經過、絕有淵明風味、  
調題 古道饒蒺藜、蒺藜、古城の曲、蓼花隄岸に被り、陂水寒更に綠なり、この時收穫竟り、落日機牧多し、風高くして榆柳疎なり、霜重くして梨棗熟す、行人去徑に迷ひ、野鳥棲宿を競ふ、田翁笑つて相念ふ、昏黑原陸を憶め、今年幸に少しく豊、籬と菊とを惡むなけれ、

古道饒蒺藜。

蒺藜有刺之草也、

縈廻古城曲。蓼花被隄岸。陂水寒更綠。是時收穫竟。落日多樵

牧。風高榆柳疎。霜重梨棗熟。

言二一時之景、

行人迷去徑。野鳥競棲宿。

上一句、含二下面昏黑意、

田翁笑相念。

昏黑慎原陸。此一句、言昏黑之時不分、明、當自慎也。今年幸少豐、無惡饘與粥。厚粥也、柳惡作、

詩意、詳于註也、

●五言長篇

●直中書省

此直宿中書省、闕所作也、

謝靈運

是謝玄暉直中書省詩也、非靈運之所作、詳見文選三十一、又謝玄暉、謝靈運、謝惠連、コノ三人ヲ謝ト云フ、

訓讀 紫殿肅として陰陰、形庭赫として弘敞、風は萬年の枝を動かす、日華承露の掌、玲瓏綺綵を結ぶ、深沈朱網に映じ、紅藥塔に當つて翻り、蒼苔砌に依つて上る、こゝに言風地に翔り、鳴珮清響多し、信に美なれども吾が室に非ず、中園偃仰を思ふ、朋情以て鬱陶、春物方に駘蕩、安んぞ風を凌ぐの輪を得て、聊か山泉の賞を恣にせむ、

紫殿肅陰陰、形庭赫弘敞。

文選第三十、謝玄暉、直中書省詩、題注、善曰、蕭子顯齊書曰、朕轉中書郎、銑曰、直謂宿於禁中、以備非常、善曰、紫殿、紫宮也、漢書成帝紀曰、神光降集紫殿、莊子曰、至陰肅肅、至陽赫赫、西都賦、西都賓曰、玉階彤庭、西京賦、昭昭以弘敞、向日、紫殿、天子居也、形庭謂禁中多赤色、肅嚴也、陰陰沈貌、赫盛也、弘敞高大也、善曰、晉宮闕名、

風動萬年枝、日華承露掌。

華林園南、萬年樹十四株、漢書曰、日華曜宣明、又云、武帝作柏梁銅柱承露盤仙人掌也、良曰、萬年木名、承露掌謂起高臺、爲仙人形、以掌受露、盤承甘露、華謂日照也、

玲瓏結綺錢。深沈映朱網。

善曰、晉灼甘泉賦注曰、玲瓏明貌也、東宮舊事曰、罔綺文縷也、綴、緣也、網與罔同而義異也、濟曰、綺錢朱網、並宮殿之飾也、玲瓏、珠貌、沈亦深也、

紅藥當堦翻。蒼苔依砌上。

善曰、淮南子曰、窮谷之汚生以蒼苔、銑曰、紅藥謂所植草也、紅者翻、亂草青也、

玆言翔鳳池。鳴珮多清響。

善曰、晉中興書曰、荀勗中書監、爲尚書令、人賀之、乃悲云、奪我鳳凰池、聊諸人何賀我耶、禮記曰、君子行則鳴珮、玉、翰曰、翔、集也、鳳池、中書省也、鳴珮、所佩玉也、玉勃云、佩玉鳴變也、云へリ、吹物ナリ、

信美非吾室。中園思偃仰。

善曰、王粲、字仲宣、登樓賦曰、雖信美而非吾土、今、會何足以少留、十一、毛詩曰、或栖遲偃仰、向曰、中書信爲美、然非居室也、思、丘園、以自偃仰也、

朋情以鬱陶。春物方駘蕩。

善曰、尚書、鬱陶乎予心、顏厚有怛怛、莊子曰、惠施之材駘蕩而不得、逐物不及、司馬彪曰、駘蕩猶施散也、良曰、不見朋友、鬱陶、心憂之也、駘蕩、春光色也、

安得凌風翰。聊恣山泉賞。

首言中書省之美麗、終思園林之閑雅、方春而鬱陶、以思我交朋、安得凌風翰、而歸恣賞山林泉石也、翰、音韓、善曰、莊子曰、鶴巢於高楡之顛、巢折凌風而起、毛詩曰、如飛如翰、鄭玄曰、如鳥之飛翰也、翰曰、願如鳥飛、恣、平生所尚也、

古詩

無名氏

文選二十九、善注云、並云古詩、蓋不知作者、或云、枚乘、疑不能明也、詩云、驅馬上東門、又曰、遊戲宛與洛、此則辭兼東都、非盡是乘、明矣、昭明以失其姓氏、故編在李陵之上、向曰、不知時代、又失姓氏、故但云古詩、銑曰、此詩意爲忠臣遭佞人譏謔、見放逐也、

行行重行行、君と生別離、相去ること萬餘里、各天一涯に在り、道路阻にして長し、會面安んぞ期すべき、胡馬は北風に依り、越鳥は南枝に巢ふ、相去ること日すでに遠し、衣帶日すでに緩なり、浮雲白日を蔽ふ、遊子復た返らず、君を思へば人をして老いしむ、歲月忽ち已に晩る、棄捐復た道ふ勿れ、努力餐飯を加へよ、

行行重行行。與君生別離。

楚辭第二、九歌、少司命篇、樂莫樂兮新相知、悲莫悲兮生別離、

相去萬餘里。各在天一涯。

善曰、涯、音宜、廣雅曰、涯、方也、翰曰、涯、畔也、言フハ、離別ノコトナレバ、各天一方ニ萬餘里ヲ隔テ、居ルゾ、廣雅ノ義ゾ、

道路阻且長。會面安可期。

善日、毛詩曰、遡河從之、道阻且長、安焉也、言フハ、遙々阻テテ離別ノ事ナレバ、又何時御目ニハカ、ラウゾ、期スベカラザルナリ、

胡馬依北風。越鳥巢南枝。

韓詩外傳曰、詩曰、代馬依北風、飛鳥棲南枝、皆不忘本之謂也、翰曰、胡馬出於北、越鳥來於南、依北風、巢南枝、皆思舊國、

相去日已遠。衣帶日已緩。

謂別後憔悴、而衣帶舒緩、善日、古樂府歌曰、離家日趨遠、衣帶日趨緩、言フハ、家ヲ離レテ遠國ヘ行クニ隨ツテ、日々路モ遠クナルホドニ、憔悴ト次第ニカジケテ、帶モ舒緩マツテシマラヌゾ、心ニ物ヲ思フ故、緩キコト一寸ゾ、

浮雲蔽白日。遊子不復返。

阻隔如、善日、浮雲之蔽白日、以喻邪佞之毀忠良、故遊子之行、不願返也、學曰、日月欲明、浮雲蓋之、陸賈新語曰、邪臣之蔽賢、猶浮雲之障日月、古楊柳行曰、讒邪害公正、浮雲蔽白日、義與此同也、鄭玄曰、毛詩箋曰、願念也、良曰、白日喻君也、浮雲謂讒佞之臣也、言佞臣之蔽君之明、使忠臣去而不返也、

思君令人老。歲月忽已晚。

翰曰、思君謂戀主也、恐歲月已晚、不得效忠於君、

棄捐勿復道。努力加餐飯。

濟曰、勿復道、心不復望返也、努力加餐飯、自勉辭也、

擬

古

陶淵明

陶嘗爲彭澤令、郡遣督郵、吏請束帶見之、歎曰、安能爲五斗米、折腰向鄉里小兒、即日解印綬、去、賦歸來、來辭、在官八十餘日、司馬懿仲達、即爲西晉之高祖、相受至第四代武帝、孫也、始即位、稱泰始元年、及愍帝、而四代五十四年、而西晉亡矣、東晉元帝、高祖仲達之曾孫、琅琊恭王觀之子、蓋五馬度江、一馬化龍、元帝即位、稱建武元年、後漢光武稱建武之例也、自元帝相受、十一主、凡一百四年、陶公出東晉之末、此篇破題曰、東方有一士、言中有響、

訓 東方に一士あり、被服常に完からず、三句九たび食に遇ひ、十年一冠を著く、辛苦この比なし、常に好容顔あり、我その人を觀むと欲す、晨に去つて河關を越え、青松路を夾んで生ず、白雲巖端に宿す、我が故來の意を知り、琴を取つて我が爲に彈す、上絃別鶴を驚かし、下絃孤鸞を操る、願はくは留まつて君に就いて住まり、今より歲寒に至らむ、

東方有一士。被服常不完。三旬九遇食。十年著一冠。

言一月中、二十日不食、十年已三千六百日、其中唯一日著衣冠、又一說、十年唯用一冠而已、

辛苦無此比。常有好看顏。

德足以潤身、豈計衣食之豐約哉、

東坡云、辛苦驪山山下土、阿房纒廢又華清、

我欲觀其人。晨去越河關。青松夾路生。白雲宿簷端。知我故來意。取琴爲我彈。上弦驚別鶴。下弦操孤鸞。願留就君住。從今至歲寒。

淵明志趣與之符合願就其居定交友歲寒之盟也

●讀山海經

陶淵明因讀山海經胸次悠然有自得之趣作此以詠其幽居之適

文選三十讀山海經題注翰曰山海經者所記衆山百川草木禽獸之書潛讀之因而發詠

孟夏草木長。屋繞樹扶疎。衆鳥托欣。吾亦亦吾。既耕亦已種。時還讀我書。

孟夏草木長。繞屋樹扶疎。

善曰上林賦曰垂條扶疎銑曰此先述時候謂也扶疎謂枝葉四方布貌

衆鳥欣有托。吾亦愛吾廬。

良曰衆鳥皆欣此茂林也扶疎而我亦愛我所居蓋各得其所

既耕亦已種。時還讀我書。

選時作身字而訓早言フハ先づ田畠ヲ耕シテ後ニ種ヲ蒔クゾ急ギ仕舞ウテ家ニ歸ツテ書ヲ讀ムゾ

窮巷隔深轍。頗回故人車。

漢書曰張負隨陳平至其家乃負郭窮巷以廬爲門門外多長者車轍韓詩外傳楚狂接輿妻曰門外車轍何其深向日大路車馬行多故轍跡深也

欣然酌春酒。摘我園中蔬。微雨從東來。好風與之俱。

閑居賦曰微雨新晴翰曰夏之暑熱風雨俱來清滌煩氣故曰好風

汎覽周王傳。

按太平廣記周穆王好神仙乘八駿之馬日宴西王母於瑤池之上

流觀山海圖。

神禹治水有山海經傳于世張僧繇畫以爲圖焉

善曰周王傳穆天子傳也山海圖山海經也銑曰泛溥也周王傳謂周穆王傳也穆王車轍馬跡徧於天下故先溥覽之然後流目於山海經也圖象也

俛仰終宇宙。不樂復何如。

善曰莊子老聃曰其疾也俛仰之間再撫四海之外向日讀此書俛仰之間終見天下之事可謂樂也

●夢李白二首

杜子美

此二篇之義取批點千家不用草堂說也批點杜子美第五載此二首題注趙曰白坐永王璘事當誅郭子儀請解官贖罪詔長流夜郎會赦還潯陽復坐事下獄潯陽館今江州屬汝南道杜詩千家第十一載之題注云因舊次編在乾元二年秦州詩內按白乾元元年戊戌流夜郎寶應元年壬寅卒則此詩不應乾元二

年當是大曆二年、又草堂第十四載、此二篇云、乾元二年秋七月、葉官居秦州、以後作、

死別すでに聲を呑む、生別常に惻惻、江南瘴癘の地、逐客消息なし、故人我が夢に入り、我が長相憶を明かにす、君今羅網に在り、何を以て翼あらむ、恐らくは平生の魂に非ず、路遠くして測るべからず、魂來つて楓林可く、魂去つて關塞黒し、落月屋梁に滿つ、猶ほ疑ふ顔色を照らすかと、水深くして波浪濶し、蛟龍をして得せしむるなかれ、

死別已吞聲。生別常惻惻。

馬融傳、不忍生別。我心惻惻。

批云、使其死耶、當不復哭矣、乃使人不能忘者、生別故也、言フハ、死別ノ時ハ、トテモ返ラヌ道ナレバ、惜ミ哀ミ、涙ヨリ外ノコトハナシ、生別ハ早晚カ逢フベシト哀ミ忘レザルモノゾ、生死ハ一大事ゾ、

江南瘴癘地。

白坐永玉璫之累、詔長流夜郎、會赦還潯陽、坐事下獄、潯陽今江州路、即潯陽江南東路、

逐客無消息。故人入我夢。明我長相

憶。

樂府云、夢見在我傍、已覺在別鄉、上有加餐食、下有長相憶、往尋、但行至半道、即迷不知、遂回、

恐非平生魂。路遠不可測。

韓非子曰、六國時、張敏與高惠二人爲友、每相憶、不能得見、敏便於夢中、

魂來楓林青。魂返關塞黑。

楚辭曰、湛湛江水兮有楓、草注、楚岸多楓、白魂從南楚而來也、草注、指同州、甫時卜居同谷、謂白魂自同谷而返也、

今君在羅網。何以有羽翼。

李白母方娠、夢長庚、故李白、

落月滿屋梁。

宋玉神女賦、若白月初出照屋梁、

猶疑見顏色。

西清詩話、白歷見司馬子微、謝自然、賀知章、或以爲可與神遊八極之表、或以爲謫仙人、俱不若少陵云、落月照屋

梁、猶疑見顏色、百世之下、尙想見其風采、此李太白傳神詩也、

批語云、偶然實境、不可更過、言フハ、虛說デハナイ實境ゾ、何カ李白ガ形ガ見ルヤウゾ、月ノ光マデゾ、コ、ガ肝要詩人ノ眼ゾ、月デコソアリタレ、李白デハナカツタゾ、見ノ字ヲ批點ニハ照ノ字ニ作ル、草堂注、劉原父云、此詩人第一格、學詩者、未易到也、坡句云、有如長庚月、到曉爛不收、言フハ、長庚星ノ光ガ月ニバシナリタカ、曉ニナレドモ、不收ト云ウテ、星ヲ月光ニ比シタ、コレハ十五日以後ノ缺クル月ヲ云フゾ、茲注外、杜注添之、其風神超邁、英爽可レ知、後世詞人狀其風貌者、多矣、亦間於丹青見之、少陵ガ落月照屋梁、猶疑照顏色ト云ツタヤウナコトデハナイ、後世ノ人、李白ノ風貌ヲ本心ニカタドリ、學バイデハゾ、又白ガ詩ノ心持ヲ畫ニカイト、ソノ風神ヲ見ス者ノ多イゾト、

水深波浪闊。

宋玉賦、海水深浩、波浪廣闊、非萬斛舟不可泛、

無使蛟龍得。

按太白溺死於采石、此詩當是白死後作、故曰、死別已吞聲、而終云、水深波浪闊、無使蛟龍得、而殆誠有捉月之事故也、

才子傳云、李白晚節好黃老、度牛渚磯、乘酒捉月沈水中、唐書李白本傳、嘗乘月與崔宗之、自采石至金陵、著宮錦袍、坐舟中、旁若無人、代宗立、以左拾遺召、而白已卒、年六十餘、某謂、薛仲登所編李白年譜云、白生於武后聖曆二年己亥、卒于肅宗寶應元年十一月、凡六十四歲、會南豐所作李白集序曰、白享年六十四、

又

隱居詩話云、元稹作李杜優劣論、先杜而後李、韓愈不以為然、作詩曰、李杜文章在、光焰萬丈長、不知群兒愚、何用故誇傷、蚺蛇撼大樹、可笑不自量、爲微之發也、元稹自謂、知老杜矣、其論曰、上該曹劉、下薄沈宋、至三退之、則曰、引手拔鯨牙、舉瓢酌天漿、夫高至於酌天漿、幽至於拔鯨牙、其思致深遠宜如何、而詎止於曹劉沈宋之間耶、

調 浮雲終日行、遊子久しく至らず、三夜頻りに君を夢む、情は親む君を見るの意、皆歸常に局促、苦に道ふ來ること易からず、江湖風波多し、舟楫失墜を恐る、門に出でて白首を搔き、平生の志に負くが若し、冠蓋京華に滿つ、斯人ひとり顛顛、孰れか云ふ細恢恢、將に老いむとして自ら反つて累す、千秋萬歲の名、寂寞たり身後の事、

浮雲終日行、遊子久し不至。

古詩、浮雲蔽白日、遊子不願返、此言與此下時君昏暗、爲羣少所蔽、而君子在外也、

浮雲指讒臣也、遊子指李白也、批語云、此兩詩、起語千言萬恨、

三夜頻夢君情親見君意告歸常局促苦道來不易。

批云、人情鬼語、偏極苦味、

江湖多風波、舟楫恐失墜、出門搔白首。

諸葛松詩、出門無往還、時復搔白首、

言フハ、出入ノ人モ無ケレバ、門ノ送迎モイラヌゾ、落チブレタル時ハ、誰モ問フ人アラバコソ、頭ヲ搔イテ無言デ居ルヨリ外ノコトハナイゾ、

苦負平生志。

批云、夢中賓主語具足、言フハ、夢ノ中ナレドモ、不斷ネンゴロニモ申シ通ズルコトモ疎ナドト、オボオボト物語ヲシタ様子ゾ、常ニ思ヘドモ、程ヘダタリテ、無念ナト云フゾ、

冠蓋滿京華、斯人獨顛顛。

左太中詩、濟濟京城內、赫赫王侯居、冠蓋蔭三街、朱輪驅長衢、寂寂王子宅、門無卿相輿、

批云、語出情痛自別、言フハ、世ガ世ニ在ル人ハ、京華ニ居テ、冠リ束帶シテ、蓋ヲ指シカケラレテ、門外ニ車轍ヤ馬跡ノ斷ユル暇モ無イニ、太白殿ハ、翰林學士ノ官デ、文章比類モナケレドモ、憔悴ノ有様チヤト云フゾ、

孰云網恢恢、

老子、天網恢恢、疎而不漏、

將老身反累。

嵇康曰、吾將老矣、反爲牛尾累身、

草注云、身一作才、蓋傷白少年、見重於玄宗、至使御手調羹、龍巾拭吐、不意今日暮年、反爲才所累、

千秋萬歲名。

阮籍詩、千秋百歲後、榮名安所之、

寂寞身後事。

張翰曰、使我有身後名、不如即時一盃酒、子美蓋傷太白身後、惟有孫女、家聲不振、徒留千秋萬歲名也、

甫歎、白生不用、身後有姓名、不遇委之、寂寞之鄉、果何益哉、批曰、結極慘黯、情至語寒、唐書李白本傳、白至姑熟、悅謝家青山、欲終焉、及卒、葬東麓、元和宗末、觀察使范傳正、祭其塚、訪後裔、惟一孫女嫁爲民妻、仍有風範、因泣曰、先祖志在青山、頃葬東麓、非本意、傳正爲改葬、立一碑、某謂、白年譜所記、與唐書本傳同、陸龜蒙詩云、陵陽佳地昔年遊、謝朓青山李白樓、

贈東坡

前篇、梅以屬東坡、東坡云、託物引類、得古詩人之風、

黃山谷

黃庭堅、字魯直、遊舒州石牛洞山谷寺、遂號山谷、其前身爲誦法華之女子、詳見春渚紀聞、仁宗嘉祐元年、丙申、蘇洵四十八、坡二十一、子由十八、共出蜀至京、自坡二十一嘉祐元丙申、至坡四十三元豐元戊午、其間凡二十三年事舉之、唐武后之朝、蘇味道、在眉州之官、以來、蘇氏始興於眉也、詳見紀年錄、坡先祖白蓮道人、及七世讀書等事跡、載于湖海新聞、坡號梅佛子、子由號松佛子、先輩云、出范元實所編詩眼在之、又父蘇老泉生坡時夢梅、生子由、時夢松、遷齊閑覽二在リ、然レドモ、コノ書、日本へ渡ラヌ書ト云フ、謂古詩、就某謂、文選一班固兩都賦、賦者、古詩之流也、賈誼弔屈原賦一篇、其首云、鸞鳳伏竄、其中云、鳳鸞其高逝兮、其云、鳳凰翔于千仞兮、老杜杜鵑行亦古詩之類、而舉五杜鵑、矣、谷此篇、始中終三處用桃李、寔古詩與賦同調無疑、且又上世梅桃李舉、其實、而不取、其花、見毛詩等、今此篇花實兼用、而取實過半、宜著眼也、流隱叢話前集四十二、東坡答山谷古風云、佳穀臥風雨、稂莠登我場、陳前謾方丈、玉食慘無光、大哉天宇間、美惡更臭香、君看五六月、飛蚊殷迴廊、茲時不少假、俯仰霜葉黃、期君蟠桃枝、千載終一嘗、願我如苦李、全生依路傍、紛紛不足懼、悄悄徒自傷、意言、君子小人、進退有時、如夏月蚊蠅縱橫、至秋自息、比黃庭堅於蟠桃、進用必遲、自比苦李、以無用自全、皆以譏當今進用之人爲小人也、又云、空山學仙子、妄意笙簫聲、千金得奇藥、開視皆稀苓、不知市人中、自有安期生、君今已度世、坐閱震中帶、摩挲古銅人、歲月不可計、陶風安在哉、要君相捐似、此詩即無譏諷、又云、此篇和詩無韻、諸本皆然、不知其有遺闕否、

訓讀 江梅佳實あり、根を桃李の場に託す、桃李終に言はず、朝露恩光を借る、孤芳暗潔を忘み、氷雪空しく自ら香し、古來忠實に和する、この物廟廊に升る、歲月坐を成し、煙雨青すでに黃なり、桃李の盤に升るを得、遠きを以て初めて警めらる、終然として

口にすべからず、擲置す官道の傍、但だ本根かして在らしむれば、棄捐果して何をか惜まむ、

江梅有佳實。託根桃李場。

言佳實以下、以三六句爲眼目、桃李花也、指時輩、舊說、此篇五段、今用三段、此篇仁英神之三朝、又一說云、東坡和、唯用神廟一代之事、則此詩亦神廟一代之事也、私ニ云フ、古シヘヨリ云フ、總ジテ詩ヲ編ムニ、歷卷ガ大事ゾ、ソノ人ガサル人ニ賞既セラレ、或ハ名人ト酬作スルヲ第一ニ載スルゾ、コノ詩モ、東坡ニ始メテ知ラレタガ名譽テアルホドニ、第一ニ谷集ニ置クゾ、東坡、孫莘老ノ座上デ谷ノ文ヲ見テ、絶唱超逸、獨出子物外者也ト嘆ズルゾ、ソレニ依ツテ、コノ詩ニ書ヲ添ヘテ坡ニ寄スルゾ、ソノ返事ヲ注ニソツト載スゾ、谷ハ蘇門四學士ノ中デハ、一ノ後ニ坡ニ知レタゾ、有レドモ才ハ抜キ出デゾ、結局、坡ト名ヲ齊シウシテ、蘇黃ト呼バル、ゾ、江梅有佳實、コノ詩ハ比ノ詩ゾ、比ト云フハ、物ニナゾラヘテ、人ヲ賞ムルゾ、直ニホムルニハ詔フニ近キゾ、サテ物ニ託シテ云フゾ、梅ノ上デハ何トホメタモ大事モナイゾ、コノ詩ハ、全篇梅ヲ以テ坡ニ比スゾ、コレモ范元實ノ詩話ニ、坡ガ大夫人、子ヲ斬ツテ梅ト松ト夢ニ見テ、軾輒ノ二子ヲ生シタゾ、遷齊閑覽、紅梅ハ蜀ノ江梅ゾ、坡ハ蜀人、サテ江梅ト云フゾ、范石湖ノ梅譜ニ、直脚梅ト云フ、ゾ、ソノ細カク花ガアリテ、強ウ香シイゾ、實ガ堅イゾ、又江梅ハ花ヲ云ヒサウナニ、先ヅ實ヲ云フハ、何事ゾト云フニ、古風ノ心ゾ、尙書毛詩ナンドニハ實ヲ云フゾ、花ヲ云フハ、南北朝以來ノコトゾ、江梅ハ好イ實ガアル花ゾ、コレガ桃李ノ中ヘ何ト思フタヤラデ交リタゾ、コレト坡ニ比スル時ハ、坡ガ二十二歳、蜀カラ及第セウズトテ、仁宗ノ嘉祐中ニ京ヘ上ルヲ云フゾ、歐陽ノ下デ、及第ヲシタゾ、歐陽ガ坡ノ文ヲ見テ、曾子固ノ文ト思ツテ、私ヲシタト云ハレジトテ、第二科ニ置イタレバ、サハナウテ、坡カ文ゾ、又文ヲ書イテ見セタレバ、老夫避此人、可レ出ニ頭地、或本、老夫當レ避此人一頭地ト賞ムルゾ、コノ人ガ居ズバ、我モ一ツ頭ヲモツベキニト云フ心ゾ、桃李ハ在朝ノ人ゾ



桃李場ハ朝廷ゾ、佳實ハ坡ノ才ゾ、

桃李終不言朝露借恩光。

言江梅爲桃李所忌、意謂東坡見嫉當世、獨人主見知耳。

言フハ、桃李ガ梅ニハ目ヲモ見カケヌゾ、桃李ハデバメイタ者ゾ、梅ハサウハナイゾ、實ナ物ゾ、然ルホドニ、桃李ガエセ變リテ目ヲモカケヌゾアルカ、天ハ雨露ノ恩ヲ下スゾ、坡ノ上デ見レバ、英宗位ニ御即キナイ先カラ、坡ノ名ヲ聞イテ、貴ンデ、治平元年ニ、坡ヲ李白ノ如クニ布衣ヨリ一階ニ翰林學士ニナソウト召サレタゾ、韓琦ガ坡ハ遠大ノ器ナリ、イカニモ保養シテ、次第ニ舉ゲ用ヒラレヨト申シテサイタゾ、コ、ヲ桃李ノ群臣ハ目モカケヌニ、天子ノ御恩ハ大キナト云フ心ゾ、琦モ坡ヲ遠大ニ用ヒヤウトテゾ、他日、歐陽ガ坡ニ告ケダレバ、坡ガ韓公ノ軾ヲ待スル、君子愛人レ德也ト云ウテ、坡モ喜ンタゾ、谷注ニ、桃李ハ李廣ノ故事ヲ用ヒテ、心ノ變ルヲ借用シタゾ、

孤芳忌皎潔。冰雪空自香。

退之詩、異質忌處群、孤芳難寄林、鮑照詩云、艷陽桃李節、皎潔不成妍。

古來和鼎實。此物外廟廊。

言フハ、佳實ノ二字ヲ舉グ、潘安仁詩、王生和鼎實、王生トハ征西大將軍王詡ナリ、祭酒ハ三公ヲ助ケ、和鼎五味ヲ調フル時ニハ、鹽梅ノ二ツガナクテハ叶ハヌゾ、コノ一聯、梅實ヲ舉グ、重賞スベキ物ナリ、

歲月坐成晚。烟雨青已黃。

此一聯、坡廿八、仁宗嘉祐八年三月崩、同四月、英宗即位、其明年號治平、治平二年、坡三十、在鳳翔、召試秘閣、除直史

館、治平四年、英宗正月崩、坡三十一、風土記云、夏至前、雨名黃梅雨、

得升桃李盤。以遠初見嘗。

英宗崩、神宗即位、號熙寧、熙寧四年、坡三十六、判官誥院在京、兼判尙書祠部、以議論與時宰不合、尋乞補外、差杭州通判、在杭四年、坡時三十九、即熙寧七年也、韓詩外傳、田饒曰、黃鵠無五德、君猶貴之、以其所從來者遠矣、

終然不可口。擲置官道傍。

杜病橘詩、紛然不可口、豈只存其皮、

熙寧八年、坡四十、赴密守、在密三年、坡四十二、熙寧十年四月、赴徐州太守任、擲置黃金解龍馬、官道傍、世說、王戎不趣道傍苦李、

但使本根在。棄捐果何傷。

此二句、言君子如大器晚成、可美、方寸一旦之棄擲、豈繫懷乎、蒙齋先生詩林廣記後集五、載二篇、注引任天注云、此詩起四句、言江梅爲桃李所忌、意謂東坡見嫉於當世、獨爲人主所知耳、東坡蜀人、故曰、以遠初見嘗、又曰、終然不可口、擲置官道傍、以言東坡棄置於外郡也、

又

後篇松以屬東坡、茯苓以屬門下士之賢者、兔絲以自況、

以又字爲題、蓋文選之例也、前篇同時作也、往往云、此門下士、指秦少游、張文潛、晁無咎及谷之四學士、某謂、此說非也、四學士之名、元祐以來甚鳴、坡通判杭之時、晁端友、始以其子無咎屬坡、換韻格、坡和之、除韻爲六韻、和之、

【訓】 青松潤壑に出で、十里風聲を聞く、上に百尺の絲あり、下に千歳の苔あり、自性久要を得、人の爲に頽齡を制す、小草遠志あり、相依る平生に在り、醫和世に並ばず、根を深くして且つ蒂を固くす、人は曾ふ國を醫すべしと、何ぞ用ひむ大早計、小大材則ち殊なるも、氣味もとより相似たり、

青松出澗壑。十里聞風聲。

言フハ、松聲ノ出ヅルナリ、坡在下條、其名滿四方、況齡ニ高位乎、

上有百尺絲。下有千歲苔。

淮南子曰、千年之松、下有茯苓、上有兔絲、不可訓絲也、即菟絲之絲也、但除頭上之草而已、詳見本草、

自性得久要。爲人制頽齡。

此句指茯苓、

坡和此詩、無齡字、坡集此和題注、引谷此詩、亦除自性得久要、爲人制頽齡、一聯、蓋坡不押齡字、故除之、賦、東坡文集等、亦載此和、無齡字、按坡集第十一、和子由論書詩、蓋子由本韻十五韻、坡除一、字、作二十四韻、和之、故子仁注云、子由首篇左字一聯上、又有鎖字、一聯、此乃闕焉、未詳、又柳子厚詩曰、漁翁夜傍西巖宿、曉汲清湘燃楚竹、烟消日出不見人、欸乃一聲山水綠、回看天際下中流、巖上無心雲相逐、玉屑十一末云、柳子厚漁翁夜傍西巖宿詩、東坡刪後二句、使子厚復生亦心服、言フハ、柳子厚ヲ再來サセテ、東坡ガ此末ノ二句ヲ刪ツタト云ハ、柳モ心ニ満足スベシトナリ、刪リ得テ妙ゾ、由是則東坡已刪子厚之二句、況於山谷之齡、子由之鎖乎、可除而除之、賦、抑亦波瀾萬丈、痛快之一厥歟、哀哉、獨有蒙齋先生之一語、而欠支那諸家之注者、本邦東西洛諸老之三寸、後來好事之人、容

易莫香、

小草有遠志。相依在平生。

世說、桓溫問謝安、遠志又名小草、何以一物而有二名、鄭隆曰、處則爲遠志、出則爲小草、此句以下、並指兔絲、言其不依附凡木、所志遠矣、

言フハ、谷ガ坡ヲ慕フハ、猶ホ兔絲ノ松ニ付クガ如キナリ、凡木ニ依附セズ、志ストコロ遠イゾ、平生坡ヲ慕フコト遠イ志アルゾ、

醫和不並世。

坡並門下之士、當世無識者、徒枉待時耳、言フハ、世人ト同ジク用ヒラレザルコトヲ云フゾ、人ガ識ラザルニ仍ツテ舉用セラレヌゾ、

深根且固蒂。

根トハ菟絲ノ根ゾ、蒂ハ茯苓ノ蒂ゾ、

人言可醫國。何用大早計。

晉語、平公有疾、使醫和視之、文子曰、醫及國家乎、對曰、上醫醫國、其次醫人、固醫官也、謂依附賢者、足以自樂、至其不爲當世所知、而未嘗汲汲也、コノ四句一段、雜菟絲茯苓而言之、言フハ、坡今小官ナリトモ、根蒂ヲ固ク御持チアレ、後ニハ大臣ト成ツテ國家ヲ醫スベキナリ、大早計デハ濟ムマイ、時節アルベシト、世上ノ人モ云フト申スゾ、壽ガ干要ゾト、能ク方寸ヲ養フベシ、當世知識ナント思ウテ、大早計ニバシアルナ、國ヲ醫スベキ君子ノ大器、晚ニ成ル者ゾ、

小大材則殊。氣味固相似。

山谷自謂、已之於東坡、才之大小固殊、然其剛介自守之操、未始有異也、

二句一段、小ハ菟絲茯苓、大ハ坡谷、才ノ大小ハ殊ナレドモ、心ノ操ハ別ナルコトナク、相似タズ、

慈烏夜啼

白樂天

韻會、烏汪胡切、一曰反甫之鳥、又小爾雅云、小而腹下白不反哺、孔叢子、純黑而反哺者、謂之烏、天全本草十九、有烏鴉、又有慈鴉、似烏而小、多群飛作鴉聲、者是北土極多、不作、臘臭、今謂之寒雅也、白居易、字樂天、年十七登第、詩云、慈恩塔下題名處、十九人中最少年、詩至數千篇、士人爭傳、雞林行賈、售其國相、率一篇一金、自號醉吟先生、又稱香山居士、子龜年、弟行簡、從弟敏中、龜年一日於嵩山東巖下、遇李白、曰、吾與汝父、皆仙矣、出一軸素書、授之、曰、讀此可辨九天禽語、九地獸言、後試之皆驗、行簡敏中、相繼登第、樂天詩云、桂折一枝、先許我、楊穿三葉、盡驚人、唐懿宗咸通中、敏中拜相、韻語陽秋十二云、佛氏經律論合五千四十八卷、實之大藏、所以傳佛心印、作將來眼、所補大矣、樂天詩詞、其間何所不有、而實之大藏、何耶、東都聖善寺、蘇州南禪院、各有之、且自著集序、李公垂作詩美之、曰、永添鴻寶集、莫雜小乘經、所謂盜憎主人者、

慈烏その母を失ふ、啞啞として哀音を吐く、晝夜飛び去らず、年を経て故林を守る、夜夜夜半に啼く、聞くもの爲に襟を沾す、聲中告訴するが如し、未だ反哺の心を盡さず、百鳥豈に母なからむや、爾獨り哀怨深し、應に是れ母の慈重かるべし、爾をして悲任へざらしむ、むかし吳起といふものあり、母歿して喪に臨まず、哀いかな此の若きの輩、その心禽に如かず、慈烏復た慈烏、鳥中の曹卷、

慈烏失其母。啞啞吐哀音。晝夜不飛去。經年守故林。夜夜夜半啼。聞者爲沾襟。

宋臨川王坐廢、夜聞烏啼、獲赦、遂製烏夜啼、

聲中如告訴。未盡反哺心。

鳥反哺其母、

孟子有盡心篇、

百鳥豈無母。爾獨哀怨深。應是母慈重。使爾悲不任。昔有吳起者。母歿喪不臨。哀哉若此輩。其心不如禽。

吳起者衛人、仕於魯、齊人伐魯、魯人欲以爲將、起取齊女爲妻、魯人疑之、起殺妻、以求大將、大破齊師、人謂之魯侯、曰、起始事魯、母死不奔喪、魯絕之、今又殺妻、以求爲君將、起殘忍薄行人也、史記、吳起者衛人也、好兵、嘗學於曾子、事魯君、齊人攻魯、魯欲將吳起、吳起取齊女爲妻、而魯疑之、吳起於是欲就名、遂殺其妻、以明不與齊也、魯卒以爲將、將而攻齊、大破之、魯人或惡吳起、起殺其誘己者、聞魏文侯賢之、欲事之、文侯問李克、曰、吳起何如人哉、李克曰、起貪而好色、然用兵、司馬穰苴不能過也、於是魏文侯以爲將、擊秦拔五城、起之爲將、與士卒最下者同衣食、臥不設席、行不騎乘、親裹贏糧、與士卒分勞苦、卒有病疽者、起爲吮之、卒母聞而哭之、曰、往年吳公吮其父、其父戰不旋踵而死、今吳公又吮其子、妾不知其死所矣、文侯既卒、起事其子、武侯、武侯浮西河而下、中流顧而謂吳起、曰、美哉乎山河之固、此魏國之寶也、起對曰、在德不在險、昔三苗氏左洞庭、右彭蠡、德義不修、禹滅之、夏桀之居、左河濟、右泰華、伊國在其南、羊腸在其北、修政不仁、湯放之、殷紂之國、左孟門、右太行、常山在其北、大河經其南、修政不德、武王殺之、由此觀之、在德不在險、若君不修德、舟中之人、盡爲敵國也、武侯曰、善、卽封吳起爲西河守、田文既死、公叔爲相、吳起懼得罪、遂去、卽之楚、云々、宗室大臣作亂、而殺吳起、私云、吳起ト云フ者ハ、不孝ナ者デ、母ガ死シタレドモ、喪ニモ臨マヌ、カヤウノ輩ハ、鳥ニモ

劣リタト云フゾ、人間トモ云ハウズルヤウハナイゾ、國家ヲ治ムル大將トナルホドノ人ナレドモ、五常ヲ欠イタレバ

慈烏復慈烏。鳥中之曾參。

曾參孝於事母、禽中亦有此者。

●田家

柳子厚

柳文四十三、田家三首、注云、筆墨間錄云、田家詩、鷄鳴村巷白、云々、又里胥夜經過、云々、絕有潤明風味、詩辨云、子厚深得騷體、●許彥周詩話云、東坡在海外、方盛稱柳州詩、後嘗有入得罪過海、見黎子雲秀才、說海外絕無書、適渠家有柳文、東坡日夕玩味、嗟乎雖東坡、觀書亦須著意研窮、方見用心處耶、

籬落隔烟火。農談四隣夕。庭際秋蛩鳴。疎麻方寂歷。蠶絲盡輸稅。機杼空倚壁。籬落之外見烟火、下、得一隔字、妙、農談四隣夕、庭際秋蛩鳴、疎麻方寂歷、蠶絲盡輸稅、機杼空倚壁、里胥夜經過、雞黍筵席を事とす、各言ふ官長峻なり、文字督責多しと、東郷は租期に後れ、車轂泥濘に陥る、公門推恐少し、鞭朴狼藉を恣にす、努力傾んで經營せよ、肌膚真に惜むべし、新に迎ふる此歳に在り、唯だ恐る前跡に踵がむことな、

籬落隔烟火。

籬落之外見烟火、下、得一隔字、妙、

農談四隣夕。庭際秋蛩鳴。疎麻方寂歷。蠶絲盡輸稅。機杼空倚壁。

杼空倚壁。

毛詩十三、小雅大東篇云、小東大東、杼柚其空、傳云、空盡也、箋云、無他財、雖有絲麻耳、今盡杼柚不作也、

里胥夜經過。鷄黍事筵席。

劣リタト云フゾ、人間トモ云ハウズルヤウハナイゾ、國家ヲ治ムル大將トナルホドノ人ナレドモ、五常ヲ欠イタレバ

慈烏復慈烏。鳥中之曾參。

曾參孝於事母、禽中亦有此者。

●田家

柳子厚

柳文四十三、田家三首、注云、筆墨間錄云、田家詩、鷄鳴村巷白、云々、又里胥夜經過、云々、絕有潤明風味、詩辨云、子厚深得騷體、●許彥周詩話云、東坡在海外、方盛稱柳州詩、後嘗有入得罪過海、見黎子雲秀才、說海外絕無書、適渠家有柳文、東坡日夕玩味、嗟乎雖東坡、觀書亦須著意研窮、方見用心處耶、

籬落隔烟火。農談四隣夕。庭際秋蛩鳴。疎麻方寂歷。蠶絲盡輸稅。機杼空倚壁。籬落之外見烟火、下、得一隔字、妙、農談四隣夕、庭際秋蛩鳴、疎麻方寂歷、蠶絲盡輸稅、機杼空倚壁、里胥夜經過、雞黍筵席を事とす、各言ふ官長峻なり、文字督責多しと、東郷は租期に後れ、車轂泥濘に陥る、公門推恐少し、鞭朴狼藉を恣にす、努力傾んで經營せよ、肌膚真に惜むべし、新に迎ふる此歳に在り、唯だ恐る前跡に踵がむことな、

籬落隔烟火。

籬落之外見烟火、下、得一隔字、妙、

農談四隣夕。庭際秋蛩鳴。疎麻方寂歷。蠶絲盡輸稅。機杼空倚壁。

杼空倚壁。

毛詩十三、小雅大東篇云、小東大東、杼柚其空、傳云、空盡也、箋云、無他財、雖有絲麻耳、今盡杼柚不作也、

里胥夜經過。鷄黍事筵席。

里胥吏也、杜詩注、小胥、小吏也、

各言官長峻。文字多督責。

催租之人又來、

長一縣者、賓主皆言苦其號令嚴峻、

東郷後租期。車轂陷泥濘。

有下輸納租、後期者、

公門少推恕。鞭朴恣狼藉。

書鞭作官刑、朴作殺刑、

努力慎經營。肌膚真可惜。

須早納官、肌膚可、惜、毋取其答辱也、

迎新在此歲。惟恐踵前跡。

此乃迎新割稻之時、即當以下東郷

之事爲戒也、

前漢書列傳五十九、黃霸傳、霸力行教化、而後誅討、務在成就、全安長吏、(師古曰、不欲易代及損傷之也)許丞老病、(如淳曰、許縣令)督郵白欲逐之、霸曰、許丞廉吏、雖老尚能拜起送迎、頗重聽何傷、且善助之、毋失賢者意、或問其故、霸曰、數易長吏、送故迎新之費、及姦吏緣絕簿書、盜財物、(師古曰、緣、因也、因交代之際、而弄簿書、以盜官物也)公私費耗甚多、皆當出於民、所易新吏、又未必賢、或不如其故、徒相益爲亂、云々、コノ本經ノ注、ワルシ、黃霸方傳ノ義理ヨシト、先輩以ニ此注爲非也、用ニ漢書黃霸傳、送故迎新之故實、可取之也、●言フハ、幾度吏ヲ易タリトモ、碌ナコトアルマイゾ、只タ故ノ吏コソヨケレトナリ、

●樂府上

此詩去古未遠、頗有三百篇之遺風、

無名氏



●飲

酒

傷風俗澆浮、吾道晦蝕、不若痛飲自陶其天真。

陶淵明

義農我而去ること久しく、世を擧げて復た真なるを、汲汲たり魯中の叟、彌縫それをして淳ならしむ、鳳鳥至らずと雖も、禮樂暫く新なるを得たり、洙泗微響を輟め、漂流狂秦に逮ぶ、詩書亦た何の罪、一朝灰塵となる、區區たる諸老翁、事を爲す誠に慙慙、如何統世の下、六籍一親なし、終日車を馳せて走る、津を問ふところを見ず、若し復た快飲せざれば、空しく頭上の巾に負かむ、但た恨む謬誤多きを、君當に醉人を怒すべし、

義農去我久。

伏義神農、古之帝王、舉世少復真。

伏義神農ハ、上古ノ帝王ナリ、尙書ニハ、堯舜ヲ首ト爲シテ、三皇ヲ載セズ、史記ニハ、首ニ五帝ヲ載セタゾ、皇帝ノ始ヲ擧ゲタゾ、

汲汲魯中叟。

汲汲不休息貌、東坡詩云、坐令魯叟作瞿曇、又鳳翔八觀詩、有魯叟語、王荆公詩、魯叟遺編費討論、注謂孔子也、彌縫使其淳。

左傳二、桓五年秋、王以諸侯、代鄭、鄭伯禦之、曼伯爲右拒、祭仲足爲左拒、原繁高渠彌、以中軍、奉公爲魚麗之陳、先偏後伍、伍承彌縫、司馬法、車戰二十五乘爲偏、以車居前、以伍次之、承偏之隙、而彌縫闕漏也、五人爲伍、此蓋麗陳法、王卒大敗、祝射射王中肩、王亦能軍、雖軍敗身傷、猶殿而不奔、故言能軍、祝射請從之、公曰、君子不欲多上人、況敢陵天子乎、苟自救、社稷無隕多矣、鄭於此收兵自退、言フハ、王ト云フハ周王ゾ、周ノ

襄王ノ微弱ナル時ノコトゾ、論語憲問ノ篇ニモ在ルゾ、

鳳鳥雖不至。

語、鳳鳥不至、吾已矣夫、

禮樂暫得新。

六句言孔子修六經、而義農之道以明、

洙泗輟微響、漂流逮狂秦。

洙水出秦山、入泗、泗水出魯國濟陰乘氏、史注、泗水源在兗州泗水縣、東陪尾山、其源有四、因以爲名、秦ハ狂秦暴秦亡秦強秦ト云フゾ、

詩書亦何罪、一朝成灰塵。

四句言秦皇焚六經、而孔子之道以晦、

尙書以堯典舜典爲首、不取三皇及少昊顓頊帝嚳等、史記首置五帝本紀、其中不取少昊、取三皇之中、黃帝合顓頊帝嚳堯舜爲五帝、少昊黃帝之子也、資治通鑑、亦以黃帝爲首、丁亥歲即位、資治通鑑綱目、以三周三十三代威烈爲首、互見紹運二圖、以三皇爲首、

區區諸老翁。

指漢伏生之徒、

爲事誠慙慙。

伏生名勝、濟南人、爲秦博士、漢文即位、求能治尙書者、伏生能治、時年九十餘、老不能行、使晁錯往受之、得二十九篇、

如何絕世下、六籍無一親。

谷云、百年才一炊、六籍經幾秦、

終日馳車走、不見所問津。

六句言世儒訓詁之陋、而嘆聖人之不生也、

論語、孔子使子路問津、言フハ、今時ハ利名ノ爲ニ、車馬ヲ奔走スルマデゾ、孔子ノ如キ聖人モナケレバ、三綱五常ノ道ヲ説イテ教化スルコトナシ、ムカシ孔子ハ、七十二國ヲ栖々遑々ノ時、子路ニ津ヲ問ハセタコトガ有ルゾ、若復不快飲。空負頭上巾。但恨多謬誤。君當恕醉人。  
四句言、麴孽昏迷之誤、而嘆俗人之不知也、

●歸田園居

蒙齋詩林廣記第一、陶淵明、歸田園居詩云、種苗在東臯、苗生滿阡陌、云々、注、此題有六首、此首乃末篇也、  
逕齋閑覽云、文選有江淹擬古三十首、如擬陶淵明歸田園詩云、種禾文選作苗、在東臯、苗生滿阡陌、今此詩乃收在淵明集中、誤也、王直方詩話云、山谷云、東坡在揚州、和飲酒詩、只是如己所作、至惠州、和歸田園六首、乃與淵明無異、

調 少にして通俗の韻なく、性本と丘山を愛す、誤つて落つ塵網の中、一去三十年、羈鳥舊林を戀ひ、池魚故淵を思ふ、荒を開く南野の際、拙に守つて園田に歸る、方宅十餘畝、草屋八九間、榆柳後蔭に蔭し、桃李堂前に羅す、曖曖たる遠人村、依依たる墟里の煙、狗は吠ゆ深巷の中、雞は鳴く桑樹の嶺、戶庭塵の雜るなく、虛空に餘閑あり、久しく樊籠の裏に在つて、復た自然に返るを得たり、

少無適俗韻。性本愛丘山。誤落塵網中。一去三十年。

四句言、始之誤落、所以失其天、

羈鳥戀舊林。池

魚思故淵。開荒南野際。守拙歸園田。

四句言、中之守拙、所以存其天、

方宅十餘畝。草屋八九間。榆柳

蔭後簷。桃李羅堂前。曖曖遠人村。依依墟里烟。狗吠深巷中。雞鳴桑樹頭。戶庭無塵雜。虛室有餘閑。久在樊籠裡。復得反自然。

調 二毫之勢利、不足動心、非自然乎、

某謂、淵明在彭澤、問來使詩云、爾從山中來、早晚發天目、我屋南山下、今生幾叢菊、薔薇葉已抽、秋蘭氣當復、歸去來山中、山中酒應熟、由是則榆柳蓋五柳號有之、桃李亦與蘭菊薔薇同爲陶之手澤也、松之三徑、豆之南山、又種秫、於彭澤之公田者二百五十畝、三十畝種粳、

●夏日李公見訪

李炎爲太子家令、一本云、李家令見訪、

杜 子 美

批點題注云、公自注、李時爲太子家令、鶴曰、按宗室世系表、李公當是李炎、千家題注、彥輔云、一云、李家令見訪、鶴曰、以下貧居類、村場、僻近城南樓、則是在長安城南、今詩題云、李公見訪、一云、李家令見訪、按宗室世系表、唯蔡王房有炎、爲太子家令、讓皇帝房有平、爲太子家令、嗣寧王、然半原去讓皇帝五世、不與公同時、疑是李炎、在天寶十四歲、作公四十四歲、蘇曰、阮元瑜、公子得暇、可過我菊坡、師曰、公子指李白也、鶴曰、

補注子美、李白雖是與聖皇帝九世孫、然公凡與之詩、未嘗稱之爲公子、亦未嘗題曰、李公子、  
調 遠林暑氣薄、公子我過、遊、貧居林場、類、僻近城南之樓、旁舍頗有淳朴、願ふところ亦た求め易し、屋を隔て、西家に問ふ、借問酒ありや否や、牆頭濁醪を過し、席を展べて長流に俯す、清風左右に至り、客意すでに秋に驚く、巢多くして衆鳥歸ひ、葉密にして鳴蟬稠し、若に此物の話しきに遭ふ、孰れ語る吾が虚幽なりと、水花晚色静なり、庶ばくは淹留を充たすに足る、預め恐る罇中盡くるを、更に起つて君が爲に謀る、

遠林暑氣薄。公子過我遊。貧居類村塢。僻近城南樓。

趙注曰、城南樓、長安城南公之所居也、韋杜也、私ニ云フ、貧居ハ杜自ラ言フナリ、李公殿ガ杜ガ貧居ヘ來臨アリテ遊ブ  
ゾ、誠ニ路邊デ出會ヤウナゾ、宮殿樓閣モナク、破屋ノ裡デ、見苦敷ト云フモ中々ゾ、ナマジイニ城南ノ樓ニ近イガ  
ウルサイゾ、

旁舍頗淳朴。所願亦易求。隔屋喚西家。借問有酒不。牆頭過濁醪。

友人見陶侃、家貧、無  
以致、誠、其隣人賢、謂  
侃曰、子門有長者、軒車、何不延之、論當世事、侃曰、貧不能備、醉醪、隣人密於牆頭、度以濁酒、變雜、遂成終日之樂、  
批語云、實事、他人以爲不足、寫

清風左右至。客意已驚秋。

江淹詩、晨慶自遠至、左右芙蓉城、言フハ、客ト飲酒シテ樂ム中ニ、清風吹キ來ルソ、ゾツト寒毛卓豎シタホド、時分  
俄ニ秋カト疑ヒ驚クゾ、

巢多衆鳥鬪。桑密鳴蟬稠。

言フハ、字面ノ如クゾ、底心ハ世間ノ小人ヲ云フゾ、

苦遭此物聒。孰語吾盧幽。

淵明詩、衆鳥欣有託、吾心愛吾廬、言フハ、甫ガ居所ヲ誰カ寂シイトハ云フゾ、鳥鬪ト鳴蟬トテ、市中ヨリ騒ガシク  
聒シイゾ、底心ハ、小人ドモノ世間ノ利名ニ感ゼラレテ、色々耳ニカシマシイコトヲ聞イテ居ルゾ、私ニ云フ、イハシ

ト云フハ口傳ゾ、草堂ニハ謂ニ作リタゾ、

水花晚色靜。

蓮花、一名水花、

庶足充淹留。

殊注曰、古今注、蓮花一名水且、一名水泛、一名水花、言フハ、蓮花モ開イテ晚涼ニ成ツテ、炎熱ヲ醒マシテ、面白キ時  
分ニナリハスル、客人ヲ止メテモ、宜シキ折節ゾ、サレドモ、茲ニ心モトナイコトガ一ツアルゾ、

預恐躡中盡。更起爲君謀。

荷花清潔、猶清人之神思、只  
恐樂有餘而杯不足、故云々、

言フハ、晚涼デ良辰ナレドモ、笑止ナコトガアルゾ、酒ガ足ルマイト思フゾ、座數半ニ立ツテ、ナニトアルゾ、奥ニ  
乗ジテ一段酒モ滋味サウナガ、有ラウカ、アルマイカト思ヒテ、心ガ落チ附カヌホドニ、罇中ヲ窺ヒ見ルゾ、貧杜ナ  
レバ尤ゾ、

贈衛八處士

按唐史拾遺、甫與李白高適衛賓相友善、時賓年最少、號小友、今據詩云、昔別  
君未婚、知贈衛八處士、卽賓也、敘恩勳、道故舊、情義甚重、結末意味尤妙也、

批點題注云、天寶九載、自東都復歸長安、作、公三十九載、千家十九、贈衛八處士、題注、鶴曰、節注、爲公與  
衛賓之詩、爲知二十載、重上君子堂、又云、夜雨剪春韭、新炊間黃粱、則是春月而未詳、何年、及味詩、又非  
亂離後語、若如梁權道編、在天寶十二年、載三、長安內、而按公開元二十三四年間、下第遊齊趙、時至、而是  
年公二十四五載、則衛當愈少、宜未婚、今詩云、二十載重上其堂、則當十二三載、而公自九載歸秦、賦後、只在  
長安、二歲歲有詩、可考、云々、此詩當是天寶九載、作、是年公方四十、鬢髮各已蒼、宜以漢彌衡爲彌處士、蓋亦隱  
者之號、以有處士星而名、又唐有隱逸衛大經、居蒲州、二衛八亦稱處士、或其族子、蒲至華、止百四十里、或是



公在華州時。至其家。岳指華岳而言。若然。二十載無差。

人生相見。動もすれば。參と商との如し。今夕復た何の夕。この燈燭の光を共にす。少壯能く幾時ぞ。鬢髮各すてに蒼。舊を訪へば。半ば鬼となる。驚呼中腸を熱す。焉んぞ知らむや二十載。重ねて君子の堂に上ずむとは。むかし別る君未だ婚せず。兒忽ち行を成す。怡然として父執を敬し。我に問ふ何の方より來ると。問答未だ已むに及ばず。兒女酒漿を羅ね。夜雨春韭を剪り。新炊黄粱を問ふ。主は稱す會面の難さを。一舉十觴を累ね。十觴亦た醉はず。子が故意の長きを感じ。明日山岳を隔つれば。世事兩つながら茫々。

人生不相見。動如參與商。

左傳。昭元年。子產曰。昔高辛氏有二子。伯曰閼伯。季曰實沈。居於曠林。不相能也。帝遷閼伯于商。主辰。爲商星。遷實沈於大夏。主參。爲晉星。二星不相

得。各居一方。人之離別。不得聚會者似之。言フハ、人生ノ離別シテ相見ザルハ、譬ヘバ、參星ト商星トノ如キゾ、兄弟ノ中ノ惡イガ如クゾ、昔高辛氏有二子。曰。閼伯。曰。實沈。居於曠林。不相能也。日尋干戈。以相征討。後帝遷閼伯于商丘。主辰。辰。大火也。堯ノ時ニ商丘ト云フ處ヘ遷シテ星ヲ祀ラシム、南方火德是レナリ、商丘ハ即チ今ノ宋地ト云フゾ、又實沈ヲ大夏ニ遷シテ、參星ヲ主ラシム、大夏ハ今ノ晉陽縣ナリ、二星不相得。各盡一方。言フハ、出會モナク、各別ノ地ニ居テ、マ井リ會セヌゾ、衛賓ト杜市ト久シク不會ナルコト、參商ノ如キゾ、

今夕復何夕。共此燈燭光。

言フハ、今夕ハ何トシタタゾ、久シウシテ燈ニ對シ、床ヲ同ジウシテ舊遊ヲ話スゾ、

少壯能幾時。

武帝秋風辭、少壯幾時兮奈老何、

鬢髮各已蒼。訪舊半爲鬼。驚呼熱中腸。

孟子曰、不得於君、則熱中、注云、心熱恐懼也、洙曰、魏文帝與吳質書、昔年疾疫、親故多離、其災、徐陳應對、一時俱逝、痛可言耶、昔日遊處、謂百年已分、可長共相保、何數年之間、零落略盡、言レ之傷レ心、頃撰其遺文、都爲一集、觀其姓名、已爲鬼錄、追思昔遊、猶在心目、而此諸子化爲糞壤、可復道哉、

焉知二十年。重上君子堂。

王仲宣詩、高會君子堂、

昔別君未婚。兒女忽成行。怡然敬父執。問我來何方。

眞方云、曲禮、見父之執、不謂之進、不謂之退、不謂之對、此孝子之行也、注云、父之執、父同志之友也、謂之命之敬之、同於父、

問答未及已。兒女羅酒漿。

郭育見戴逵、使羅酒漿、兒女進果、

夜雨剪春韭。

郭林宗、見友人、夜雨剪春韭、

新炊問黃

梁。

今洛酒人皆效之、薛曰、右按南史、周顒云、春初早韭、希曰、禮記玉制、庶人春薦、韭、洙曰、陶隱居曰、黃粱、木出青冀、穗大毛長、穀米俱蠶、於白梁、食之、比他穀、最益脾、

主稱會面難。一舉累十觴。

千家注云、十一作千、

十觴亦不醉。感子故意長。

選詩、英雄孔文學、百觴亦不醉、

曹子建詩、主稱千金壽、古詩、會面安可知、張平子賦、主稱露未晞、千家注、梅曰、李牧曰、吳將軍飲數十觴、未見有醉容、

明日隔山岳、世事兩茫茫、

●佳

人

詩簡兮、刺不用賢也、彼美人兮西方之人兮、言賢者有佳美之德、此詩亦以佳人喻賢者、蓋感傷關中亂後、老成凋喪、而所用皆新進少年也、

此篇、杜甫暗用離騷山鬼篇、言賢人隱空谷、今有一佳人爲夫所棄、幽居于空谷、蓋言失所也、批語云、陽關之後、此語爲暢、●千家八、佳人、題注、鶴云、此詩乾元二年在秦州、甫自謂也、亦以傷關中亂後、老成凋喪也、●草堂題注云、君之於臣、亦猶夫之於婦也、君用新進少年、必至於疎棄舊臣、夫淫於新婚、必至於離絕舊室、此必然之理也、私云、又題注可并按、

調題 絕代佳人あり、幽居空谷に在り、自ら云ふ其家の子、零落草木に依る、關中むかし喪亂、兄弟殺戮に遭ふ、官高きも何ぞ論するに足らむ、骨肉を收むるを得ず、世情衰歇を感み、萬事轉燭に隨ふ、夫婿輕薄の兒、新人美玉の如し、今昔なほ時を知る、鶯鶯獨り宿せず、但だ見る新人の笑、那んぞ聞かむ舊人の哭、山に在つては泉水清く、山に出でては泉水濁る、侍婢珠を賣つて廻る、蕭々いて茅屋を補ふ、花を摘んで髪に挿ます、栢を採つて動もすれば柳に盈つ、天寒翠袖薄し、日暮修竹に倚る、

絕代有佳人、幽居在空谷、自云良家子、

趙充國傳云、郡良家子、零落依草木、

詩曰、皎皎白駒、在彼空谷、●洙曰、李延年歌云、北方有佳人、絕代而特立、●石季倫王昭君詞、匈奴盛請昏於漢、元帝以、後宮良家子配焉、●通鑑綱目第六、漢元帝竟寧元年戊子春正月、匈奴單于來、注云、匈奴呼韓邪單于入朝、自言願婚漢

氏、以自親、帝以後宮良家子王嬙字昭君、賜之、單于驩喜、集覽、良家子、如淳曰、良家子非醫巫商賈百工也、阮嗣宗詩、零落從此始、魏文帝書曰、數年之間、零落殆盡、

關中昔喪敗、兄弟遭殺戮、

敗、批語作亂、千家作敗、關中即長安、謂經祿山之亂也、

官高何足論、不得收骨肉、

蘇曰、崔弘磔於市、骨肉不得收葬、希曰、前漢書韓延壽傳、民有骨肉爭訟、南史王懿傳、北土重同姓、謂之骨肉、有違來相投者、莫不竭力營贖、續漢書、冬十月、骨肉合飲食於祖廟、

世情惡衰歇、萬事隨轉燭、

徐邈曰、萬事興衰、轉燭相似、何必計較、草注云、言華落色衰也、世態不常也、燭影隨風轉、而無定也、

夫婿輕薄兒、新人美如玉、

沈休文詩、長安輕薄兒、新人新進少年也、洙曰、二云已如玉、古詩、燕趙多佳人、美者顏如玉、

合昏尙知時、

本草、合歡即夜合也、一名合昏、其葉至昏而即合、

鴛鴦不獨宿、

鴛鴦雌雄未嘗相離、人謂之匹鳥、●此佳人自怨之辭、言三物之有合有偶、而人之不若也、

天覺曰、周處風土記云、合昏槿也、孝祥曰、陸倕刻漏銘曰、合昏暮捲、芙蓉朝開、●洙曰、詩、鴛鴦于飛、鄭氏、婚禮調文贊曰、鴛鴦鳥、雌雄相類、飛止相隨、趙曰、崔豹古今注曰、鴛鴦鳥類也、雌雄未嘗相離、人得其一、一思而死、故謂之匹鳥、●草

堂注云、余謂此佳人自怨之辭、合昏之木、鴛鴦之鳥、尚且知時、戀匹、可、以、人、而、不、如、之、乎、所、以、深、刺、夫、婿、之、輕、薄、者、也、

但見新人笑。那聞舊人哭。

李白亦云、新人如花雖可寵、舊人似玉猶來重、舊人哭、ハ、凋、喪、老、成、ヲ、云、フ、ゾ、

在山泉水清。出山泉水濁。

情因所習而遷移、猶水因所遇而清濁、此亦佳入念夫之辭也、

草堂注、舊室已出也、毛詩十三、小雅四月篇云、相彼泉水、載清載濁、箋云、相、視、也、我、視、彼、泉、水、之、流、一、則、清、一、則、濁、刺、諸、侯、並、爲、惡、會、無、一、善、也、

侍婢賣珠廻。牽蘿補茅屋。

見其自守之操、

草注云、牽、蘿、所、以、禦、風、雨、也、草注云、侍、一、作、待、賣、珠、所、以、供、朝、夕、

摘花不挿髮。

亦詩所謂、豈無膏沐、誰適爲容之意、

采栢動盈掬。

草注云、髮、一、作、髻、又、作、髻、言、無、心、於、爲、容、飾、也、草注云、言、秉、心、專、也、詩、終、朝、采、綠、不、盈、掬、草注云、爲、夫、所、棄、誓、以、節、自、守、始、終、不、變、亦、猶、賢、人、君、子、雖、見、逐、於、君、而、吾、操、守、終、無、改、易、

天寒翠袖薄。日暮倚修竹。

天色已寒、而翠袖尚薄、喻、時、之、亂、離、而、君、子、在、外、也、栢、與、竹、歲、寒、不、改、其、操、采、栢、倚、竹、則、所、思、遠、矣、猶、君、子、見、逐、於、君、操、守、不、易、所、以、爲、忠、臣、貞、婦、

批語云、似悲似訴、自誓持慷慨、修潔端麗、畫所不能、如論所不能及、

送諸葛覺往隨州讀書

韓退之

韓文、此篇題注、韓曰、諸葛覺、或云、卽濟南、後去、僧爲儒、公逸詩、有、澹、師、解、睡、二、首、爲、此、人、一、作、孫、曰、此、詩、所、謂、

鄴侯、則言、宰相李泌也、泌字、長源、正元中爲、相、封、鄴、縣、侯、泌之子繁、時刺、隨州、後以、亳州、刺史、賜、死、京、兆、府、

唐書、李泌、字、長源、七歲、知、爲、文、玄宗、開、元、十、六、年、召、下、能、言、佛、道、孔、子、者、相、答、難、禁、中、有、三、員、假、者、九、歲、升、座、詞、

辯、注、射、坐、人、皆、屈、帝、異、之、因、問、董、子、豈、有、類、若、者、假、跪、奏、臣、舅、子、李、泌、帝、卽、馳、召、之、肅、宗、卽、位、靈、武、物、色、求、

訪、會、泌、亦、自、至、已、謁、見、陳、天、下、成、敗、事、帝、悅、欲、授、以、官、固、辭、願、以、客、從、入、議、國、事、出、陪、輿、章、衆、指、曰、著、

黃、老、聖、人、著、白、者、山、人、

鄴侯家多書。架插三萬軸。一一懸牙籤。新若手未觸。

唐宰相李泌、封鄴侯、其子繁、刺隨州、西京雜記、祕閣圖書、皆表以牙籤、

韓文七、鄴、音、業、注、韓、曰、唐、經、籍、志、甲、乙、丙、丁、四、部、書、各、爲、一、庫、御、書、經、庫、紅、牙、籤、史、書、庫、綠、牙、籤、子、庫、碧、牙、籤、集、庫、白、牙、

籤、以、別、之、

爲人強記覽。

孔叢子、博聞強記、

過眼不再讀。偉哉群聖書。磊落載其腹。行年逾五十。出守數

已六。李繁、年過五十二已六、爲三太守矣。

洪曰、公處州孔子廟碑、爲繁作也、而傳不言其爲處州、所載特、隨卷二州、而喜又在公亡後、爲之、此詩言、出守數已六、而白樂天有繁刺吉州及遂州、制、即知史氏所遺略多矣。

京邑有舊廬。不容久食宿。臺閣多官員。無地寄一足。我雖官在朝。

氣勢日局縮。屢爲丞相言。雖懇不見錄。送行過澧水。東望不轉目。今

子從之遊。學問得所欲。

言今子諸葛覺、韓曰、選沈休文詩、所願從之遊、寸心於此足、

入海觀龍魚。矯翮逐黃鵠。

補注、龍魚黃鵠、以喻繁於學問志其大者、

勉爲新詩章。月寄三四幅。

不及抄處也。

●司馬溫公獨樂園

公居洛、於國子監之側、得故營地、創獨樂園、

元城先生語錄云、公居洛、於國子監之側、得故營地、創獨樂園、自傷不得與衆同也、以當時君子、自比伊周孔孟、公乃以種竹澆花、自比唐晉間人、以救其弊也、胡荅溪云、元城所謂當時君子、自比伊周孔孟者、意謂金陵也、顏題注曰、司馬文正公、字君實、其先河內人、後家陝州夏縣凍水鄉、中進士甲科、云々、閑居十有五年、自號迂叟、當熙寧三四年、始家洛、六年買田二十畝於尊賢坊北、闢以爲園、命之曰獨樂園、然園樂小、不可與他園班、其曰讀書堂、纔數椽屋、其他亭軒大小、臺高不過尋丈、所以爲人欽慕者、不在於園、爾、公自退歸、絕口不語天下事、天下望爲相、雖四夷亦知敬仰、此詩末章云、撫掌笑先生、年來效嗜啞、蓋東坡猶望公極言以拯時政之失、至熙寧七年、帝以旱蝗求直言、公讀詔泣下、乃陳病、民之尤者六、竟亦不用、修資治通鑑成、加資政殿學士、哲宗即位、寬仁垂簾、入臨京師、民擁其馬、至不得行、民遮道呼曰、公無歸洛、留相天子、洛百姓衛士、見公皆以手加額、遂起爲門下侍郎、拜左僕射、爲政一年云、元祐元年、薨于位、六十八、子康、

青山屋上在在り、流水屋下在在り、中に五畝の園あり、花竹秀にして野、花香杖屨を襲ふ、竹色邊壁を侵す、樽酒餘春を樂み、茶局長夏を消す、洛陽古しへ士多し、風俗猶ほ雅のごとし、先生臥して出でず、冠蓋洛社を傾く、衆と樂むと云ふと雖も、中に獨樂の者あり、才全くして徳形はれず、貴ぶところは我知る寡し、先生ひとり何事ぞ、四海閑治を望む、兒童君實を稱し、走卒司馬を識る、これを持って安にか歸らむと欲する、遺物我を捨てず、名聲我が輩を逐ふ、この病天の結するところ、掌を撫して先生を笑ふ、年來嗜啞に效ふ、

青山在屋上。流水在屋下。

柳子厚蓋屋縣食堂記、高山在前、流水在下、可以仰俯、可以宴樂、

石季倫思歸引序、古木幾於萬株、流水周於舍下、

中有五畝園。花竹秀而野。

獨樂園有三花菴、菴有碧牽牛花、詳見邵康節擊壤集。

花香襲杖屨。竹色侵盞尊。樽酒樂餘春。棊局消長夏。

古今詩話云、東坡作獨樂園詩、只從頭四句、已都說盡、便可入圖畫矣、胡茗溪云、大率東坡每詠景物、於長篇中、首四句、便能寫盡、語仍快健、如廬山開先瀨玉亭、首句云、高巖下赤白、深谷來悲風、擊開青玉峽、飛出兩白龍、他之類此者、甚衆。

洛陽古多士。風俗猶爾雅。先生臥不出。冠蓋傾洛社。雖云與衆樂。中有獨樂者。才全德不形。先生獨何事。四海望陶冶。兒童誦君實。走卒知司馬。

詩林廣記第四、此詩注云、詩案云、司馬光在西京、嘗一園、名獨樂園、作詩寄之、此詩言、四海望光、執政陶治天下、以譏見任執政不得其人、又言、兒童走卒皆知其姓名、終當進用、緣光會言新法不便、某亦會言新法不便、既言終當進用、光意亦譏朝廷新法不便、終用光改變此法也、又言、光却瘖然不言、意望光依然上言、攻擊新法也。

持此欲安歸。

西漢通說、韓信曰、足下歸楚、楚人不信、歸漢、漢人震恐、足下欲持是安歸乎。

造物不我捨。

上ノ句ノ心、注ニ之ヲ載ス、下ノ句ノ心、聖代ニ棄物ナシヤホドニ、我ヲモ棄テラレバセマイカト云フ底心ゾ、造物ハ天ゾ、坡ガ温公ヲ云フヤウデ、自己ヲ云フタゾ、

名聲逐我輩。此病天所赭。

堯卿注、後漢袁紹傳曰、坐作聲價名聲、常屬我輩人也、然此乃人之一病、若秦始皇赭其山上者耳、劉批云、古刑衣赭衣、若莊子天刑之耳、用始皇赭山、非是、趙曰、赭衣衣赭乎、蓋言顯著之。

撫掌笑先生。年來效暗啞。

按公詩案招、此言四詩海蒼生望司馬執政、護相非其人、新法不便也。

コノ詩ノ注ニ招トアリ、坡ガ詩注ニハ指トナス、按ズルニ、公試案ニ招ト云々、公トハ温公ゾ、詩林ニモ、漁隱ニモ皆コレヲ載ス、詩案タゞ招字ナシ、坡詩注ニ、或ハ指字ニ作ル、孟子注云、章指言云々、茲ヲ是ノ如ク見ルベキ歟、言フハ、温公不斷言ハズ、暗啞ノ如クニシテ、天下ノ是非ヲ云ハヌゾ、ソレヲ、世間ノ知ラザルノ者ハ笑フゾ、先生ハ司馬ゾ、無言テ居テ、一度天下ノ宰相ヲ持ツテ、蒼生ノ爲ニ人參甘草ト成ツテ新法ヲ改メヨゾ、

上韋左相二十韻

左相韋見素也。

杜子美

杜詩題注、鶴曰、韋見素、襲父爵、從明皇入蜀、爲左相、此詩乃初拜同中書門下平章事、時授之、題或後來追書、天寶十三載、在長安、見批、千家十九題注、彦輔曰、按韋見素傳、見素嘗爲丞相、子周鄂、位至給事中、孫顯爲尚書右丞也、鮑曰、韋見素、襲父爵彭城公、十三載、拜武部尚書、從帝入蜀、詔兼右相、鶴曰、按史天寶十五載七月、明皇幸蜀、次巴西郡、以韋見素爲右相、是時天下危亂、不應詩云、八荒開壽域、二氣轉洪鈞、當是天寶十三載、見素同中書門下平章事、授之、故詩云、韋賢初相漢、今題曰、右相乃後來編寫之誤、梁權道編在十一載、是年見素未同平章事、況天寶十五載、見素爲右相、時公旋陷賊營、無容再投以詩、如廟堂知至理、風

俗盡還淳、又豈軍與人主播遷時語、唐書、韋湊、字彥宗、京兆人、祖叔諧、貞觀中、爲庫部郎中、與弟吏部郎中叔謙、兄主簿郎中季武、同省、時號三列宿、湊、子韋見素、字會微、質性仁厚、及進士第、累遷文部侍郎、云云、下意聽納、人多德之、寶應元年、宗卒、諡忠正、子諤、筆談曰、詩第二字側入謂之正格、如鳳曆軒轅紀之類、第二字平入謂之偏格、如下四更山吐月之類、唐名輩、多用正格、杜詩偏格十無一二、

鳳曆軒轅紀、龍飛四十春、八荒壽域を開き、一氣洪鈞を轉ず、霖雨賢佐を思ひ、丹生志臣を憶ふ、圖に應じて駿馬を求め代を驚かして麒麟を得たり、沙汰江河濁り、側和鼎新なり、韋賢はじめ漢に相たり、范叔すでに秦に歸り、盛業今此の如し、傳經もとより絶倫、豫章深く地を出で、滄海潤くして津なし、北斗喉舌を司り、東方樞紐を領す、衝を持って漢鑿を留め、履を聽して星辰を上る、獨秀才超古、餘波德隣を照らす、聰明管轄に過ぎ、尺牘陳運を倒す、豈に是れ池中の物、由來席上の珍、廟堂至理を知り、風俗盡く還た醇、才傑ともに登用、愚蒙但だ暖論、長卿多病久し、子夏索居貧、首を回らして流俗を驅り、生涯衆人に似たり、巫咸問ふべからず、鄒魯身を容る、莫れ、感激時將に晚からむとす、蒼茫與神あり、公の爲に此曲を歌ふ、滿淚衣巾に在り、

鳳曆軒轅紀

鳳鳥知天時、故以名曆、正之官、軒轅黃帝名、

洙曰、昭十七年傳、鄭子曰、我高祖少皞摯之立位也、鳳鳥適至、故紀於官、爲鳥師、而鳥名、鳳鳥氏、曆正也、注、鳳鳥知天時、故以鳥名曆正之官、史記、軒轅黃帝名、

龍飛四十春

龍飛トハ、洙曰、自玄宗即位至天寶十一載、四十年十三載、見素爲同中書門下平章事、

八荒開壽域。一氣轉洪鈞。

霖雨思賢佐。丹青憶老臣。

洙曰、荒、大也、八方也、殿、民庶於仁壽之域、豈曰、列子遠在八荒之外、前漢王吉疏、殿一世之民、躋之仁壽之域、

般、高宗命傳、說曰、若歲早用、汝作霖雨、洙曰、趙充國以功德與霍光等、列畫未央宮、成帝時、西羌嘗有警、上思將師之臣、追美充國、廼召揚雄、即充國圖像、而頌之、後漢胡廣傳、靈帝思感舊臣、以圖畫、廣及太尉黃於省内、詔議、即蔡邕爲其頌、

應圖求駿馬。驚代得麒麟。

言見素以才見用也、

草注云、此謂像父而求子、果得見素、洙曰、梅福傳、以三代之法、取當世之士、猶以伯樂之圖、求麒麟於市、而不可得、亦已明矣、趙曰、此言見素以才見用也、魏曹植、獻文帝馬表曰、臣於先帝世、以大宛紫駢一疋、形法應圖、舊注引梅福傳、非于此也、批語本注云、應圖此謂見素父湊也、千家不取此說也、

沙汰江河濁。調和鼎鼐新。

洙曰、言爲吏部、日也、見素爲吏部之時也、北史新羅爲、尙書郎、會沙汰、郎官雄與羊琛等八人、俱見留、兼乃代切、釋器云、鼎、絕大者謂之、說命、若作和美、用汝爲鹽梅、見素必可爲和調也、

韋賢初相漢。

韋賢、字長孺、授昭帝、詩、宣宗用之爲相、

范叔已歸秦。

史記、范雎字叔、入秦、昭王大說、拜秦相、見

韋賢父子、皆以經術、相繼爲漢相也、唐三代高宗永淳初、見素之父湊爲相、見本傳、此句、湊之先祖仕隋、遂歸唐室之謂也、洙曰、韋賢兼通禮尙書、少子玄成、復以明經、仕至丞相、故鄭魯諺曰、遺子黃金滿、不如教子一經、史記

范唯、字叔、更名、曰張祿、王稽載入秦、昭王大悅、拜唯爲客卿、封應侯、相秦、范叔一寒、云々、魏使須賈聘秦、敝衣間步、往見之、賈驚曰、范叔固無恙乎、留坐飲食、曰、范叔一寒如此哉、取一綈袍贈之、遂與賈御至門下、曰、無范叔、鄉者吾相張君也、

盛業今如此、傳經固絕倫、豫章深出地、

言其材之良、 滄海闊無津、言其量之廣、

涿曰、豫章木良林也、滄海、百谷之所歸也、其淵不可涸、津、言其材之良、

北斗司喉舌、

李固傳、陛下之有尚書、猶天之有北斗也、北斗爲天之喉舌、尚書亦爲陛下喉舌、

東方領搢紳、

時公爲丞相、率百官、故云領搢紳、

涿曰、李固傳、陛下之有尚書、猶天之有北斗也、北斗爲天之喉舌、尚書亦爲陛下喉舌、斗斟酌元氣、運平四時、尚書出納王命、千家注、涿曰、郊祀志、搢紳者弗道、李奇曰、搢紳、搢於紳、紳、大帶也、臣瓚曰、緇、赤白也、紳、大帶也、師古曰、李云、搢紳是也、紳、木作搢、搢、笏於大帶之間、與革之間、耳、非、搢於大帶也、或作薦紳者、亦謂薦笏於紳帶之間、其義同、コノ注ハ非也ト云フゾ、見素方丞相ノ時トス、誤ナリ、天寶十三載、同中書門下平章事タル時ヲ指ス、是ナリト云フゾ、大帶ト紳トハ事林廣記ニ見ユ、

持衡留漢鑿、聽履上星辰、

鄭崇、漢哀帝時、爲尚書僕射、每曳三章履、上笑曰、我識鄭尚書履聲、見素、爲吏部侍郎、留漢鑿、言其銓序平允、上星辰、言其親帝之旁、

草注云、見素、天寶五年爲吏部侍郎平判、千家注云、見素時兼兵部尚書、故云聽履上星辰、衡、漢鑿、官人ノ帶ノ飾、漢ノ鄭崇ガ尚書デ居タ時、每一哀帝ヲ諫ムル時ハ、必ズ革履ヲ曳イテ出仕スルゾ、上笑ツテ、我、鄭崇ノ履聲ヲ識ルト云フゾ、

獨步才超古、餘波德照隣、

王粲、字仲宣、曹植曰、仲宣獨步於漢南、言フハ、子建八斗才、仲宣獨步ト云ハレタハ、イカメシイコトゾ、涿曰、一云、餘波照北隣、左傳僖公二十三年、波及晉國、君之餘也、君ノ恩澤ガ他ノ國マデ及ブト云フ、德ガ餘リテ、四海濕フ心ゾ、

聰明過管輅、

天寶十五載十月丙申、有星犯昴、見素言於肅宗曰、昴者胡也、祿山將死、昴金忌火、行當火位、昴之昏、乃其時也、及祿山死、日月皆不差、魏管輅善天文地理、今見素所言如此、其聰明過於管輅遠矣、

尺牘倒陳遵、

漢陳遵、善於文辭、與人尺牘、皆藏去爲榮、

管輅、字公明、明周易、無不精、微注、魏管輅、善天文地理、今見素モ、日月星辰ノ行ルヤウスヲ聰明ニ能ク知ツタホドニ、公明ヨリモ過クト云フゾ、天寶十五載八月、肅宗改元至德、十月丙申、有星犯昴、見素云、祿山將死、帝曰、日月可知乎、素曰、福應在德、禍應在刑、少シモ違ハヌゾ、コノ外、注ニ之ヲ載ス、前漢ノ陳遵、字ハ孟公、哀帝ノ朝、嘉威侯ニ封ゼラレ、文辭ニ善キ人ゾ、尺牘トハ書簡ゾ、一尺ノ札ヲ云フゾ、ソノ内ニ文辭ヲツマヤカニ書シテ人ニ與フルゾ、十八史ニ、漢光武傳云、手書賜方國、一札十行、細書成文ト、帝王ノ手書サヘ細字ニアソバヌニ、臣トシテ大字ニ書クハ狼藉ゾ、尺牘ニ文辭ヲ書キ藏ムルコト、尤モ書札ノ法ゾ、草注云、公以陳遵爲言、則知見素必善書札、惜乎、史氏不書於傳、因公詩見之、倒猶傾服也、倒ハ、サカシマデハナイゾ、傾キ服スルヲ云フゾトナリ、

豈是池中物、

晉劉元海傳、蛟龍得雲雨、非復池中物、

三國志内、吳志、周瑜、字公瑾、劉備領荆州牧、備請見權、瑜上疏曰、劉備以梟雄之姿、而有關羽張飛熊虎之將、非久屈爲人用者、愚謂大計宜從備置吳、感爲築宮室、多其美女玩好、以娛其耳目、分此二人、各置一方、使如瑜者得挾與攻戰、大事可定、今猥割土地、以資業之衆、此三人俱在疆場、恐蛟龍得雲雨、終非池中物也、(三國志、晉陳壽編之) 晉書、劉元晦、匈奴人名、犯高祖廟諱、故稱其字焉、祖漢高祖以宗女爲公主、以表冒頓、約爲兄弟、故其子孫遂冒姓劉氏、晉書、唐太宗所編也、

由來席上珍

記、儒有席上之珍、以待聘、

禮記儒行篇、哀公命席、孔子侍曰、儒有席上之珍、以待聘、夙夜強學、以待問、懷忠信、以待舉、力行以待取、其自立有如此者、新注云、公於是、命設席、使孔子坐侍、而言之、呂氏曰、席上之珍、自貴而待賈者、儒者講學於問燕、從容乎席上、而知所以自貴、以待天下之用、強學以待問、懷忠信以待舉、力行以待取、皆我自立而有待也、德之可貴者、人必禮之、學之博者、人必問之、忠信可任者、人必舉之、力行可使者、人必取之、故君子之用於天下、有所待而不求焉、

廟堂知至理。風俗盡還淳。

此言宰相之能事畢矣、

言フハ、韋公ハ才アリテ、廟堂ニ進退シテ、上古ノ風俗ヲ能ク治メラル、淳素ニシテ、古シヘノ風ニ還ルヲ云フゾ、コノ句決前ゾ、

才傑俱登用。愚蒙但隱淪。

子美自謂也、

此一聯、決然生後之段、上句決然、下句生後也、尙書堯典、若時登庸、注庸用也、韋注云、自謂病肺不堪求仕、但隱淪山谷、非若韋公之才傑、登用于廟堂、能使風俗追還復古之治也、

長卿多病久。

司馬相如、字長卿、常有消渴病、

子夏素居貧。

家語、離群索居、子美以二人自比、

言フハ、長卿ハ相如ゾ、子夏ハ孔子ノ弟子ゾ、杜甫自ラコノ二人ニ比シテ云フゾ、相如病消渴、稱疾閒居、不慕官爵、

回首驅流俗。生涯似衆人。巫咸不可問。

列子、有神巫、自齊來、命曰季咸、知人生死存亡禍福壽夭、

鄒魯莫容身。

莊子、孔子再

逐於魯、削跡於衛、窮於齊、困於陳、蔡、不容身於天下者、豈足貴耶、

鄒モ魯國ノ内ゾ、孔子、魯國ヲ去ツテ、衛齊陳蔡ノ國ヲ遍歴シマワラレタゾ、注ニ莊子ヲ引イテ之ヲ載ス、

感激時將晚。蒼茫與有神。

時將晚、揚衰老也、蒼茫、曠遠貌、言興之超遠也、

言フハ、感時花濺涙ト云フ心持ナリ、時代ノ興ルモ晚ルモ、定マリタルコトゾ、天運ノ極アリ、我モ、ハヤ老杜ニナリテアルゾ、天下ヲ救ウテ盛道ニ政ヲ爲シ、仁德ヲ行フベキコトモ成リガタイト云フゾ、

爲公歌此曲。涕淚在衣巾。

韋公ノ先祖ヨリ、代々高位高官ニ舉ゲラレ、或ハ宰相ト作り、全盛ナリシ事トモ今ノ世ニ引キ合セテ思ヒ出ヅレバ涙ハ巾ヲ沾スト、



●寄李白

白坐繫溇陽獄、宋若思釋囚、辟爲參謀、  
乾元元年、長流夜郎、子美寄此詩、

批點六、寄李白二十韻、題注云、古今詩話云、老杜贈太白二十韻、備敘白事、盡得其故迹、矣、  
千家十六、寄李白二十韻、題注、鶴曰、按白至德元年、坐繫溇陽獄、至德二載、以宋若思、將兵赴河南道、過溇陽、  
釋囚、辟爲參謀、乾元元年、長流夜郎、而此詩云、五嶺炎蒸地、三危放逐臣、則是在長流之後、從舊次、當在乾  
元二年秦州、作也、

訓讀 昔年狂客あり、爾を謫仙人と號す、筆落ちて風雨を驚かし、詩成つて鬼神を泣かしむ、聲名これより大、泪没一朝伸ぶ、文  
彩孫逄を承け、流傳必ず絶倫、龍舟棹を移す晚く、獸錦袍を奪ふ新なり、白日深殿に來り、青雲後塵に縋つ、歸を乞うて優詔許し  
我に遇うて宿心親む、未だ負かず幽棲の志、兼れて全うす寵辱の身、劇野逸を憐み、酒を嗜んで天真を見る、酔うて舞ふ梁園の  
夕、行夜泗水の春、才高くして心展びず、道屈して善隣なし、處士稱衡の俊、諸生原憲の貧、稻梁周未だ足らず、蕙蕪謗何ぞ煩な  
る、五嶺炎蒸の地、三危放逐の臣、幾年か鷓鴣に遭ひ、獨泣麒麟に向ふ、蘇武先づ漢に歸り、黃公豈に秦に事へむや、楚廷體を辭  
するの日、梁獄書か上るの辰、すでに用ふ當時の泣、誰か此義を將て陳せむ、老吟秋月の下、病起暮江の濱、怪むなけれ恩波隔つ  
を、槎に乗じて與に津を問ふ、

昔年有狂客。號爾謫仙人。

賀知章、自號四明狂  
客、呼李白爲謫仙人、

李白ヲ謫仙人ト云フタハ賀知章ガ云ツタゾ、賀知章、字季真、陸象先曰、季真清談風流、吾一日不見、鄙吝生矣、唐開元  
中、遷禮侍兼賢學士、天寶中、乞歸田里、爲道士、詔許之、以宅爲千秋觀、而居、賜鏡湖剡川一曲、嘗見李白、呼爲  
謫仙人、以金龜換酒、與共飲、狂客トハ賀知章ゾ、自ラ四明狂客ト號スルナリ、

筆落驚風雨。詩成泣鬼神。

千家注、驚作聞、驚風雨、言敏速、泣感鬼神、蘇曰、李白墓銘云、公在長安、時秘書監賀知章、吟公烏栖曲云、姑蘇臺  
上烏栖時、吳王宮裏醉西施、吳歌楚舞歡未畢、青山欲欲半邊日、銀箭金壺漏水多、起看秋月墜江波、東方漸高奈樂何  
篇注、齊賢曰、太平廣記曰、賀知章見太白烏栖曲、嘆賞曰、此詩可泣鬼神、

聲名從此大。泪没一朝伸。文彩承殊渥。流傳必絶倫。龍舟移棹晚。

玄宗泛白蓮池、召李白  
被酒、命高力士扶登

獸錦奪袍新。

白作樂章、  
帝賜錦袍、

言フハ、獸錦トハ、蓋シ錦ニ獸文ヲ織リ成スナリ、

白日來深殿。青雲滿後塵。

詔徵白、置子金鑾殿、奏頌一篇、有詔供奉翰林、士大夫多居其後、蓋白驛遷也、

乞歸優詔許。

白爲高力士所請、懇求、  
還山、帝賜金放還、

高力士脱靴、吐以遺恨、請白、白自知不爲親近所容、懇求還山、

遇我宿心親。未負幽棲志。

嵇康幽憤詩云、內負宿心、外惡良朋、向云、宿心、本心也、唐第四代則天后、聖曆二年己亥、李白生、唐第六代睿宗先天壬子

杜子美生、李白長於子美、一十三歲、趙曰、公詩集中、屢與、白詩、交情可見矣、李白、唐第八代肅宗寶應元年壬寅卒、六十四歲、子美、唐第九代代宗大曆五年庚戌卒、五十九歲也、

兼全寵辱身。劇談憐野逸。

白初蒙寵眷、今被譏辱、是故欲隱以全其身也、劇甚也、

嗜酒見天真。

洙曰、嗜好也、揚雄家貧嗜酒也、

醉舞梁園夜。

太白集、有、梁園醉歌、汴州、即梁園故地、謝惠連雪賦、梁王不悅、遊於兔園、是也、白集七、梁園吟云、我浮黃雲去、京闕、掛席欲進波連山、齊賢注曰、漢梁王都唯陽、北界太山、西至高陽、四十餘城、孝王、梁孝王、文帝子、三王中也、築、東苑、方三百里、廣、唯陽城、七十里、大治宮室、爲復道、自宮連屬於平臺、三十餘、晉灼曰、在城中、東西角有、修中園、九域志、南京唯陽郡治、宋城縣、有、平臺、復宮三十六、土贊注曰、漢書注、如淳曰、平臺在、大梁、東北、離宮所在也、西京雜記、梁孝王、好營宮室苑囿之樂、作、曜華之宮、築、兔園、園中有、百靈山、山有、膚寸石、落猿巖、桐龍岫、又有、雁池、池間有、鶴洲、鳧渚、其宮觀相連、延亙數十里、奇果異樹、瑰禽怪獸、畢備、王曰與宮人賓客、弋釣其中、此梁園名之所由始也、

行歌泗水春。

批點注、公與李白、嘗同遊、山東、故云、行歌泗水春、洙曰、孔子行歌於泗水之上、泗水、今、泗濱是也、

才高心不展。道屈善無隣。

此一聯指、白言也、德必有隣之反也、

處士禰衡俊。

禰衡、字、正平、爲平原處士、孔融上疏薦禰衡曰、處士禰衡、年二十四、英才卓犖、

諸生原憲貧。

孔門弟原憲、至貧、二事比、白之有才而無祿也、

莊子、原憲曰、憲貧也、非病也、某謂、杜自比則云、難、甘原憲貧、比、白則云、諸生原憲貧、史記仲尼弟子傳、原憲在、草澤中、子貢相、而結、駟連、排、藜藿、入、窮閭、過、謝、原憲、憲攝、敝衣冠、見、子貢、子貢恥之、曰、豈病乎、憲曰、吾聞、之、無、財者謂之貧、學、道而不能、行謂之病、若、憲貧也、非病也、子貢慙而去、

稻梁求未足。蕙苴謗何頻。

馬援征、交趾、載、蕙苴、還、人謗、之、以爲、明珠、喻、白之遇、讒也、

洙曰、廣絕交論云、分、鴻鶩之稻粱、本草、蕙苴、久服、輕、身益、氣、言、フハ、後漢ノ馬援交趾征伐ノ後、蕙苴ヲ車ニ載セ來ル、消渴ヲ病ムホドニ、苴ハ其藥ナレバ、取ツテ來タゾ、人之ヲ謗リテ、明珠大貝ノ寶ヲ載セ來ルト讒言シタゾ、白モ力士ガ讒ニ逢フタニ喻ヘテ云フタゾ、

五嶺炎蒸地。三危放逐臣。

大庾、始安、臨賀、桂陽、揭陽、是爲、五嶺、白長、流、夜、郎、五嶺、三危、與、夜、郎、接、境、



洙曰、博物志、有居海者、八月乘槎而上天、犯牽牛織女、孔子使子路問津焉、言フハ、白ハ才ノ器ナルホドニ、思波ヲ受クベキニ、諧ニ遇ヒ、サモナイト、自ラ哀ラシク、我が身ニ比シテ云フダゾ、

●投贈哥舒開府二十韻

杜子美

千家五題注、鄭曰、名翰、其先蓋突厥施酋長哥舒部之裔、鶴曰、天寶六載十月、帝在華清宮、召哥舒翰、見、十一月辛卯、以翰判西平太守、充隴右節度使、八載命攻石堡城、又天寶十四載、隴右河西節度使哥舒翰入朝、今詩投贈稱開府、按傳十一歲加開府儀同三司、翰凡三入朝、初以十六載十月、次以二十一載十二月、又以二十四載二月、今詩云、每惜河隴棄、新兼節制通、又云、茅土加名數、則是指十二載加河西節度、進封西平、後而在十四載拜太子先鋒兵馬元帥、前、梁權道編在天寶十一載、是年翰未為河西節度、及封王無容疑、先言節制並茅土、當是十二載作也、爲十三載、又拜太子太保、加實封三百戶、此詩不言矣、天寶十三載在長安、草注作十二載、  
今代の麒麟閣、何人が第一の功、君王自ら神武、駕馭必す英雄、開府當朝の傑、兵を論ず萬古の風、先鋒百勝在り、地を略して兩隅空し、青海箭を傳ふるなく、天山早く弓を掛く、廉頗仍ほ敵を走らし、魏絳早く戎を和す、毎に惜む河隴の棄つるを、新に兼れて節制通す、智謀睿想を垂れ、出入諸公に冠たり、日月秦樹に低れ、乾坤漢宮を繞る、胡人北に逐はるゝを愁ひ、宛馬又東よりす、命を受けて邊沙遠し、歸り來つて御席同じ、軒墀かつて鶴を籠し、賦瓊香と熊に非ず、茅土名數を加へ、山河始終を誓ふ、策行戰伐を違れ、契合昭融を動かす、勳業青冥の上、交親氣槩の中、未だ珠履の客と爲さず、すでに見る白頭の翁、壯はじめて柱に題し、生涯轉蓬に似たり、幾年か春草歇み、今日暮途窮まる、軍事孫楚を留め、行間呂蒙を識る、防身の一長劍、將に峻峭に倚らむと欲す、

今代麒麟閣、何人第一功。

宣帝甘露三年、圖功臣於麒麟閣、唯霍光不名、其次張安世丙吉等凡十八、

洙曰、漢武帝、獲麟作麒麟閣、以畫功臣、漢宣帝甘露三年、上思股肱臣之美、乃圖畫大將軍霍光等十二人於麒麟閣、高祖即位、論功行封、以蕭何功爲第一、甫意、哥舒翰特膺帝眷、必立大功、爲其麒麟閣第一人、

君王自神武、駕馭必英雄。

吳張昭曰、人君能駕馭英雄、

洙曰、漢刑法制、高祖躬神武之才、總攬英雄、

開府當朝傑。

唐制、開府儀同三司者、三公也、從一品官、

論兵邁古風。

洙曰、齊職儀曰、開府儀同三司、秦漢無之、趙曰、翰於天寶十一載、加開府儀同三司、鶴曰、漢末嘗無、按通典、漢文帝元年、用宗昌爲衛將軍、位亞三司、

先鋒百勝在、略地兩隅空。

翰北征突厥、西伐吐蕃、攻取其地、故云兩隅空、

洙曰、勝、一作戰、劉牢之爲前鋒、百戰百勝、號爲北府兵、敵人畏之、洙曰、漢書、鄂秋曰、曹參有野戰略地之功、師古曰、略取也、

青海無傳箭。

翰築城青海、吐蕃不敢近、

天山早掛弓。

薛仁貴三箭定天山、

言以當代之良將軍薛仁貴、比翰也、洙翰曰、薛仁貴傳、將軍三箭定天山、天山、即祁連也、匈奴謂天爲祁連也、趙曰、早掛弓、則不復用也、唐薛仁貴、絳州人、高宗時、九姓衆十餘萬、令驍騎挑戰、仁貴發三矢、殺三人、虜氣懾、乃降、軍中歌曰、將軍三箭定天山、壯士長歌入漢關、贈驍衛大將軍、

廉頗仍走敵

廉頗趙將，出師而敵不敢近。

言フハ、廉頗ハ戰國ノ七雄ノ時ノ人ゾ、廉頗趙之良將、伐齊攻魏、皆破之、詳見史記本傳、草註謂、敵既竄走、畏韓之威、如廉頗、又廉頗伐齊魏、以功封信平君。

魏絳已和戎

魏絳勸晉侯和戎、以爲有五利、公從之。

春秋十二國ノ時ゾ、襄公四年、戎ニ和シテ來朝セシメタルゾ、草註、謂戎來求和、感晉之德、如魏絳也、左傳襄四年傳、魏絳勸晉侯和戎、以爲有五利、公從之、魏絳盟諸戎、修民事、田以時、十一年傳、既鄭人來歸、略晉侯、以師懼師觸師獨歌鐘二肆、及其鑿磬女樂二八、晉侯以樂之半、賜魏絳、曰、子教寡人和戎、八年之中、九合諸侯、如樂之和、請與子樂之、於是魏絳始有金石之樂禮也。

每惜河湟棄。新兼節制通。

王忠嗣守河湟、爲寇所敗、輸入朝陳、攻守計、帝以翰兼河西節度使。

趙云、翰天寶十二載、進封涼國公兼河西節度使、蓋以河湟之久棄、欲得翰收復之、故使之節度河西也、節曰、河湟乃、河曲、築障以備。

智謀垂睿想。出入冠諸公。

趙曰、方謀復河湟、而爲帝所系想、草註云、翰既建節而出、明年遂復河湟。

日月低秦樹。乾坤繞漢宮。

此言收復之功也、所謂日月所臨、特低秦樹、乾坤所包、獨繞漢宮。

按傳云、攻破吐蕃、共濟收黃河九曲、以其他置兆陽郡、此所謂日月所臨、特低秦樹、乾坤所包、獨繞漢宮、胡人愁逐北。宛馬又從東。翰之威武、胡人愁其攻逐、而敗北、宛馬復來朝貢也。

鄭曰、宛於妥切、洙曰、漢伐大宛、得天馬、乃作歌曰、天馬來、歷無草、徑千里、循東道、言翰能振威、故蠻夷畏服、漢書注、師敗曰北、舊注、引吐蕃盜麥、爲翰所破。

受命邊沙遠。歸來御席同。

是決前生後一段、洙曰、邊沙一作軍塵、翰屢節鎮邊郡、趙曰、邊沙遠、言河西爲遠、御席同、言復河湟、功成而歸、寵宴之盛、洙曰、翰嘗來朝、帝命高力士賜宴、詔尚食生擊鹿取血、滷腸、以賜之。

軒墀曾寵鶴

左傳、衛懿公好鶴、鶴有乘軒者。

洙曰、左傳閔二年、狄人伐衛、懿公好鶴、鶴有乘軒者、將戰、國人受甲者皆曰、使鶴、鶴實有祿位、余焉能戰、邵氏聞見錄云、子美軒墀曾寵鶴、左傳注、軒大夫車也、非軒墀之軒、或以爲病、惟知詩者、能辨之。

收獵舊非熊

文王將出獵、卜之曰、所獲非熊非羆非虎非豹、乃霸王之輔、及獵遇太公釣于渭之陽、載師以爲師、言翰之貴寵、已如乘軒之鶴、明皇得之、如文王之得呂望也。

韻語陽秋第八、西伯出獵、卜之曰、所獲非龍非羆非虎非羆、所獲霸王之輔、於是果遇太公於渭陽、載與歸、此司

馬遷之說也。文王至濬溪。見呂尚釣。釣得玉璜。刻曰。姬受命。呂佐德。合于今。昌來提。此尚書大傳之說也。太公釣於滋泉。文王得而王。此呂不韋之說也。呂望年七十。釣於渭濱。初下得璜。次得鯉。剖腹得書。書文曰。呂望封齊。此劉向之說也。太公避紂。居東海濱。聞文王作興。曰。盍歸乎來。此孟子之說也。某謂。盤誦蒙求。見范德機詩。矣。本注ノ心ハ、軒ヲバ鶴トシタルゾ、コレヲ翰ニ比シタト云ヒ、文王ノ太公ヲ得タル如クニ、翰ヲ明皇ノ思召トシタゾ、批判一ナラズ、

茅土加名數。

言翰進封西平郡王也。

禹貢。徐州。厥貢惟土五色。注。王者封五色土爲社。建諸侯。則各割其方色土與之。使立社。壽以黃土。苞以白茅。茅取其潔。黃土取其覆四方。名數謂第其爵輕重而爲之名數也。

山河誓始終。

高祖即位。封功臣爲之誓曰。使黃河如帶。太山若礪。國以永存。爰及苗裔。於是申以丹書之信。重以白馬之盟。

策行遺戰伐。

師曰。策行言以計用兵。不假交戰。故云。遺戰伐。昭融言帝之誓鑒也。草注云。遺棄也。言翰以計謀用兵。不假戰伐。故云。遺也。

契合動昭融。

草注云。昭融言帝之誓鑒也。翰之用謀與帝意合。故能聳動於帝也。

勳業青冥上。

草注。青冥天也。言翰立功之高。出乎天也。洙曰。須賈謂范雎曰。不意君能自致青雲之上。蘇曰。灌夫致功名勳業。

在青冥之上。

交親氣槩中。

草注。言翰以氣義感乎人。蘇曰。五侯門戶。榮戟森列。百夫守衛出入。交舊親契。皆在豪英氣槩之中。誰敢反目。

未爲珠履客。

前漢書注。師古曰。齊田文爲孟嘗君。趙趙勝爲平原君。楚黃歇爲春申君。魏公子無忌爲信陵君。此四賢者。皆明智而忠信。寬厚而愛人。洙曰。春申君客三千餘人。其上客皆躡珠履。尊賢也。

已見白頭翁。

草注。見字作是。甫自言未爲翰之上客。而頭已白矣。惜乎不爲翰之眷遇也。

壯節初題柱。

司馬相如。初過成都昇仙橋。題其柱曰。不乘驪馬。車不復過此橋。公自言壯節有相如題柱志也。

生涯似轉蓬。

洙曰。言晚節流離。如蓬之轉。風。曹子建詩。轉蓬離本根。飄飄隨長風。

幾年春草歇。

修可曰。梁元帝云。既看春草歇。草注。甫謂未歸故鄉也。古詩云。王孫不歸來。綠盡池邊草。

今日暮途窮。

草注、甫自嘆其衰老也。洙曰、主父偃云、日暮途遠、積康書曰、若道盡途窮則已耳、又途窮蓋阮籍故事也、  
晉孫楚、字子荆、才藻卓絕、  
軍事留孫楚、  
年四十餘、始參鎮東軍事、

草注云、言甫參鎮之幕府、有如孫楚也、草又云、此句一作鄉里輕周處、周處三患見晉史、南山、白額猛虎、長橋下蛟、  
并子爲三矣、晉孫楚、字子荆、年四十餘、始參鎮東軍事、後遷著作郎、都督攝州、復參石苞驍騎將軍事、云々、後悔、  
易於也、有隙、

行間識呂蒙、  
吳志、呂蒙、字子明、年十六、拔刀殺、  
吏於行伍中、見知於孫策、策用之、  
草注、言翰識甫於微賤、有如呂蒙、一作將軍拔呂蒙、

防身一長劍

草注、一作腰間有長劍、洙曰、一作防身有長劍、聊亦倚崆峒、揚子吾子篇云、劍可以愛身、荆楚故事、宋玉大言曰、  
彎弓掛扶桑、長劍倚天外、

將欲倚每峒、  
崆峒山在西、正當吐蕃所入之道、子美  
謂、將欲倚劍崆峒、從翰守節鎮也、

贈韋左丞

左丞、姓韋名濟、杜詩長篇、傷於偶儻、惟此詩有、  
典刑、布置最得正體、前輩錄之以爲壓卷也、  
魯青年譜、天寶六載作、而濟是年未爲左丞、千家題注末云、天寶七載作也、濟是年已爲左丞也、洙注云、至德

杜子美

二載作也、今取此義也、范元實詩眼、以此章左丞爲韋見素、千家并真寶注爲韋濟、濟章嗣立之子也、本傳無、  
字、韋見素、字會微、韋湊之子也、各有傳、見唐史、批點第一題與千家同、題注、鶴曰、此詩前後乃陳情也、公  
以開元二十四年、預京兆貢舉、而不第、遂困長安、故云、早充觀國賓、旅食京華春、至天寶六載、玄宗詔天下、  
有二藝者、赴闕下、公自東都歸、應詔、而林甫忌人斥己、建言乞、先下尚書省試、遂無一中者、公由是退  
下、故云、主上頃見徵、青冥却垂翅、末云、況懷辭大臣、公明年果又有東都之遊也、漁隱叢話前集十、詩眼云、  
山谷言、文章必謹布置、每見後學、多告以原道命意曲折、後予以槩考、古人法度、如贈韋見素詩云、執袴不  
餓死、儒冠多誤身、此一篇立意也、故使二人靜聽、而具陳之耳、自甫昔少年日、至再使風俗淳、皆儒冠事業也、自  
此意竟蕭條、至躡蹤無蹤、言誤身如此也、則意舉而文備、故已有是詩矣、然必言其所見者、於是  
有、厚愧真知之句、所以真知、謂其詩也、然宰相職在薦賢、不當徒愛人而已、士同不能無望、故曰、  
竊效貢公喜、難甘原憲貧、果不能薦賢、則去之可也、故曰、焉能心怏怏、祇是走踈踈、又將入海而去秦也、然  
其去也、必有遲遲不忍之意、故曰、尚憐終南山、回首清渭濱、則所知不可不以不別、故曰、常擬報一飯、況懷  
辭大臣、夫如此、是相忘於江湖之外、雖見素、亦不得而見矣、故曰、白鷗沒浩蕩、萬里誰能馴、終焉此詩  
前賢錄爲壓卷、蓋布置最得正體、如官府甲第、廳堂房室、各有定所、不可亂也、云々、如老杜上韋見素詩、布  
置如此、是一篇命意也、至其道遲遲不忍之意、則曰、尚憐終南山、回首清渭濱、其道欲與見素別、則曰、常  
擬報一飯、況懷辭大臣、此句中命意也、蓋如此然後、頓挫高雅、云々、千家十九題云、奉贈韋左丞丈二十二韻  
題注、鮑曰、韋濟章嗣立、某謂、立字下欠之字、天寶中授尚書左丞、史有傳、附嗣立後、師云、甫爲華州司  
功、此詩辭、韋左丞、鶴曰、前漢百官志、成帝建始四年、初置尚書員五人、有四丞、後漢志左右丞各一人、師云、  
是貶華州司功、則當在乾元元年、而梁權道編在天寶十一載、師注爲非、若在乾元元年、不應詩中無一

語及祿山之亂、與夫拾遺賤司功之意、魯嘗年譜、此詩在天寶六載、而不知是年濟未拜左丞、  
 謂、執袴不餓死、儒冠多誤身、此二句一  
 篇立意也、  
 甫、句云、有儒愁餓死、又云、儒術誠難起、又云、武夫勝腐儒、又云、儒衣山鳥怪、皆歎武夫得志、儒道不振也、  
 前漢班氏敘傳曰、王鳳、班伯、宜勸學、召見宴昭殿、上方鄉學、鄭寬中張禹、朝夕入說、尚書、論於金華殿中、詔伯  
 受焉、數年金華之業絕、出與王許子弟爲群、在於綺襦執袴之間、非其好也、晉灼曰、白綺之襦、米執之袴也、師古曰、  
 執素也、綺、今之細綾也、趙曰、丹墀之步、執袴之童、

執袴不餓死。儒冠多誤身。

此二句一  
篇立意也。

丈人試靜聽。

丈人者尊  
長之稱。

賤子請具陳。

言フハ、丈人トハ韋ヲ指スゾ、賤子トハ、杜自ラ云フゾ、  
 洙曰、易師貞丈人吉、注、丈人、嚴莊之稱也、應璩百一詩、避席  
 跪自陳、賤子實空虛、鮑昭東武吟、主人且勿喧、賤子歌、一言、南史、謝靈運謂孟顛曰、夫人生天當在靈運後、成佛當

在靈運前、

甫昔少年日。早充觀國賓。

易觀國之光、利  
用賓于王、

師曰、公預舉、在開元二十四年之前、時方二十餘歲、宜自謂少年也、  
 賓于王、象曰、觀國之光、尚賓也、甫昔云々、洙曰、少一作妙、賈誼洛陽年少、王直方詩話云、近世有注杜詩者、注甫  
 昔少年日、乃引賈少年、真可發觀者一笑、

讀書破萬卷。下筆如有神。

趙曰、梁孝元帝之敗、焚圖書十四萬卷、曰、讀書萬卷、猶有今日、故焚之、中著一破字、則著力而新奇矣、批語云、此語  
 本誇大、但得破字、猶言近萬、蘇軾曰、仲舒答策、下筆疑有神助、希曰、北史崔暉傳、不讀五千卷、無入此室、今  
 謂破萬卷、而下筆有神、正用此意、山谷句云、讀書開萬卷、師曰、破萬卷、謂識其理、如中庸曰、君子之道語  
 大、天下莫能載、語小、天下莫能破、大抵誰不讀書、識破其理者寡矣、故孔子曰、默而識之、甫既識破萬卷之理、縱  
 橫妙用、無施不可、故下筆之際、如神異也、

賦料揚雄敵。

揚雄、字子雲、嘗好詞賦、每擬相  
如公於賦言、可敵揚雄、

詩看子建親。

曹植、字子建、善屬文、詩出國風、卓爾  
不群、公於詩言、可親子建、

批語云、料他人不能敵者、惟有子建或近、下又用同時前輩二人、英氣橫出、鶴曰、考公進鵬賦表云、自七歲所綴  
 詩筆、向十四載矣、千有餘篇、云々、臣之述作、雖不足以鼓吹六經、先鳴諸子、至於沈鬱頓挫、隨時敏捷、而揚雄枚阜  
 之流、庶可及、故此詩亦云、賦敵揚雄、詩親子建、然今所傳詩多是天寶末年亂離之後所作、前所謂千有餘篇者、今



已不可盡見惜哉

李邕求識面

唐李邕有才子名後進  
想慕求識其面

王翰願卜隣

王翰有文名杜華嘗與遊從華母崔氏云吾聞孟母三徙  
吾今欲卜居使汝與王翰爲隣市以文章聲名當

世故以李邕王翰自比

邕出守北海時稱李北海唐書文藝傳李邕廣陵江都人父善嘗注文選同傳王翰并州晉陽人新唐書甫少貧不自振客齊趙吳越間李邕奇其才先往見之

自謂頗挺出立登要路津

古詩何不策高足先據要路津

師曰挺者特也路與津者衝要之所乃人物輻湊之地以譬顯達也官有清有要清而不要則無權要而不清則拘於俗甫方召試文章以清要自期豈期授以河西尉

致君堯舜上再使風俗淳

言フハ君トハ玄宗ヲ云フゾ時代モ相應シテヨイゾ洙曰伊尹致君堯舜又魏杜恕舉明主於唐虞之上

此意竟蕭條行歌非隱淪

隱淪者隱逸之士也甫既不見大用辭河西尉又不能隱居林下其貧賤如朱買臣薪行歌於路

騎驢三十載旅食京華春朝扣富兒門暮隨肥馬塵殘盃與冷炙

吳起嘗嘆曰丈夫兒事未濟甘晦休山林焉能逐浮薄子苟冷炙殘盃焉

自開元二十二年戊戌赴鄉貢至至德二丁酉凡二十四舉大數云三十春歟自開元二十二年赴鄉貢至天寶七年戊子凡十五年不可云三十春洙云任昉詩結歡三十載生死一交情後漢獨行傳向相或騎驢入市乞丐於人草注云公有詩云迎面東風騎蹇驢旋呵暖手凝粘鬚洛陽無限丹青手還有工夫盡得無王維送子美騎驢醉歸詩舊集不載師曰驢賤者所乘也得志則乘高車大馬貧賤則騎驢而已昔李白以文章待詔翰林後放逸不檢遂流落不用當爲華陰令所辱令致對云曾過龍巾拭吐御手調羹天子殿前尙與吾走馬華陰縣裡不與我騎驢初貴故走馬後貧賤故出騎驢甫既辭河西尉貧在京師自未獻賦之前迨今凡三十年矣獻賦時年四十三京華者言京師乃繁華之地當春月貴遊相追逐繁絃脆管無處不有甫獨旅食于此其寂寞可知故朝扣富兒門極刺京兒暮則隨其後塵爲當朝士大夫所薄如此殘盃謂甕之餘者香已埋歇柔肉曰炙冷炙謂宿炙也甫既貧賤餽口京師貴遊薄之惟待我以殘盃與冷炙深使人暗地抱辛酸也顏氏家訓云唯不可令有稱譽見役動貴處之下座以取殘盃冷炙之辱

到處潛悲辛主上頃見徵歛然欲求伸青冥却垂翅

李斯曰丈夫兒提筆鼓吻取富貴易若舉盃盃何青冥之翻與鷄共垂翅乎

蹭蹬無縱鱗

草注云主上謂肅宗師曰主上謂肅宗也與題注異也至德二載肅宗見徵與題注異也洙曰易曰蠖之屈以求伸也修可曰屈原悲回風云據青冥而攄虹注青冥雲也千家注青冥天也洙曰王褒聖主得賢臣頌曰沛乎若巨魚縱大壑海賦蹭蹬窮波失勢矣

其愧丈人厚甚知丈人眞

厚者相待之厚眞者懷抱之眞

上文人章左丞，厚如後漢書所以慰藉之，甚厚，真如莊子云其爲人也真，每於百僚上，猥誦佳句新。

尹曰：史相國位，諸侯王百僚之上，洙曰：杜詩云：爲人性辭耽，佳句語不驚，人死不休。

竊效貢公喜。

劉孝廣德絕交論，王陽登而貢公喜。

難甘原憲貧。

原憲在草澤中，子貢相衛，結駟連騎，過謝原憲，子貢曰：夫子豈病乎？憲曰：吾聞之，無財者謂之貧，學道不能行，謂之病，若憲貧也，非病也，子貢慙，宰相職，在薦賢，固不能無望也。

洙曰：貢公，貢禹也，前漢王吉，字子陽，與貢禹爲友，世稱王陽在位，貢公彈冠，言其取舍同也。

焉能心怏怏，祇是走跋跋。

師古漢書注：怏怏，志不滿也。千家注：跋跋，奔走貌。洙曰：韓信傳：信知漢王畏惡其能，稱病不朝，由此怨望，居常怏怏，羞與絳灌等伍。周亞夫傳：此怏怏非少主臣也。趙曰：吳越春秋：吳王僚之母，謂王曰：公子光，心氣怏怏，常有愧恨之色。鄭曰：跋七論反，洙曰：跋跋，行走貌。張平子西京賦：大雀跋。

今欲東入海，即將西去秦。

洙曰：語曰：乘桴浮于海。又曰：少師陽擊磬入于海。趙曰：此詩人欲去之意，造語如此，非真有東海之役也。

尙憐終南山，回首清渭濱。

果不能薦，則去之。

常擬報一飯，况懷辭大臣。

况大臣相知，不獨一飯，其去別之懷抱爲如何。

白

鷗波浩蕩，萬里誰能馴。

此二句，言自可相忘於江湖之外，雖韋濟亦不得而見也。

千家師曰：唐都長安，卽秦地，甫欲適山東，故云：東入海，秦地在西，甫既適東，必離去于西秦，故云：西去秦，南山與渭水，皆秦地山水，甫將東入海，尙眷眷於終南清渭者，不忍棄君而去也。自古忠臣自在吟，故云：心不忘君，一飯之恩，猶擬報之，矧營食人之祿，其忍遽忘乎？君雖然如是，甫之無官，守言責，其進退綽綽然，有餘裕，眞若鷗在浩蕩之波，去來自得，誰能馴狎哉。東坡志林云：淵明探菊東籬下，悠然見南山，探菊之次，偶然見山，初不用意，而境與意會，故何喜也。今皆作望南山，子美白鷗沒浩蕩，萬里誰能馴，蓋作波字，一詩改此兩字，便覺一篇神氣索然。千家注云：王荆公，常以波字爲沒字，其謬甚也。鷗善浮沒，何必獨言沒耶，如前輩諸公，因舉杜詩：身輕一鳥過之句，座間皆忘過字，因共補之，或言下，或言疾，不似過字之爲渾成也，則知沒浩蕩之自然。冷齋夜話云：老杜白鷗波沒蕩，今誤作浩蕩，非惟無氣，亦分外閑，置波字，蒼溪漁隱曰：禽經云：鷗善浮，鷗善沒，以沒字易波字，則東坡言益有理，冷齋以沒字易浩字，其理全不通，浩蕩謂烟波也，今云波浩蕩，亦不成語，此言不足取。批語云：沒字不如波字之趣，但以上下語勢，當是沒字相應。批語云：此起結，皆可慨然，非乞恰語也，韋自知杜必嘗薦而不達，故有心怏怏走跋跋之歎，末止如此，悲壯未衰。

醉贈張祕書

此韓昌黎與張祕書爲文字飲而作之。

韓退之

韓文第一，題注：孫曰：張祕書，微，元和四年，登進士第，聚韓氏禮部郎中雲卿之孫，開封尉俞之女，於公爲叔父孫女。漁隱叢話前集十七，東坡云：書之美者，莫如顏魯公，然書法之壞，自魯公始，詩之美者，莫如韓退之，然詩格之變，自退之始。漁隱叢話後集七，引藝苑雌黃云：漢舊儀曰：顏頊氏有三子，死而爲疫鬼，一居江水，

爲瘧鬼、一居若水、爲因兩蚊鬼、一居人宮室隔隅、善驚人、爲小鬼、故韓退之、有譴瘧鬼詩、扇屑水帝魂、謝謝無餘輝、如何不肖子、尙奮瘧鬼威、又云、杏汝之胃出、門戶何巍巍、祖軒而父頊、未味於前徵、而其後又有、湛湛江水清、歸居安汝妃、之語、蓋本於漢舊儀也、世傳、杜詩能除瘧、此未必然、蓋其意典雅、讀之者、既然不覺沈痾之去體也、而好事者乃曰、鄭廣文妻病瘧、子美令取予落月滿屋梁、猶疑照顏色、一聯誦之、不已、又令取亂髮似太宗、色映寒外春、一聯誦之、不已、又令取子璋觸懷血模糊、手提擲還崔大夫、一聯誦之、則無不愈矣、此殊可笑、借使瘧鬼誠知杜詩之佳、是賢魂也、豈復屑屑求食於嘔泄之間、爲哉、觀子美有言、三年猶瘧疾、一鬼不銷亡、隔日搜脂髓、增寒抱雪霜、徒然潛隙地、有靦屢鮮粧、則是疾也、杜陵正自不免、

訓讀 人皆我に酒を勸む、我耳に聞かざるが若し、今日君の家に到り、酒を呼んで持して君に勸む、この座上の客と爲り、余と各文を能くす、君の詩態度多し、藹藹たり春空の雲、東野は動もすれば俗を驚かし、天葩奇芬を吐く、張籍は古淡を學び、軒昂鷄群を避く、阿買字を識らず、頗る八分ル書するを知る、詩成つて之を寫さしむ、亦た吾が軍を強るに足る、酒を得むと欲する所以は文と爲つて其體を待てばなり、酒味すでに冷冽、酒氣又氣風、性情漸く浩浩、諧笑方に云云、これ誠に酒意を得たり、餘外徒に繽紛、長安の衆富兒、盤饌瓊華を罷ぬ、文字の飲を解せず、惟だ能く紅裙に酔ふ、一餉の樂を得と雖も、聚飛の蚊の如きあり、今我數子と、もとより瘧と蓋となし、險語鬼膽を破り、高詞皇壇に娯ぶ、至寶影取せず、神功勳秘を謝す、方向泰平に向ひ、元凱華勳を承く、吾が徒幸に無事、庶ばくは以て朝暉を窮めむ、

人皆勸我酒。我若耳不聞。今日到君家。呼酒持勸君。爲此座上客。及余各能文。

蔡注曰、客一作士、後漢孔融傳、融字文學、性寬容少忌、好士喜誘、益後進、及退閑職、賓客日盈、其門常歡曰、座上客常滿、樽中酒不空、吾無憂矣、言フハ、一ノ句、醉中ニ詩ヲ贈ルホドニ、此ノ如ク云フゾ、退之ハ平生ハ酒ヲモ飲マ

ズ、人ガ酒ヲ勸ムレドモ、耳ニモ聞キ入レヌゾ、面白クモナイ座敷ツキト人人ニ思フゾ、今日張祕書徹ノ處ニ到ツテ、互ニ酒ヲ獻ジ、酬酢シテ、吾モメタト醉フタゾ、前カタトハ相違シタゾ、滿座ノ客モ、張祕書モ、韓モ、文章者デ、賢主佳賓ト、騷人ノ出會ヲトリマケモノナイゾ、

君詩多態度。藹藹春空雲。

樊曰、徹詩不見于世、唯會合聯句、有愁去劇箭、飛誰來若泉、湧馬辭虎豹、怒舟出蛟鼉、恐兩聯亦奇語也、私ニ云フコノ外ハ聞キ及バズト云フゾ、

東野動驚俗。天葩吐奇芬。

韓云、班固答賓戲、馳辯如清波、擄藻如春華、

張籍學古淡。軒昂避雞群。

考異、昂字作鶴字、晉書、嵇紹始入洛、或謂王戎曰、昨於稠人中、見嵇紹、昂昂然如野鶴之在雞群、

阿買不識字。頗知書八分。

趙堯夫曰、或問魯直、阿買是退之何人、答云、退之姪、必有證據而云、韓曰、此必其子姪小字、如陶淵明家阿舒阿宣之類、耳、本集注云、八分之說有二、或曰、八分篆法、二分隸文、又曰、皆似八字勢、有偃波二說皆非也、書有八體、

詩成使之寫。亦足張吾軍。

韓曰、左傳、楚鬬伯比曰、我張吾三軍、而被吾甲兵、以武臨之、

所以欲得酒爲文俟其醺。酒味既冷冽。酒氣又氤氳。

本集注、醺、醉也、玉篇、冽、寒氣、詩、冽彼下泉、注、冽、寒也、祝曰、氤氳氣也、選元氣氤氳、

性情漸浩浩。諧笑方云云。

文選四十一、李陵書曰、執事者云々、注、呂向曰、云云、謂多言也、

此誠得酒意。餘外徒續紛。

祝曰、續紛、雜亂也、家語、旂旂續紛、

長安衆富兒。盤饌羅羶葷。

諷世

俗、盤饌羅羶葷。

西清詩話云、張耒文潛云、東坡嘗言、退之詩、長安衆富兒、盤饌羅羶葷、不解文字飲、惟能醉紅裙、疑若清苦自飾者、至云、斝、盤、筵、舞、清眸射劍戟、則知此老子箇中與復不淺、文潛戲答曰、愛文字飲者、與俗人沽酒同科、見漁隱前集十六、孫曰、葷、辛臭菜、祝云、禮記、膳葷、

不解文字飲。惟能醉紅裙。

補注、東坡詩云、賢王文字飲、文字先生飲、皆祖此語、

雖得一餉樂。有如聚飛蚊。

詩謂、長安富兒、酣飲於女色、雖得一食頃之歡、適不過如蚊蚋成群也、

蔡曰、前漢中山靖王傳、聚斝成雷、師古注、斝、古蚊字、雷、古雷字、言衆蚊飛聲、有如雷也、補注、東坡詩、免使退之嘲一餉、謂此也、

今我及數子。故無猶與薰。

孫曰、僖公五年、左氏一薰一蕕、十年尚猶有臭、薰、香、蕕、臭、

險語破鬼膽。高詞媿皇墳。

補注、開元天寶遺事云、李果爲洛陽令、有劉兼者、過其境、宿夜深聞戶外語聲、曰、古今正人、李令是也、見其行事、令人破膽、開戶視之、無物、乃鬼神也、蔡曰、淮南子、昔倉頡作書而鬼夜泣、注、恐爲書文所效、故夜哭也、祝曰、爾雅、妃、媿也、注、相偶媿也、樊曰、書序曰、伏羲神農黃帝之書、謂之三墳、皇三墳墳書也、媿、匹語切、一作、動、言フハ、墳ハ大ナリ、大道ヲ説ク書ノ義ト云フゾ、墳ハ平聲、墳ト讀ム時ハ仄ナリ、

至寶不雕琢。神功謝鋤耘。

私ニ云フ、三墳ハ至寶ノ書ナレドモ、石ニ彫琢モセメズ、三皇五帝ノ時ハ、自然ニ德ガ備ハツテ、爭フコトガナイゾ、末々ニナリテ、五常ガ破レテ、爭論モ出來ズ、サテ無道ヲ譏リ、善德ヲ美メテ、頌ヲ石ニ雕琢スルゾ、上古ニハ無イゾ、謝、勸耘トハ、舜ノ歷山ニ耕作スル時ニ、象耕シ、鳥耘ル、實ニ自己ノ勸耘ヲ謝スルナリ、

方今向泰平。元凱承華勛。

音動、左傳、高陽氏有才子八人、天下謂之八凱、高辛氏有才子八人、天下謂之八元、世濟其美、堯典曰、放勳、舜典曰、重華、協于帝、此謂賢者在朝、如八元八凱、得、以輔承堯舜泰和之治、

孫曰、文十二年、左氏、高陽氏有才子八人、謂之八元、書堯曰、放助、舜曰、重華、韓曰、時憲宗即位、杜黃裳、鄭際慶、李吉甫、裴相、李藩之徒、相繼爲相、故云、史記、舜舉十六相、去四凶賊、言フハ、舜既ニ攝位トテ、天子ノ事ヲ堯ニ代ツテ宰ラシムル時、八元八凱ノ二十八人ノ賢人ヲ舉ゲテ、政ヲスルゾ、元ハ善ノ義、凱ハ和ノ義ナリ、十六相トハ二十八人ノ凶賊トハ、四人ノ惡シキ者ゾ、四裔ト云ウテ、四方ノハテヘ流シテ、ソノ後、天下太平ニナルゾ、杜詩ニ舜有二十功ト云フハ、二十八人ノ賢人ヲ舉ゲテ、四人ノ凶賊ヲ流スホドニ、十六ト四トハ二十ナリ、コレヲ二十功ト云フゾ、

吾徒幸無事。庶以窮朝噍。

噍、日入也、噍音焦、

蔡曰、史記、犀首名衍、姓公孫、楚陳軫見之曰、公何好飲也、犀首曰、無事也、

●七言古風短篇

玉屑第一、詩體部云、七言起於漢武桓梁、又云、有歌行、古有鞠歌行、放歌行、長歌行、短歌行、

●峨眉山月歌

峨眉山名、在眉州、

李太白

李白集第八、歌吟部、載峨眉山月歌、三溪作清溪、餘皆同、春陵楊齊賢字子見集注、章貢蕭士贊字粹可補注、齊賢注云、峨眉山在嘉州峨眉縣羅目鎮、平羌江在嘉州、龍遊縣、有平羌山、資州清溪縣、乾德宋太祖五年、省入內江、內江在州東九十八里、資州東至昌州二百二十八里、昌州南至渝州三百里云々、巴峽明月峽、巫峽、是謂三峽、古歌曰、巴東三峽巫峽長、猿啼三聲淚沾裳、太白集第八、載峨眉山月歌、其次又載峨眉山月歌、送蜀僧晏入中京、詩云、我在巴東三峽時、西看明月憶峨眉、月出峨眉照滄海、與人萬里長相隨、云々、峨眉山月還送君、風吹西到長安陌、云々、我似浮雲滯吳越、君逢聖主遊丹闕、云々、

峨眉の山月半輪の秋、影は平羌江水に入つて流る、夜清溪に發して三峽に向ふ、君を思へども見えず渝州に下る、

峨眉山月半輪秋。影入平羌江水流。

勝覽五十二、嘉定府有峨眉縣、大峨山・中峨山・小峨山、是爲三峨、中峨山、注引李白篇、士贊曰、圖經、平羌江在雅州、嚴道東北城下嘉州、亦號平羌江、

夜發三溪向三峽。

三峽、西陵峽巫峽歸鄉峽也、並在夔州、

思君不見下渝州。

圖經三峽謂西峽巫峽歸峽渝州即今重慶府治巴縣勝覽六十重慶府古渝州善歌舞有香草樓荔支園又載李白此篇三四兩句作清溪漁隱叢話前集四十二曰東坡送人守嘉州古詩其中云峨眉山月半輪秋影入平羌江水流謫仙此語誰解道請君見月時登樓上兩句全是李謫仙詩故繼之以謫仙此語誰解道請君見月時登樓之句此殆本出於李謫仙其云解道澄江淨如練令人憶謝元暉蓋澄江淨如練即元暉全句也後人襲用此格愈變愈工詩林廣記後集三東坡載此一篇同

●山中答俗人

李白集十九訓答部載之題曰山中問答詩林廣記前集三此篇題云答山中俗人ト云々コ、ニハ答ノ字中ニ不審アリ許彥周詩話云賀知章呼太白爲謫仙人余觀此詩切信之矣杜子美陪鄭廣文遊何將軍山林詩云野老來看客河魚不取錢只疑淳朴處自有山川

訓余に問ふ何事ぞ碧山に栖む笑つて答へず心自ら閒なり桃花の流水宛然として去る別に天地の人間に非ざるあり

問余何事栖碧山笑而不答心自閒

齊賢注云蜀志人間諸葛亮之志亮抱膝笑而不答士贇曰列子曰仲尼笑而不答莊子知北遊適遭無爲謂而問焉三問而無爲謂不答也非不答也不知不答也

桃花流水宛然去別有天地非人間

文公九曲棹歌漁郎更覓桃源路除是人間別有天用此詩也  
桃源記陶潛云太康西晉世祖中武陵人捕魚溪行忽逢桃花林夾岸數百步林盡水源見山山有小口舍舟而入

屋舍連接人見漁者大驚爲設酒食曰吾先世避秦遂與外隔云々宛本集作杳許彥周作窅然謝玄暉詩歸徑窅如迷窅字往往作窅此白詩作宛首字訛耳

●山中對酌

李白集二十三閑適部載之題云山中與幽人對酌與幽人三字無茲

訓兩人對し酌まば山花開く一盃一盃復た一盃我酔うて眠らむと欲す君しはらく去れ明朝意あらば琴を抱いて來れ

兩人對酌山花開一盃一盃復一盃我醉欲眠君且去明朝有意抱琴來

一人對飲而至於醉我眠君歸

明日抱琴相就不妨又對酌也

言被山花強而便三盃故醉而已齊賢註陶潛貴賤造之有酒輒設潛若先醉便語客我醉欲眠卿可去某謂可去南史或作且去東坡醉眠亭詩曰醉中有客眠何害須信淵明若未賢山谷集六晁无咎臥陶軒詩云城南晁正字國器無等雙云々欲眠不遣客佳處更難忘某謂白祖陶黃祖蘇其趣彌高

●春 夢

岑

參

才子傳云岑參南陽人天寶三年趙岳榜第二人及第別業在杜陵山中後終於蜀參累佐或幕往來鞍馬烽塵間十餘載用心良苦詩調尤高唐與罕見此作與高適風骨頗同讀之令人慷慨懷感每篇絕筆未及大用而謝世豈不傷乎有集十卷行于世杜確爲之序

訓洞房昨夜春風起遙見美人憶湘江的水枕上片時春夢中行盡江南數千里

洞房昨夜春風起。遙憶美人湘江水。詩彼美人兮，西方之人。枕上片時春夢中。行盡江南數千里。數

里，行於片時間，非夢而何乎。

此江南湘江也，非蜀江之南，與白衣杜常句不同，排韻岑詩與李杜相韻類，歌行則流出肺肝，無斧鑿痕，郊島旬鍛月鍊者，參談笑爲之，爲嘉州守，號岑嘉州，三體詩名賢履歷百六十七人內，岑參南陽人，文本之後，登大寶進士第一，累爲安西關西節度判官，云々，後終于蜀。

少年行

王維

王維，字摩詰，太原人，九歲知屬辭，維詩入妙品上上，畫思亦然，後人評維，詩中有畫，畫中有詩，信哉，別墅在藍田縣南輞川，弟縉集賦詩等十卷，上之，今傳于世。

新豐美酒斗十千。

新豐の美酒斗十千，咸陽の遊俠少年多し，相逢ふ意氣君が爲に飲む，馬を繋ぐ高樓垂柳の邊。

漢書，新豐在京兆，高祖七年置，應邵曰，太上皇思東歸，沛之豐邑，於是高祖改築，城寺街里，以象豐，徙豐民，以實之，故曰新豐，人家道路，雞犬放之，皆識之，在驪山下，馬周舍新豐，逆旅主人不顧，命酒獨酌一斗八升，周貞觀宗十八年拜中書令，四十八卒，帝賜飛白書曰，鸞鳳冲霄，必假羽翼股肱之寄，要在忠力。

咸陽遊俠多少年。

關中記云，秦孝公都咸陽，即渭城，在渭北，始皇都咸陽，即城南大城，名咸陽，者山南曰陽，水北亦曰陽也，地在渭

水之北，九嶷諸山之南，故曰咸陽，私云，維詩云，五陵年少若相問，阿對泉頭一布衣，

相逢意氣爲君飲，繫馬高樓垂柳邊。

以咸陽之少年，飲新豐之美酒，其豪俠之意氣，可想見矣。

言フハ、王維不滿ナル故、新豐斗十千、美酒ヲ何トモ思ハズ用ヒ盡シテ、遊山玩水バカリ、少年ノスルヲ見テ感アリ、爲レ君トハ、相共ニト云フ心ゾ、馬ヲ方々ノ木ドモニ繫ギ置クゾ、少年トハ豪傑ゾ、時世ヲ言ハザレバ知ルベシ、サゾ心中不平ニテアルラン、思ヒ遣ラレタゾ、

尋隱者不遇

魏野

翰墨全書，宋魏野，字仲先，居東郊，架草堂，有水竹之勝，無貴賤，皆白衣紗帽而出，跨白驢，號草堂居士，好彈琴，喜賦詩，宋太宗祀汾陰，召之，辭疾不至，一日方教鶴舞，俄報中使至，抱琴踰垣而走，與寇萊公相得甚，嘗同遊陝郊，僧寺後又同到，萊公詩用碧紗籠，魏詩塵滿，從行官妓以袖掃之，仲先云，若得時將紅袖掃，也應勝著碧紗籠。排韻云，魏野子閑，亦不仕，號清逸居士，詩話多載爲仲先之號。

眞を尋れて悞つて入る蓬萊島，香風動かす松花老いたり，芝を何處に采るか未だ踏り来らず，白雲滿地人の掃ふなし。

尋眞悞入蓬萊島。

蓬萊山在海中，神仙所居。

言フハ、眞トハ眞人ノ義ゾ、神仙ヲ指シテ云フゾ、蓬萊ハ、神仙ノ所居ヲ云フナリ、隱者ノ所居ヲ尋ネタレバ、眞ノ蓬萊ニ到タゾト、サテモ悞リタ、吾ハ仙境ニ望ハナイモノゾ、

香風不動松花老。

蘇過經三泉路詩云、三月松作花、春行日漸除、

探芝何處未歸來、

四皓隱於商山、探芝而茹、

白雲滿地無人掃、

言フハ、芝ハ仙藥ナリ、深山ヘ芝ヲ取リニ行ツタホドニ、遅ク歸ラル、ナリ、遇ハザルヲアリト云フタ、滿地白雲ナレドモ、掃クベキ人モナイト云フ活語ゾ、清風ハ明月ヲ掃ヒ、又明月ガ清風ヲ掃フ境界ヲバ知ラナイデ、仙術ニ惑ハセラレテ、掃ヒ棄ツルヤウヲ知ラヌト云タガ名譽ゾ、此語ニ到ル者、聖人モ口ヲ緘ム處ゾ、活潑潑、

●步 虛 詞

高 駢

異苑曰、陳思王遊漁山、忽聞空裡有誦經聲、清遠響亮、使解音者寫之、爲神仙之聲、道士效之作、步虛、此步虛之始也●才子傳第九、高駢字千里、幽州人也、遷侍御史、一日校獵園合、有雙鷗并飛、駢曰、我後大富貴、當貫之、遂一發、聯翩而墜、衆大驚、號落鷗御史、駢爲西川節度、築成都城、四十里、朝廷疑之、以宴間詠風、爭云、依稀似曲纔堪聽、又被風吹別調中、明日詔下、移鎮洛宮、任至平章事、封渤海郡王、云々、駢失兵柄、方且棄人間事、絕女色、屬意神仙、鄒陽商儉呂用之會妖術、役鬼神、及狂人諸葛殷張守等、相引而進、羽衣鶴鬣、詭辯風生、駢事之若神、造迎仙樓、八十尺、日同方士登眺計、鸞笙在雲表而下、至以用之守一般等爲將、分掌兵符、皆稱將軍、開府置官屬、禮與駢均、卒至叛逆、首亂、磔屍道途、死且不悟、襄駢以破耗與子弟七人一坎而瘞、名書唐史叛臣傳、有詩集一卷、今傳于世、

青溪道士人不識、

調 青溪の道士人識らず、天に上り天より下る鶴一隻、洞門深く鎖して碧窓寒し、露を滴れ朱を研して周易を點す、

三體詩作清溪、即高駢作也●勝覽ニハ、青溪ニ作ル、注云、玄宗御製也、

上天下天鶴一隻、洞門深鎖碧窓寒、滴露研朱點周易、

勝覽第九、處州部、點易亭在、南園、唐明皇贈葉法善詩、青溪道士人不識、云々、全篇載之、同九漸東路七州内、處州、好溪注云、在麗水縣東五里、舊名惡溪、内多水怪、唐段成式爲刺史、有善政、怪族自去、改好溪、沈約禮好溪詩云、山碧烟無色、溪清玉有聲、某謂、青溪或作清溪、亦有據也、青溪道士指諸葛殷張守一等也、

●十

竹

謂城市地狹人稠、軒前只種十竹、謂春來不須生筍、迸破階苔也、

僧 清 順

玉屑第二十、清順西湖僧、頗然清苦、多佳句、嘗賦十竹詩云、城中寸土如寸金、又久從林下遊、頗識林下趣、從渠綠陰繁、不礙清風度、閑來石上眠、落葉不知數、一鳥忽飛來、啼破幽絕處、荆公遊湖上愛之、乃稱揚其名、坡晚年亦與之遊、甚多酬唱、

調 城中の寸土寸金の如し、幽軒竹を種ゆる只だ十個、春風愼んで兒孫を長ずる勿れ、我が塔前の綠苔を穿つて破らむ、

城中寸土如寸金、幽軒種竹只十箇、春風愼勿長兒孫、穿我塔前綠苔破、

漁隱叢話二十七、引復齋漫錄云、冷齋夜話、記西湖僧清順詩、久從林下遊、頗識林下趣、從渠綠陰繁、不礙清風度、閑來石上眠、落葉不知數、一鳥忽飛來、啼破幽絕處、余見子蒼言、後兩句不同、云、困則種石眠、莫省落花數、唯聞犬吠聲、又入烟蘿去、後兩句雖不同、無害、第落葉不知數、一句不可、蓋初夏間、未應落葉多耳、若溪漁隱云、惟聞犬吠聲、更入青蘿去、乃惠諗詩、東坡嘗和之曰、惟應山頭月、夜夜照來去者是也、子蒼之言、復齋之記、皆誤也、坡集四書、摩公詩



後并敍云、休馬于逆旅郭宗祥家、見壁上有一幅紙、題云、滿院秋光濃欲滴、老僧倚杖青松側、只怪高聲問不答、嗔余踏破蒼苔色、

遊三遊洞

蘇子瞻

白居易弟知退及元微之三人遊、故號三遊洞、至宋東坡、父子三人亦遊、茲矣、勝覽廿七云、白居易與弟知退及元微之、會於夷陵、尋幽踐勝、知退曰、斯景勝絕、天地間有幾乎、方輿勝覽ニハ、元次山ト白居易ト李白ト遊ンダニヨリテ三遊ト附ケタゾト有ルゾ、又注ニ白居易ト弟ノ知退ト元微之ト會シタト有ルゾ、兩義ゾ、

凍雨霏霏半成雪、遊人履冷蒼崖滑、不辭携被巖底眠、洞口雲深夜無月。

洞中幽寒、況值雪景、雖携衾被、宿巖底、無奈雲深月黑、何言フハ、コ、ヘ三人來ル折節、凍雨シホシホト降りテ雪トナリテ有ルゾ、サル程ニ、被ヲ携ヘテ、コノ巖底ニ眠ラントスルコトヲバ、全ク辭退トモ思ハヌゾ、一宿モセントテ、ソノ爲ニ來レドモ、止マラヌ心ハ、雪ニ何處モ疊リテ、洞口ハ雲バカリデ、月モ無ケレバ、何ノ面白キ興モナサニ、サテ此處ニ一宿セズ歸ルト云フ心ナリ、勝覽、蘇老泉詩云、洞門蒼石流成乳、山下寒溪冷欲氷、天寒二子苦求去、我欲居之亦不能、作ツタゾ、一ノ句ハ三遊洞ノ體ゾ、洞門ニ蒼石ノアルニ、水ガ流レテ乳ノ如キナゾ、山下ノ溪ハ冷ケレバ、氷ガハリサウナゾ、コ、ヘ坡ノ兄弟同道シテ來レバ、雪降りテ、天氣モ寒クテ、月ノ面白モ有ルマジキトテ、兄弟ノ二子ガ頼リニ去ラント云フホドニ、留マルコト能ハイデ歸リタゾト、アリアリト作ツタゾ、總ジテ、老泉ガ詩ハ稀ナゾ、始メ京ヘ坡兄弟ゾレデ上ル時、歐陽ニ隨逐

シタゾ、重陽ノ節デアツタ處デ、諸公ノ會合アルゾ、歐陽ガ云フコトハ、茲ニ夷中者ノコケタ人アリ、喚ビ出シテ詩ヲ作ラスベシト云ヒテ、老泉ヲ喚ビ出シタゾ、詩曰、佳節已從愁裡過、壯心時倚醉中來ト作ツタゾ、コレデナクテハ老泉ガ詩ハキカヌゾト、桂林ノ仰セラレタゾ、子由ノ詩ニ、昔年有遷客、携手醉巖巖、去我歲已百、遊人忽復三ト作ツタゾ、言フハ、古シヘ、コノ三遊洞ヘハ、白居易等ガ遷客ノ身デ遊ニ來テ有ツタゾ、サレバ、三遊ト云フゾ、三人ノ者ドモ、手ヲ携ヘテ酒ヲ飲ンデ、コノ巖巖ノ下デ遊ンデ有リシゾ、今日復タ我が兄弟ト父ノ老泉ト來テ遊フゾ、古シヘノ白居易ガ遊ンダ時ト今トハ、ハヤ百歲バカリニナルゾ、カ、ル三人遊ビタル處ヘ、今日復タ三人遊ブ事ヨトテ、遊人忽復三ト作ツタゾ、面白キゾ、コレヲ即チ三絶句ト云フゾ、

漁翁

柳子厚

柳本集第四十三、題下補注云、東坡云、詩以奇趣爲宗、反常合道爲趣、熟味此詩、有奇趣、然其尾兩句、雖不刪、亦可、玉屑第一、詩體部云、六言起於漢、司農谷永、六句蓋見杜蘇黃等之部、或云、東坡論此詩、無後二句、亦可、非知言者也、有可、橫截者、如黃鸝四句、是也、此詩氣渾然不類晚唐、政在後兩句、非蛇安足

漁翁、夜、西巖に傍うて宿す、曉に清湘を汲んで楚竹を燃やす、煙消え日出でて人を見ず、歎乃一聲山水綠なり、回つて天際を見て中流を下れば、巖上心なく雲相逐ふ、

漁翁夜傍西巖宿、曉汲清湘燃楚竹。

玉屑十一末云、柳子厚、漁翁夜傍西巖宿之詩、東坡刪後二句、使子厚復生、亦必心服、

烟消日出不見人。欸乃一聲山水綠。

欸乃歌聲也。欸音換，乃音霽。

柳文補注云、山谷嘗書元次山欸乃曲云、欸音蠟、湘中棹歌聲、子厚漁父詞、有欸乃一聲山水綠之句、誤書欸乃、後生多承誤妄用之、可笑、若溪漁隱曰、又元次山集、欸乃曲注云、棹舟之聲、

回看天際下中流。巖上無心雲相逐。

歸去來辭、雲無心而出岫、

漁隱前集十九云、子厚詩、在陶淵明下、韋應物上、退之豪放奇險、則過之、而溫麗精深、不及也。東坡云、李杜之後、詩人繼出、雖有遠韻、而才不逮、意、獨韋應物柳子厚發、纒織於簡古、寄至味於淡泊、非餘子所及也。漁隱後集十一、子厚聞餐詩云、一聲夢斷楚江曲、滿眼故園春草綠、其感物懷土、不盡之意、備見於兩句中、不在多也、玉屑十五、引漁隱此評、某謂、柳子厚聞黃鸝詩、在柳文四十三、一篇十八句、換韻詩也、

●金陵酒肆留別

李太白

風吹柳花滿店香。吳姬壓酒喚客嘗。金陵子弟來相送。欲行不行各盡觴。請君試

問東流水。別意與之誰短長。

金陵子弟、饒客於酒肆、欲去不去、其纏綿之情、較之江流東去、別意與江流相為無窮、爾、

李白集十五、金陵酒肆留別、風吹一作白門、齊賢注云、白下亭、在今建康東門外、士贇曰、楚辭、君不行兮夷猶、詩、山

谷言、學者若不見古人用意處、但得其皮毛、所以去之更遠、如風吹柳花、滿店香、若人復能爲此句、亦未是太白、至于吳姬壓酒勸客嘗、壓酒字、他人亦難及、金陵子弟來相送、欲行不行各盡觴、益不同、請君試問東流水、別意與之誰短長、至此乃真太白妙處、當潛心焉、故學者先以識爲主、禪家所謂正法眼、直須具此眼目、方可入道。某謂、金陵白下亭留別詩云、驛亭三楊樹、正當白下門、云々、由是則風吹柳花、滿店香之句、可知之也。漁隱後集第四曰、太白宮詞云、梨花白雪香、子美詠竹云、風吹細細香、二物初無香、二公皆以香言之何也。某謂、柳花即柳絮、無香者也、今云滿店香、蓋竹香梨香之類也。漁隱後集四、曾子固云、李白集二十卷、舊七百若干篇、今九百若干篇者、知制誥常山宋敏求字次道之所廣也、

●思

邊

此即采薇、昔我往矣、楊柳依依、今我來思、雨雪霏霏、意、

李白集第二十五、思邊、注云、一作春怨、又此篇前載學古思邊詩云、十見花成雪、胡地無春輝、言フハ、邊トハ西戎ゾ、文王ノ西伯テ殷ノ紂ニ隨ツテ居ラレタ時、昆夷ノ難ヲ思ハレタ、ソレヲ思邊ト題ニシタゾ、

去歲何時君別妾。南園綠草飛蝴蝶。今歲何時妾憶君。西山白雪暗秦雲。玉關此去

三千里。

班超曰、不敢望到三千里、但願生入玉門關、

欲寄音書那得聞。

毛詩第九、小雅采薇、遺戍役、文王西有混夷之患、北有玁狁之難、以天子命、命將卒、遣戍役、以守衛中國、故歌采

薇注云、文王爲西伯服事殷之時也、昆夷西戎也、天子殷王也、太平御覽雲部云、秦雲如美人、毛詩正義云、蠶蠶一名美人、

烏夜啼 爲二戌 婦一作、

李太白

漁隱前集五、昔溪漁隱曰、老杜寄李十二白詩云、詩成泣鬼神、元和中、范傳正誌白墓云、賀公知章吟公烏夜啼云、此詩可以哭鬼神、矣、某謂、李白集第三、烏夜啼次、載烏夜啼、

黃雲城邊烏樓、歸飛啞啞枝上啼、機中織錦秦川女、碧紗如烟隔窓語、停梭悵然憶遠人、獨宿孤房淚如雨、

塞城之烏欲棲、機中織女、因而有感、停梭以思征夫、獨宿空閣、隕淚如雨、

白注、士贊曰、烏夜啼者清商曲也、乃周房中樂之遺聲、江左所謂梁宋新聲也、其辭始於宋臨川王義慶所作、宋元嘉中、徙彭城王義康於豫章郡、義慶時爲江州、相見而哭、文帝聞而怪之、召還宅、義慶大懼、妓妾聞烏夜啼、即齊閣云、明日應有赦、及旦改南兗州刺史、因作歌、故其詞云、蕭蕭意不開、烏夜啼、夜夜望郎來、蓋詠其妾也、太白此詩亦祖此意、詞不同耳、一ノ句ニ黃雲ト云フハ、士贊曰、淮南子、黃泉之埃、上爲黃雲、江淹詩、黃雲蔽十里、遊子何時還、二句、啞啞、齊賢曰、啞於雅切、不言也、又烏格切、笑聲也、

戲和答禽語

黃山谷

天社注、第一條章文集第二、古詩部載之、元豐四五年間作、見年譜、換韻格、東坡去密州、時作留別零泉、又作留別釋迦院牡丹、又在惠儉間、追和陶詩、其寓意之至高、可推知之矣、今山谷亦在吉州大和縣、戲和答禽語、與東坡之寓意無二無別也、租稅之重、自元豐三年以來、民間甚困、宋通鑑元豐二年庚申八月、王安石上改定詩書周禮新義、是時東坡在黃州、五禽言詩五首並序、見于左、

南村北村雨一犁、新婦姑に餉し翁に哺す、田中の啼鳥自ら四時、人を催し務を脱して新衣を着けしむ、新を著し舊に替ふる亦た悪しからず、去年租重くして務を着くるなし、

南村北村雨一犁、新婦餉姑翁哺兒。

言第一聯、舉農務之時、及此時、聞鳥聲、而有感慨也、唐秦韜玉春雨詩云、入地一犁農父喜、打花終夜美人愁、或云、王洞雨詩也、東坡樂府曰、歸去歸去、江上一犁春雨、新婦トハ花嫁ヲ云フゾ、姑トハシフトメヲ云フゾ、餉トハ朝夕ノ飯ゾ、老翁ハ小兒ニ食物ヲク、ムルゾ、順ノ次第ヲ云フゾ、林際錄ニ、新婦禪老婆禪ト云フコトアリ、臨濟河陽木塔二老、宿在僧堂地爐内坐、因説曰、普化在街市云々、語未了、普化入來、指云、河陽新婦子、木塔老婆、禪林際小、斯兒却具二隻眼、谷モ悟徹ノ人ナレバ、此ニ之ヲ引クゾ、

田中啼鳥自四時、催人脱袴著新衣。

言第二聯、啼鳥四時催人著新衣、於農務之時、聞之、尤有感慨、言フハ、布穀ト云フ鳥ハ、カクノ如ク時刻ヲ知ツテ人ヲ催スゾ、種蒔鳥ト云フゾ、

著新替舊亦不惡、去年租重無袴著。

言第三聯所以答禽也。去年指元豐三年也。不惡。晉書列女傳。王凝之妻謝道韞。初適。凝之不樂而還。父。安。即謝安兄也。曰。王郎逸少子。不惡。汝何恨也。●梅聖俞作四禽言云々。四禽言。其下注。則竹鷓也。婆餅焦也。提胡盧也。杜鵑也。其詩一曰。泥滑滑。苦竹岡。雨蕭蕭。馬上郎。馬蹄凌兢雨又急。此鳥爲君應斷腸。其二曰。婆餅焦。兒不食。爾父向何之。爾母山頭化爲石。山頭化石可奈何。遂作微禽啼不息。其三曰。提胡盧。沽美酒。風爲賓。樹爲主。山花接亂目前開。勸爾今朝千萬壽。其四曰。不如歸去。春山云暮。萬木分參天。蜀天分何處。人言有翼可歸飛。安用悲啼向高樹。●東坡在黃州。日。效梅聖俞體。作五禽言。刺州鬼。脫布袴。鷓鴣。姑惡。黃鸝。山谷禽語。專取布穀而已。坡布穀詩云。南山昨夜雨。西溪不可渡。溪邊布穀兒。勸我脫破袴。不辭脫袴溪水深。水中照見催租癩。自注云。土人謂布穀爲脫却布袴。ト云々。此外四禽。坡集在之。谷先生詩大相類也。

●採蓮曲

耶溪勝景。此曲描盡得真。豈非曲中之雅奏也。

李太白

黃魯直云。余評李太白詩。如黃帝張樂於洞底之野。無首無尾。不主故常。非墨工製人所擬議。楊誠齋云。詩人之詩。唐云。李杜。宋言。蘇黃。蘇似李。黃似杜。蘇李之詩。子列子之御風。無待乎舟車也。黃杜之詩。靈均之乘桂舟。駕玉車云々。又李神於詩。杜聖於詩。●李白集四。採蓮曲。注。齊賢曰。秦川唱。採蓮歌。今競渡船唱。齊棹引笛。唱。採蓮。子。船頭刻爲獸頭。起齊景公。公造采蓮舟。令宮人採女。擗之。士贊曰。樂錄草木二十四曲。內有採蓮曲。齊賢曰。樂書採蓮之舞。衣紅繡短袖。暈裙雲鬢。乘綠船。持花。

訓讀 若耶溪傍採蓮の女。笑つて荷花を隔つて人と語る。日は新粧を照らして水底に明かに。風は香袖を飄して空中に擧がる。岸上誰が家の遊治郎。三三五五垂楊映。紫驢嘶入落花去。これをりて西踏空しく斷腸。

若耶溪傍採蓮女。

若耶溪在會稽山陰。

笑隔荷花共人語。日照新粧水底明。風飄香袖空中舉。

一句心。十贊曰。越絕書。薛燭對越王。曰。若耶之溪。出銅。今在會稽縣東南。北流二十五里。與鏡湖合。梁羊侃性豪侈。善音律。自造採蓮擘歌。其有新致。姬妾列侍。古樂府江南詞曰。江南可採蓮。二句。林子中湖州詩云。遙望芙蓉拍岸平。花深蕩槳不聞聲。萬家笑語荷花裡。知是人間極樂城。四句。曹子建詩曰。清風飄我衣。岸上誰家遊治郎。三三五五映垂楊。紫驢嘶入落花去。紫驢。馬名。見此躊躇空斷腸。躊躇。緩步不。

韻會云。妖冶女態也。山谷外集。鴈詩。有五五十之語。士贊曰。詩云。搔首踟躕。辛延年羽林郎詩。銀鞍何處。翠蓋空脚。蹶。魏文帝詩。念君客遊思斷腸。

●清江曲

首章形容江景之清幽。次章備言情懷之蕭散。

玉屑十四云。新安水西寺。寺依山背。下瞰長溪。太白題詩。斷句曰。檻外一條溪。幾回流碎月。今集無之。玉屑題云。逸詩。某謂清江曲亦逸詩歟。或說曰。清江曲李白之詩也。某謂分類補注李太白詩自一至三十五。不載此篇。漁隱後集四。會葦子固云。李白詩集二十卷。舊七百若干篇。今九百若干篇者。知制誥常山宋敏求字次道之所廣也。次道既以類廣。白詩。自爲序而未考。次其作之先後。余得。其書。考其先後。而次第之。蓋白蜀郡人。初隱岷山。出居湖漢之間。南遊江淮。至楚觀雲夢。雲夢許氏者。高宗時宰相師之家也。以女妻白。因留雲夢。者三年。去之齊魯。居徂徠竹溪。入吳至長安。明皇聞其名。召見。以爲翰林供奉。頃之不。合去。北抵趙魏燕晉。西至。